

(四七一)

○一首の意　かくの如く短き契のみにてありけるものを、女も我も、千歳も共に眞幸くてあらむが如くに思ひ憑みてありたることよとはかなき世間の無常をかこちたるなり。

離家伊麻須吾妹乎停不得山隱都禮情神毛奈思

○離家　舊訓「イヘサカリ」とよみたるを童蒙抄に「イヘヲハナレ」とよめり。「イヘサカリイマス」といへる例は卷五七九四に「加多良比斯許呂會牟企且伊弊社可利伊麻須」あり。さればわざと字餘りによむべきにあらず。舊訓のまゝにてよしとす。家を遠ざかりての意なり。

○伊麻須吾妹乎　「イマスワギモヲ」とよむ。さてこの「イマス」を槻落葉に「往ます也」といひ、古義には「行座」といふが如しといひ、攷證に「往ますといふ也」といひたり。然れども「います」といふ語に「行ク往ヌ」といふ意の存することの説明なし。こは如何に考へても「行ク往ヌ」といふ語と同じ意の語とは信じ難し。若し「イ」といふを一の用言と見るにか。然らばこれは如何に活用する語なるか。かゝる語、古にも見ず、今も聞かざるものなり。されば、上の諸説皆非なりとすべし。これは上の「家離り」にて、家を離れて或る所に行きたるを既に示せるものなれば、特に「行ク往ヌ」といはずしても明かなるものなり。されば「います」はたゞの「います」にて意不十分ならざるものなりとす。「吾妹」は上に屢いへり。

○停不得　寛永本の假名不十分なれど、拾穂抄に見る如く「トバメカネ」とよめりしものと思はる。童蒙抄は「トバメエズ」とよめり。槻落葉は「トバメカネ」とよみ攷證古義之に同じ。かくてこの

よみ方は「停」のよみ方と「不得」のよみ方とに分ちて研究する要あり。「停」は今普通には下二段活用なれば「トバメ」とあるは當然といふべし。然るに既に諸家の論ずる如くに、卷五八〇四に「等伎能佐迦利乎等々尾迦禰周具斯野利都禮」又八〇五に「等尾可禰都母」又八七四に「由久布禰乎布利等騰尾加禰」といふはみなこの訓み方の例とする所のものなり。又卷九一七八〇に「夕鹽之滿乃登等美爾」とあるは「トバム」の連用形の居體言となれるものなり。然する時はこの「トバミ」といふ用言は「行」四段活用をなすもの如く見ゆ。されど、その活用としてはこの「トバミ」のみなればかく斷言すること困難なりとす。これにつきては槻落葉、古義は説明なく、攷證のみは「み」とめと普通へばとゞめといふに同じといへり。然らば「とゞめかね」といへる例無きかといふに、卷十九四一六〇に「爾波多豆美流滯等騰米可禰都母」卷十七四〇〇八に「奈氣可久乎等騰米毛可禰底」などあり。その他「等杼米且」卷十八四〇八五「留目六」卷四七〇八「等杼米且」(卷十五三六二七)「等騰米之」卷二十四四〇八「留流」卷十一二六一七「等登牟流」(卷十一二六一七)「等登牟流」(卷十八四〇三六)等あり。今これらの例を通じて見れば、これは「トバメ」の場合下二段活用なることは著しきものなれど「トバミ」の場合は四段活用なりとすべき確證なきのみならず、諸家の説もただ「トバメ」の音の轉じて「ミ」となれるのみといふ如きなり。この説によらば「トバミ」の方は雅言にあらずして一時的現象たる訛言なりといはざるべからず。次に「不得」は「エズ」とよみうべきものにして、既に卷二二〇七の「聞而有不得者」二二〇「二三」の「背之不得者」の「不得者」を「エネバ」とよみ來れるが上に、しかよむ外あるまじく、又この卷にては「四六一」の



「留不得壽爾之在者の不得も、エヌ」とよむ外あるまじきものなり。この外「不得」を從來「エズ、エヌ」とよめるもの多く、それらは皆その外により方あるまじき所なり。然るに一方には又「不得」をこの如く「カネ」と讀みたる例少からず。それらのうちには「エズ」とよみて差支なきものも少からねど、又「カネ」とよまではあらぬ所もあることはこの卷の「三九七」の「根深目手結之情忘不得裳」の下にいへるが如し。されば、二者共にありうべきことにして意も大差なし。さらば、ここはいかにすべきかといふに、上にいへる「トドメカネ」の例の多きにつれて、ここも「カネ」の方による方よからむと思はる。

○山隠都禮 舊訓「ヤマカクレツレ」とよみたるが、楓落葉は「ヤマカクシツレ」とよみ、略解は「ヤマガクリツレ」とよめり。楓落葉にはその理由を示さざれど、「吾妹乎」とあるに對するものとしたるならむ。されど、「吾妹乎の乎」は「停」にかゝりてその用をはしたるものにして、ここは「吾妹が山に隠れたれば」といふ意なるべければ、舊訓の方まされり。但し、古語には「カクル」は四段活用なりしこと既に説きたる如くなれば、略解のよみ方をよしとす。さてこの「都禮」の已然形はそれにて下に接続して條件を示すものにして後世の語法にては「つれば」といふべき所にして、こは古の語法の一格なりしこと上に屢いへる所なり。

○情神毛 舊訓「タマシヒモナシ」とよめり。玉の小琴は田中道麻呂の説とて「コ、ロトモナシ」とよむべしとせり。「タマシヒ」といふ語も本集に例なきにあらねど、ここにては、かくよみては意十分に通らず。「ココロドモナシ」とよむ語の例はこの卷「四五七」の「君師不座者心神毛奈思」の下

にいへる如くなれば、こもそれに同じ趣の意として「ココロドモナシ」とよむこととせり。その語意も「四五七」の下に説けるに同じ。

○一首の意 家を出で離れています妹をとどめむとしたれども停めかねて、妹が山に隠れはてたれば、その歎き愁へにまどひ、われは心のありどころもしらずとなり。

(四七二)

世間之常如此耳跡、可都知跡、痛情者、不忍都毛。

○世間之 舊訓「ヨノナカノ」とよみたるを略解に「ヨノナカシ」とよめり。これは「世間」シ常如此耳」といふ關係になるものにして、「シ」といへる方感動を寓すること深きなり。

○常如此耳跡 ツネカクノミト」とよむ。これは「世間」シ常如此耳「有ケル」などの語を略するかといふにて一の句をなすを「ト」にて受けたるものなり。世間といふものは常にかくはかなくのみあるものと云々の意なり。

○可都知跡 「カツシレド」とよむ。「カツ」の語の用例は卷八「一六二六」に「妹之形見跡可都毛思怒播武卷四五四三」に「安蘇蘇二破且者雖知」などあり。この語の意は攷證に「宣長云、かつはこの事をなしながらかの事をもし、あるは、この事のあるに、かの事もはじまるやうの所につかふ詞也云々」といはれつる如く、こは世の中をば、常にかくばかり、はかなきものなりとはしれどもといふ意也といひ、略解は「さてしれど、かつと心得べし」といへり。

○痛情者 舊訓「イタムコ、ロハ」とよめり。童蒙抄は「イタキコ、ロハ」とよみ、楓落葉、略解、古義、攷



證等は皆しかよめり。按ずるに「痛字はイタキともイタムともよむべきが故に、そのみにて直ちに可否をいふべからねど、上にもいへる如く、心に對しては専ら「イタシ」といへるが故に、イタキの方によるべし。卷二十四三〇七に「秋等伊弊波許已呂會伊多伎」四四八三に「許已呂伊多久牟可之能比等之於毛保由流加母」卷十七四〇〇六に「則許母倍婆許已呂志伊多思」卷八一五一一三に「春日山黄葉家良思吾情痛之」卷十三三三一四に「曾許思爾心之痛之」など皆その傍例たり。その意は上の長歌の「曾已所痛の下にいへるに相同じ。

○不忍都毛 舊訓「シノビカネツモ」とよみ、考は「不の下に」都を加へて「シヌビカネツモ」とよめり。代匠記は「不の字の下に得の字を脱せるか。或は忍不得なるべし。今のまゝにては義通せず」といひ、次いで考が「得の字を加へてより楓落葉略解古義攻證等皆之に隨へり。然るに童蒙抄は「或抄得の字を脱したるかといへり。さもあるべきか」といひたるが、なほ別に「不の字計にても此集中かねると讀めること多し」といひたり。然れども、楓落葉は「不忍の二字のみにてはかねとよむ字なし。故私に得の字を補つ」といへり。さて按ずるに、諸本一も文字に異同なければ漫に誤脱ありと論ずべからず。しかも亦「不をかぬ」とよむべき所はここ一所に止まれり。されど「不忍の二字を義訓として、忍びかぬにあつることは「不の字義によりて不合理なり」といふべからず。さればここに脱字ありといふことは首肯すべからず。さて「シノビカ」シヌビカといふにこれは上に屢いひ來れる如く、シヌビカネツモ」とよむべきなり。「シヌビ」の意は既に屢いへり。

○一首の意 世間といふものは常に老少不定無常迅速のはかなきものとは且つは知りながらも、しかも悲み歎きに痛き情は忍びがたきことなるよとなり。

(四七三)

佐保山爾多奈引霞每見妹乎思出不泣日者無

○佐保山爾 「サホヤマニ」なり。「サホ山は上四六〇にいふ佐保乃山」なるが、次の歌によればそこに亡妾を葬りしなり。恐らくは大作家の墓地ありしにあらざるか。

○多奈引霞 「タナビクカスミ」なり。代匠記に曰はく「霞を春秋に通して讀こと、第二に磐之媛の御歌に註せしが如し。霞はうるはしきに付てもはかなきに付ても思ひ出べし。古今にもかすくゝに我を忘ぬ物ならば山の霞をあはれとは見よ」といへり。さる事なり。攷證に「こは霞を見て火葬の煙を思ひ出し也」といひ、略解古義等皆同じ説なれど、これは穿ち過ぎたる説にして特にさる事のことわれるは別としてその墓のある山にたなびく霞にて亡き人を思ひ出づるは自然の人情なり。必ず火葬の煙を思ひ出づといふべきにあらず。

○每見 「ミルゴトニ」とよむ。「毎の字は卷二一三二以下に屢見ゆ。意明かなり。

○妹乎思出 舊訓「イモヲオモヒイデ」とよみたれど、九字の一句は長きに過ぐ。童蒙抄には「イモヲオモヒデ」とし、考は「イモヲオモヒデテ」とし、略解は「イモヲオモヒデテ」とせり。これは日本書紀仁徳卷の御歌に「望苦弊破枳瀾鳥於望臂泥須惠弊破伊暮鳥於望比泥」卷二十四三九八に「波呂波呂爾伊弊乎於毛比濕於比會箭乃會與等奈流麻涅奈氣吉都流香母」などの例によりて「オモヒ



デとよむべきものなり。意明かなり。  
 ○不泣日者無「ナカヌヒハナシ」とよむ。意明かなり。  
 ○一首の意明かなり。佐保山にたなびく霞を見る毎に亡き妾を思ひ出でて泣かぬ日とは無しとなり。言簡易にして意甚だ深し。上乘の歌と評すべし。

(四七四)

昔許曾外爾毛見之加吾妹子之奥柳常念者波之吉佐寶山。

○昔許曾「ムカシコソ」とよむ。意明かなるがこの昔は現在以前をいへるにて遠き昔の意にあらず。

○外爾毛見之加「ヨソニモミシカ」とよむ。「外」を「ヨソ」とよむことは卷二「一七四」の外爾見之檀乃岡毛君座者常都御門跡侍宿爲鴨の下にいへり。「ヨソニミシ」の意も上の歌に准じて知るべし。以前は我に關はりなきものと見たりしとなり。「シカ」は「コソ」の係に對する終止たり。ここに一段落とす。

○吾妹子之「ワギモコガ」とよむ。意明かなり。

○奥柳常念者 舊訓「オキツキトオモヘバ」とよめり。代匠記は奥柳をば袖中抄に「おくつき」とよめるをあげて「袖中抄のよみ日本紀に叶へり」といへり。これを槻落葉は「オクヅキ」とよみ、略解致證、古義は「オクツキ」とよめり。日本紀に「オクツキ」といふ語の假名書の例あることはなければ、この語の事は既に上の「四三一」に論じたる所なり。さればここも「オクツキ」とよむべきなり。

「オモヘバ」「モヘバ」いづれも不可なきが故に、舊訓を改むる必要なし。意明かなり。

○波之吉佐寶山 「ハシキサホヤマ」とよむこと論なし。「ハシキ」といふ語は卷二「一一三」の「波思吉香聞」「二〇」の「愛伎妻等者」などの下に屢いへり。「サホヤマ」を「佐寶山」とかけるは、懷風藻に長屋王のサホなる宅を寶宅といひ、そのの樓を作寶樓とかけるなど、好みて「寶」の字を用るしものと見ゆ。

○一首の意 この歌二段落なり。第一段落は佐保山を以前は我に何のかゝはりもなく見たりしとなり。第二段落は然るに今は、吾妹子の墓所と思へば愛すべく、なつかしくうるはしき山と思ふとなり。表面、理窟にとらはれたるが如くにして實は情緒の纏綿たる歌なり。佳作と評すべし。

十六年甲申春二月、安積皇子薨之時、内舍人大伴宿禰家持作歌六首

○十六年甲申春二月 これは天平十六年なり。槻落葉はこの上に「天平」の二字脱すとせり。されど、上の「十一年己卯云々」「四六一」の題詞「七年乙亥云々」「四六〇」の題詞「いづれも年號の字なし。而してそは天平三年辛未秋七月云々」「四五四」の題詞の引きつゞきなること著しければ加ふるに及ばじ。さてこは安積皇子の薨去の時を示せるなるが、この皇子の薨去は續紀によるに、十六年閏正月のことなり。即ち閏正月朔は乙丑にして、その丁丑十三日に薨せられしなり。然るに、ここに「二月」とあるは續紀と一致せず。これは續紀の誤か、この集の誤か。この集の誤と



しても、正月の寫誤とはいふべからず。或は當時の曆法不正確にして、閏正月を二月としたるを後に曆法を正して續紀に訂せるか。今の續日本紀の前半は二回の編輯を経たるものなれば、かゝる事なしとすべからず。三正綜覽によるにこの年の閏は唐曆にては二月にあり、然らば、續紀の閏正月は二月といふべきに似たり。されど、かゝる事は容易くいふべき事にあらず。かくて更に考ふるに、この二月を薨じ給ひし時とする時は次の作歌の二月三日と牴觸すべし。即ち閏正月十三日の薨去を二月十三日とせば薨去前にこの歌をよめりとする不合理を生ず。この故に薨去は閏正月十三日なることは史の如く誤りなしとして、この歌をよみたるが、二月なる故に二月とかけりとせば、その不合理はかたづくべし。されど、然する時は後の三首は三月の作なれば、ここに又不合理を生ずる點あり。之を如何にすべきか。按ずるにこれはなほ閏正月の薨去にして先づこの歌をよみたるは二月にして、三月のは更に追加したるが故に、はじめのまゝに、二月としておきたるものなるべし。

○安積皇子 この御名「アサカ」とよむべし。この皇子は聖武天皇の御子にして、天平十六年閏正月乙丑朔丁丑の日に薨去せられし事續日本紀に見ゆ。その記事に曰はく、

乙亥、天皇行幸難波宮(中略)是日安積親王緣脚病從櫻井頓宮還。丁丑薨。時年十七。遣從四位下大市王紀朝臣飯麻呂等監護葬事。親王、天皇之皇子也。母、夫人正三位縣犬養宿禰廣刀自、從五位下唐之女也。

と見ゆ。この皇子は皇太子にも立ちてましますべかりしを御母藤原氏ならざりしが故に立

ち得たまはず、藤原氏の出なる皇女阿部内親王(孝謙天皇なり。天平十年皇太子に立ちたまふ。時に御年二十一)皇太子に立ちましましなり。當時の時勢の變調なりしことを見るべく、家持のこの挽歌もその心して味ふべきものと思はる。ここにある櫻井頓宮は蓋し、河内國河内郡櫻井郷に在りしものにして、今、六萬寺といふが、その頓宮のありし所ならむといふ。

○内舍人 今、普通に「ウドネリ」といへど、ここは正しく「ウチノトネリ」とよむべし。この職は中務省に屬し定員九十人ありて大寶令には

掌帶刀宿衛供奉雜使若駕行 分衛前後

とありて、専ら宮中にありて至尊の側近に奉仕警衛し奉るを任とせり。

○大伴宿禰 この人の事は今更にいはず。この内舍人なりしことは集中にはなほ卷六、卷八、卷十七に見えたるが、その年次を見るに、最も古きは天平十年(卷八、一五九一)にして最も新しきはここ天平十六年なり。而して天平十二年(卷六、一〇二九)天平十三年(卷十七、三九一三)天平十五年(卷六、一〇三七)にいづれも内舍人とあり。されば少くとも天平十年より十六年まで七ケ年間は内舍人たりしなり。而して家持と安積親王との交は如何と見るに、卷六、天平十五年癸未の條中に

安積親王宴左少辨藤原八束朝臣家之日、内舍人大伴宿禰家持作歌一首

久堅乃雨者零敷念子之屋戸爾今夜者明而將去。(一〇四〇)

といふ歌あり。藤原八束朝臣は房前の子にして後に改めたる眞楯の名を以て知られたる人



なり。この歌にいふ、念子は普通に、その宅の主人八束をさすとせり。この時八束は年廿八歳、家持は上にいへる年齢として、二十六歳なり。而して安積親王は十六歳にましませり。念ふ子とは或はこの親王をさし奉るにあらざるか、そはとにかくにこの卷六の歌によりて家持が安積皇子に特に親しみ奉りし事實の存せしを見るべきなり。

○六首 これ二月三日に作れる長歌一首反歌二首と三月二十四日作れる長歌一首反歌二首を合せていへるものなるが、題詞にかく書けるは、本集としては極めたる異例にして、卷一、卷二の常例による時は、作歌二首并短歌とあるべきものなりとす。

(四七五)

掛卷母綾爾恐之言卷毛齋忌志伎可物吾王御子乃命萬代爾食賜麻思大  
日本久邇乃京者打靡春去奴禮婆山邊爾波花咲乎爲里河湍爾波年魚小  
狹走彌日異榮時爾逆言之狂言登加聞白細爾舍人裝束而和豆香山御輿  
立之而久堅乃天所知奴禮展轉渥打雖泣將爲須便毛奈思

○掛卷母 「カケマクモ」とよむ。この語は卷二一九九の「挂文忌之伎鴨」の下にいへり。

○綾爾恐之 「アヤニカシコシ」とよむ。この語も卷二一九九の「綾爾畏伎」の下にいへるに同じ。たゞ、ここはここにて終止せるを異なりとす。

○言卷毛 「イハマクモ」とよむ。この語の用例は卷六九四八に「決卷毛綾爾恐言卷毛湯湯敷有跡」とあるあり。「イハムコトモ」の意なること、カケマクモの例におなじ。

○齋忌志伎可物 舊訓「イハ、シカモ」とよみたれど、かゝる語古今に例を知らねば随ひがたし。代匠記には「ゆゝしきかもと讀べし」といひ、童蒙抄以下これに随へり。「ゆゆしきかも」といへる語は卷二一九九の「挂文忌之伎鴨」の下に委しくいへり。齋忌を「ユ、シ」とよむ意も彼處にいへるが、なほいはゞ、卷十五三六〇三に「湯種葎忌忌伎美爾故悲和多流香母」の「忌忌」を「ゆゝし」とよみ、卷十二二八九三の「忌忌久毛吾者歎鶴鴨」の「忌忌久」を「ゆゝしく」とよめるが如く、齋も「忌」も「イム」意なれば、二字をあはせてかくいへるなり。そはたとへば、「イハヒヘ」を「齋戸」(卷三三七九、四二〇)等と書き、「忌戸」(卷十三三二一八八)とも書き、又「齋忌戸」(卷三四四三)ともかくが如き關係なりとす。

以上四句全篇の冒頭なるが、かの卷二一九九の「挂文忌之伎鴨」を四句の形にしたる姿なり。

○吾王 舊訓「ワカオホキミノ」とよみたれど、考はただ「ワガオホキミ」とよめり。これは、卷一、以來頻繁に例ある語にして、ここは安積皇子をさし奉れるなり。

○御子乃命 舊訓「ミコノミコトノ」とよみたり。考に「ミコノミコト」とよみて、「ノ」を加へず、これより後、楓落葉、略解、古義等これに随へり。ここは、かの卷一四五の「八隅知之吾大王高照日之皇子」と四句にせるを二句にていへるにて、文法上の格は同等なれば、考のよみ方に随ひて可なり。「みこのみこと」は「日雙斯皇子命」(卷一四九卷二一六七)の場合、皇太子の尊稱と見えたるが、ここは皇太子にはましまさざりしかど家持の心には重く思ひ奉りしものと思はる。



○萬代爾 ヨロヅヨニとよむ。この語の例卷一「八〇」に既にありて、そこにいへるにて明かなり。  
 ○食賜麻思 舊訓メシタマハマシとよめり。代匠記に「ヲシタマハマシ」とよみ古義これに隨へり。按ずるに「食」を「袁須」とよむことは日本書紀の自注にあれば誤とすべからず。又本集卷十六「三八五三」の「夏瘦爾吉跡云物會武奈伎取食」の「食」に自ら注して「賣世反也」とあれば、本集の「食」を「メス」とよむも誤にあらず。かくてここは天下を開食す意の所なれば、その方面よりして「ヲスよきかメスよきかを決せざるべからず。さて賜フにつゞくる語例を見るに「ヲシ賜フ」とよむべき例は一も無く「メシタマフ」といへるは卷一「五〇」の「食國乎賣之賜牟登」五二の「壇安乃堤上爾在立之見之賜者」等の下に説ける如く例少からず。かくて「メス」とよむを適當とすべきを見る。その意は卷一の諸例の下にいへるにおなじ。「メシタマハマシ」の「マシ」は連體形にして、直ちに大日本久邇乃京につゞくものにして、その關係は卷一「一七一」の「高光我日皇子乃萬代爾國所知麻之島宮婆母」の「麻之」におなじ。

○大日本 オホヤマトとよむ。オホヤマトといふ時は、わが皇國の總稱ともなり、又今の奈良縣なる大和國をもさすことあれど、次の久邇乃京は山城國なれば、ここは皇國の義の「オホヤマト」なり。さてかく「大日本」といふ文字を用ゐて皇國をさせるは、これや初見なるべき。

○久邇乃京者 クニノミヤコハとよむ。これは今の山城國相樂郡木津村の地に營まれし舊都なり。この都は天平十二年十二月に遽かに遷られし宮城にして、翌十三年正月この宮にて朝を受けたまひしが、當時宮垣未だ成らず、繞らすに帷帳を以てせられし由續日本紀に見え、なほ

同年十一月の記事に曰はく

右大臣橘宿禰諸兄奏曰、此間朝廷以何名號傳於萬代天皇。勅曰、號爲大養德恭仁大宮也と見えたり。これ即ちここに「オホヤマトクニノミヤコ」といへる典據なりとす。かくて翌十四年正月には大極殿未だ成らざるを以て權に四阿殿をつくり、ここにて朝を受けましぬる由、これまた續日本紀に見ゆ。天平十六年正月には百官を會して、恭仁難波二京の何れを都と定むべきかを問はせ賜ひ、又市人にも問はせ賜ひしが、百官の説は可否略半し、市人は殆どすべて、恭仁京を都とせむと願ひし由なるが、二月には遂に難波宮を皇都とせられ、天平十七年にはまた平城宮に還られ、十八年九月には恭仁宮の大極殿を國分寺に施入せられたれば、五年許の間、の帝都たりしなり。今、この歌は天平十六年二月なれば、聖武天皇は難波宮にましまし、恭仁宮には知太政官事鈴鹿王等が留守官たりし時なり。

○打靡 舊訓ウチナビキとよめるを代匠記に「ウチナビク」とよめるより諸家之に隨へり。按ずるにこれは枕詞にして、用言が枕詞たる時は終止形よりする例なれば「ウチナビク」をよしとすべし。而してその假名書の例として卷五「八二六」に「有知奈毗久波流能也奈宜等」卷二十「四三六」に「宇知奈毗久春初波」卷二十にはなほ二例ありあるにて明かなり。これは春になれば、草木とも若くのびいで、なよ／＼とうちなびくものなれば、かくいひて枕詞とせりと思はる。

○春去奴禮婆 ハルサリヌレバとよむ。考は「奴」は「玖」の誤なりとして、ハルサリクレバとせり。然れど、さる字を書ける本一もなければ、隨ひ難く、卷十一「八三六」に「霞田菜引春去爾來」といふ例



もあれば、もとのまゝにてよきなり。「春サル」といふ語は卷一、一六の「春去來者」の下にいへるにおなじ。

○山邊爾波 ヤマベニハとよむ。楓落葉はヤマベニハとよみたれど、舊訓によるべし。この語も、卷二、一五七の「山邊眞蘇木綿」に例ありてここにいへるにおなじ。恭仁京の地は高からねど、四面に山近くめぐれる地なり。

○花咲乎爲里 舊訓ハナサキヲセリとよめるを考に、爲は鳥の誤として、ハナサキヲ、リとよめり。このヲ、リといふ語は卷二、一九六の「打橋生乎爲禮流川藻毛叙云々」の乎爲禮流の基たる語にして、ここにて既に論ぜる如く、必ずしも爲を鳥の誤ともいひ難きが、ヲセリにあらざしてヲ、リなることは勿論なり。その意は花のしげく咲ける形容たることと見ゆ。

○河湍爾波 カハセニハとよむ。湍をセとよむことは卷一、五四の「許湍乃春野乎」の湍におなじ。この河セは古の泉河今いふ木津河の川瀬なり。

○年魚小狹走 アユコサバシリとよむ。考は、小字を子と改めたり。されど、さる本一もなし。子も國語にて、小の意なるものなれば、畢竟同義なり、改むる必要なし。年魚を、アユとよむことはこの卷二、二七一の「年魚市方」の條にいへるが、こゝは實際の魚なり。さて、アユコサバシルといへる例は卷五、八五九に「加波度爾波阿由故佐婆斯留」卷十九、四一五六に「河瀬爾年魚兒狹走」といふあり。さてこの子は歌詞として加へしものか、又は實際の鮎子なるかの問題あり。先づ卷五の「阿由故佐婆斯留」とある歌は娘等更報歌三首の中なるが、その上の八五八の歌に「和可由都

流」とあり、その上なる蓬客等更報歌三首の第三首八五七には「和可由都流」とあり、さればこの「年魚子」は若鮎なること著し。又卷十九のはそのはじめに「春去者花耳爾保布云々」とありて、左注に「季春三月九日擬出學之政行於舊江村道上屬目物花之詠并興中所作之歌」とありて、天平勝寶二年三月中の詠なりとす。されば、これらはいづれも春の詠にして、若鮎をさせり。若鮎は春より初夏までの時期にして、體小く、小動物を食とする時期にして、味も佳ならず、鮎は盛夏よりは成熟しては動物を食とせず、體また肥大す。その若鮎を「アユコ」といへるは自然のさまを知れる語にして當然なりとす。さばしるは上に例をあげたり。さは接頭辭にして「はしる」といふ語に、鋭くこまかき感じを添ふる意あり。若鮎の勢、鋭く水中を走るさまをよくいひあらはせる語と思はる。而して鮎は又木津川の名産なり。

○彌日異 イヤヒケニとよみて異説なし。この語の假名書の例は卷二十、四五〇四に「伊也比家爾伎末勢和我世古多由流日奈之爾」といふあり。又こゝと同じ書きざまなる例は卷十一、二七〇二に「彌日異戀乃増者在勝申自」などあり。この語はヒニケニといふ語と基を同じくして、それに、イヤを冠して一語の如くにしたるものなり。ヒニケニといふは卷十五、三六五九に「安伎可是波比爾家爾布伎奴」卷十三、三三二〇に「妾戀叙日爾異爾益」などの例にて知るべし。「異」の字をケニとよむことは卷十、二二九五「我屋戸之田葛葉日殊色付奴」卷十一、二五九六の「如是耳戀也度月日殊」の殊をケニとよむに同じく、このケニは元來卷二十四、三〇七の「秋等伊弊婆許已呂曾伊多伎宇多」且家爾花爾奈蘇倍且見麻久保里香聞」の家爾にして今の「コトニ」の意にして、卷十二、



一六六の浪間從鳥音異鳴秋過良之卷十二二九四九の得田價異心鬱悒卷十三三三二八の衣袖大分青馬之嘶音情有異常從異鳴の異の字はその本義に用ゐたるものなり。ここはそのケニといふ異字をば、卷一六〇の氣長妹卷二八五の氣長成奴九〇の氣長久成奴この卷二六三の氣並而見氏毛和我歸志賀爾安良七國の氣即ち日數の經過の意のケに借り用ゐたるなり。かくて日に氣には日に日ににといふに近き意なるをその上に彌といふ副詞を冠せしめたるものにして、いやひにけにといふべきを口調の爲に約めて、イヤヒケニといへるなり。このいやといふ語は卷二二二の彌年放の下にいへる如く一の副詞にしてこの語の本意は榮ゆるにかかるものと思はれたり。即ちいよいよ日に氣に榮ゆる時にといふ意なり。從來イヤをヒケニに直ちにつづくとせるは誤れるものなり。

○榮時爾 サカユルトキニとよむ。彌々益々榮ゆる時にといふなり。

○逆言之 舊訓サカコトフとよめるを考に、オヨヅレノとよみてより諸家皆之に隨へり。この語は上の四二一の逆言之狂言等可聞の下に既に述べたる所なり。ここもそれとおなじく、オヨヅレノとよむべく、意もそこにいへるにおなじ。

○狂言登加母 タハゴトトカモとよむ。この語上の四二一の狂言等可聞とあるに同じければ、そこを見るべし。而してこのカモは疑問の助詞にして係り詞たるものなり。

○白細爾 シロタヘニとよむ。白細をシロタヘとよむことは上四六〇の白細之衣袖不干の條にいへり。ここは白き装束を舍人がつけたる由にいへるなれば、白き袴(織物の名)の衣にとい

ふ意なり。

○舍人装束而 トネリヨソヒテとよむ。舍人の事は卷二一七一等の題詞にいへり。ここは皇太子にましまさぬによりて、令制には舍人の文字を用ゐずして帳内の文字を用ゐる。されど、國語にては同じくトネリといへり。軍防令によるに、帳内は一品に一百六十人、二品に一百四十人、三品に一百二十人、四品に一百人なり。安積皇子の品位明かならねば、その數いふを得ず。帳内は六位以下の子及び庶人を取りて充てらるゝ規定なり。装束をヨソヒとよむことは卷二一九九の神宮爾裝束奉而の條にいへり。舍人が白細の衣に装束ひてといふにて、これは素服をつけたるにて葬事を營むことをいへるなり。

○和豆香山 ワツカヤマとよむ。ワツカは山城國相樂郡にありて後に和東柚郷(興福寺官務牒)といひ、後又和東莊ともいひて北野社領となれり。和東莊といふは、木屋、柚山、撰原、下鳴、南釜塚、中門前、湯船、原山、園別所、白栖、石寺、田村、新田の諸村を含める由山城志にいへるが、その地は今、湯船、東和東、西和東、中和東の四村に分れたり。この地は久邇京の東北にあたる山中にありて、北は綴喜郡と近江の甲賀郡とに堺せり。ここに和豆香山とあるは、この山中に安積皇子の御墓を營みて葬り奉りし由なり。その御墓は今の西和東村大字白栖の東、大勘定にありて陸地測量部の五萬分一地圖にも之を標せり。その所在は古の恭仁京の北邊より和東川(一名布當川)を溯りて和東莊の山中に入りてその川より北の側の山中にあり。されど、歌にては一帯にこの山間に入りませる由にいへるものなるべし。



○御輿立之而 舊訓「ミコシタテシテ」とよみたり。考は「ミコシタタシテ」とよみたるが、それより後の諸家皆これによれり。舊訓による時は「ミコシタテ」といふことをして「といふ意に解すべきが、みこしたて」といふこと古今に聞く所なし。「ミコシタタシテ」といふ語は他に例なければ、卷一「四九」の「御獵立師斯時者來向」卷三「二三九」の「馬並而三獵立流云々」卷十九「四一九〇」に「和我勢故波宇河波多多佐禰など體言に直ちにつゞけたる例あれば、ミコシタタシテ」とよむこと不合理ならざるのみならず、ここは「タチタマヒテ」の意なるべきによりて「タタシテ」とよむをよしとす。さて「御輿」といふはここは御葬儀の御輿なること明かなり。これを考に「葬車」といひ、略解に御葬の「くるまなり」といひ、攷證は日本書紀孝德天皇卷に皇子以上には輻車を用ゐ、臣下には輿を用ゐる制あり、喪葬令にも親王大臣も輻車を用ゐらるゝ規定なるにここに輿とあるは、御身皇子におはしませど、臣下のなみに輿にて送り奉りしにてもあるべし」といへり。然れども、令のこの規定は支那の法文により定められしものなるべくして、古來の大葬には必ず輦を用ゐられしを見れば、こしの方古儀たるを見るべし。ことに和東の山中は車の通ふべき所にあらずるはいふまでもなし。次に「タタシテ」は攷證に「在立之などいふ立と同じく、そこに立やすらふをいひて、ここは輿をとゞむる也。今も駕をとゞむるを立るといふに同じ」といへり。

○久堅乃ヒサカタノとよみ天の枕詞なること上に屢いでたり。

○天所知奴禮 舊訓「アメシラヌレ」とよみたれど、楓落葉に「アメジラシヌレ」とよみ、後諸家皆之に同じ。「所知」を「シラス」とよむことは卷二「一七一」の「國所知麻之」等例多く、ここに似たる語は卷

二「二一〇」の「又堅之天所知流君故爾日月毛不知戀渡鴨」といふ例あり。語の意はそこにもいへる如く、字義のまゝにいへば天を領したまへりと云ふ事なるが、事實は薨去即ち神去りまして天に止まり給ふといふ事なるべきなり。さてここに「奴禮」とあるは、已然形にしてこれにて、條件を示して下に接続すること、後世ならば「ぬれば」といふべき所なり。この語格は上「四七一」の「山隱都禮」におなじ。

○展轉 舊訓「コヒマロヒ」とかけるを代匠記に「コイマロヒ」とし、童蒙抄に「フシマロヒ」とせり。さてこの「展轉」といふ熟字は詩經周南關雎の章に「悠哉悠哉輾轉反側」の「輾轉」と同じき語にして毛詩鄭箋には「輾本亦作展」とあるなり。かくて詩經の道春點のよみ方は「フシマロヒ」とよめり。童蒙抄の訓は蓋しこれに基づくものならむ。さて「マロブ」といふ語の假名書の例は本集には見えねど、催馬樂の總角に「まろびあひにけり」とあり、轉字は「マロブ」とよむべき字たることは類聚名義抄に「マロバヌ」の訓あるにて知るべし。さて「フシマロヒ」とよむべきかといふに、「フス」といふ語に似たる語に「コユ」といふあり。これは卷十七「三九六九」に「宇知奈妣伎登許爾己伊布之」三「九六二」に「宇知奈妣伎等許爾許伊布之」卷十九「四二一四」に「玉藻成靡許伊伏」又卷五「八八六」に「等許自母能宇知許伊布志提」などあり。この「こい」は「こゆ」といふ上二段活用語の連用形にして、この語は「臥す」といふことの古語と見ゆれど、「コイフシ」とつづけるを見れば、「ふし」と似て又別の意ある語なるべし。これは恐らくは反轉の意ありてたふれふす如き意ありと思ゆ。かくてここは上の諸例によりて「コイマロヒ」とよむべきものなるべし。舊訓の「コヒ」は假名遣の誤



たり。

○壘打雖泣 「壘」の字流布本「泥土」の二字とせり。されど、多くの古寫本及び活字無訓本に「壘」の一字とせり。流布本は蓋し、活字附訓本に二字とせるに基づくものならむ。「壘打」を「ヒヅチ」とよむことは卷二、一九四の「玉藻者壘打」によりて證すべく、「ヒヅチナケドモ」の例は卷十三、三二六に「展轉土打哭杼母」あり。「ヒヅチ」の意諸家の説はたとへば攷證に「ふしまろびて涙に衣をひたし泣ども云々」といへるが如き意とするものなれど、「ヒヅチ」は既にいへる如く、ただぬれ漬る事にあらざれば、説明不十分なり。ここは既にいへる如く、泥打つの意に衣の濡れ汚るゝことなり。ここは勿論衣の濡れ汚るゝことなれど、「ひづち」といふ語の本意ことなれば、それより受くる感じも亦おのづから異なるべきものなり。

○將爲須便毛奈思 「セムスベモナシ」とよむこと及びその意は上、四六六の「將爲須辨毛奈思」におなじ。

○一首の意 心にかけて思ひ奉らむだにも思慮に絶して畏きことなるかな。語にて申し奉らむだにも思ひ憚るべく恐れ多きことなるかな。わが大君、安積皇子の命の萬代にわたりて知し食すべき大日本久邇の京は、春になりぬれば四方の山邊には花咲き満ちて枝もしをるゝ許りに見え河の瀬には若鮎の勢よく走りて、その春の花の榮え、若鮎の勢盛んなるが如くわが皇子命も春秋に富みたまひ、日に日に彌々榮え坐す時に、如何なる惑ひ人のいふ凶言にてあるか、皇子の宮の舍人は白妙の装束をつけて、皇子の御輿を和豆香山の中に導き申してそこに立たせ給ひて、そこより天へ登りましぬといへば、われはそれをきくと共に倒れ臥し轉び、衣を濡し汚して泣けども、その甲斐もなく、永く皇子に別れ奉りけるよとなり。

反歌

(四七六)

吾王、天所知牟登、不思想、於保爾曾見谿流、和豆香蘇麻山。

○吾王 「ワガオホキミ」とよむ。安積皇子を親しむ奉りて申せること論なし。

○天所知牟登 舊訓「アメシラレムト」とよみたれど、考に「アメシラサムト」とよめるをよしとすること長歌の場合におなじ。その意も長歌の「天所知奴禮」に同じく、事實は薨去をいひ、ここはそこに葬られたまふことを下に含みたるなり。

○不思想 「オモハネバ」とよむこと論なく、意も明かなり。

○於保爾曾見谿流 「オホニゾミケル」とよむ。「谿」は音にて「ケ」に借りたるなるが、「谿流」の二字にて、その沿ひて溯り行く和東川を思ひたる自然の文字遣と見えたり。「オホニミル」といふ語は卷二、二一九の「天數凡津子之相日於保爾見敷者今叙悔」にその例ありて、おほよそになほざりにその和豆山を見たりける由なり。

○和豆香蘇麻山 「ワツカソマヤマ」とよむ。「ソマヤマ」は山山なり。「ソマ」といふ語は卷七、一三五五に「眞木柱作蘇麻人」又卷十一、二六四五に「宮材引泉之追馬喚犬二立民乃云々」などの例ありて、和名鈔には「柿」の字に注して「功程式云、甲賀柿、田上柿、柿讀會萬所出未詳。但功程式修理算師山



田福吉等弘仁十四年所撰上所也」とあり。狩谷核齋の箋註に曰はく、按、曾萬蓋山中殖樹木爲採造屋材之處云々」とあり。蓋し、古、この山中一帯に柚山たりしならむ。太平記天正本には後醍醐天皇隱岐に行幸ありし後、光嚴院の元弘二年十二月に行はれたる大嘗會に營まれし大嘗宮の材木を和東山にて取られし由を記す。されば、この地、後まで柚山たりしものと知られたり。今、中和東村の大字に柚田といふ地名あるは古の名残を止めたるものならむ。さて、わつかそま山といふは、わつか山の、柚山といふ義なるべし。

○一首の意 わが安積皇子の薨去ありて、この和東山に葬り奉ることあるべしとも思はざりしことなれば、今まではおほよそに見過し來りしことよとなり。かくて言外に今よりは忘れがたく親しく思はるゝといふ意を含めたり。

(四七七)

足檜木乃、山左倍光、咲花乃、散去如寸、吾王香聞。

○足檜木乃 「アシヒキノ」とよむ。「山の枕詞」たり。

○山左倍光 舊訓「ヤマサヘテリテ」とよめり。楓落葉の「ヤマサヘヒカリ」とよみてより諸家しかよめり。按ずるに「光はヒカル」とも「テル」とも讀みうべき文字なるが、かく草木の花紅葉につきていへる例を見るに、卷十五三七〇〇に「安之比奇能山下比可流毛美知葉能云々」とありて、「ヒカル」といふをよしとすべきに似たれど、又卷十一八六一の「能登河之水底并爾光及爾三笠之山者咲來鴨」の「光は必ず「テル」とよむべきものなり。かくてこれはいづれにてもよかるべきものなり。

るが、光を動詞の活用形のまゝ複語尾を加へぬものとするときは「ヒカリ」の方によるべし。攷證に曰はく、「こはいろいろの花の咲さかえて、山さへ色にほふばかりなるを皇子のさかえおはしましゝにたとへて云々」といへり。略かゝる意なるべし。

○咲花乃 「サクハナノ」とよむ。これはその花の「山さへ光り咲く」その花をさすなり。

○散去如寸 舊訓「チリユクゴトキ」とよめり。考は「チリニシコトキ」とし、略解之に隨ひ楓落葉は「チリヌルゴトキ」とし古義之に隨へり。攷證は「去はつねにゆくともにしともぬるとも訓る字にて、こゝもちりゆくとも、ちりにしとも、ちりぬるとも、いづれによみても意きこゆればさだめがたし。さは舊訓に従ふのみといへり。されどここは「チリヌル」とよむ方意よくかなへりといゆ。

○吾王香聞 「ワガオホキミカモ」とよむ。この語遣は卷一三八の「神乃御代鴨」以下屢見ゆれば、今更に説かず。

○一首の意 山山が光る如くに美しく咲きたる花の散りたる如くに、青春の盛りになしゝて前途洋々の希望に満ちましし際に忽然としてこの世を去りたまひしわが皇子なるかなとなり。感慨無量まことに家持の青年時代の傑作と評すべし。

右三首、二月三日作歌

○右三首 これは長歌と反歌二首とを合せ算したるなり。



○二月三日作歌 安積皇子の薨去は閏正月十三日なりしなれば、それよりかぞへて閏正月は大なれば三十日なり。二十一日目なり。この時既に、和東山に葬り奉れるものと見えたり。

(四七八)

掛卷毛、文爾恐之、吾王、皇子之命、物乃負能、八十伴男乎、召集聚、率比賜比朝、獵爾、鹿猪踐起、暮獵爾、鶉雉履立、大御馬之口、抑駐、御心乎、見爲明米之、活道山、木立之繁爾、咲花毛、移爾氣里、世間者、如此耳、奈良之、大夫之、心振起、劔刀、腰爾取、佩梓弓、鞞取負而、天地與、彌遠長爾、萬代爾、如此毛、欲得跡、憑有之、皇子乃、御門乃、五月蠅成、驟騷舍人者、白榜爾、服取著而、常有之、咲比振、麻比彌日異、更經見者、悲呂可聞。

○掛卷毛文爾恐之「カケモクモアヤニカシコシ」とよむ。「文」の「アヤ」に用ゐたるは卷二「一六一」「二

○四」に例あり。意上の歌におなじ。

○吾王皇子之命「ワガオホキミ、ミコノミコト」とよむべし。舊訓下に「ノ」を加へたれど、ここは加へざるをよしとす。意上の歌におなじ。

○物乃負能「モノノフノ」とよむ。ここに「負」を「フ」の假名に用ゐたり。かゝる例は卷六一〇四七の「物負之八十伴緒乃打經而里並敷者」又卷二十四四〇二の「怒佐麻都里伊波負伊能知波意毛知

知我多米「四四〇〇」の「伊弊於毛負等伊乎禰受乎禮婆」の「負」又卷五の詞書の筑前國怡土郡深江村子負原云々」とあるなり。これは音も「フ」なれど、恐らくは訓にて「大」を「オ」に用ゐる如く「オ」の「フ」をとりて假名にしたるなるべし。これは「八十」の枕詞なることもあれど、ここは實義ある語なり。その意義は卷一五〇の「物乃布能八十氏河爾」の條にいへり。

○八十伴男乎「ヤソトモノヲ」とよむ。この語の例は少からぬが一、二をあげむ。卷四五四三「に物部乃八十伴雄與卷十七三九九一」に「物能乃敷能夜蘇等母乃乎」卷十九四二五四「に物乃布能八十友之雄乎」の如く「モノノフノ」といふ語につけるもあれど、又卷十七四〇二三「に賣比河波能波夜伎瀬其等爾可我里佐之夜蘇登毛乃乎」波宇加波多知家里卷十九四二一四「の宇都會美能八十伴男者大王爾麻都呂布物跡」の如く單に「八十伴男」といふことあり。又單に「トモノヲ」といへるあり。卷七一〇八六「に鞞懸流伴雄廣伎大伴爾卷二十四四六六」に「安伎良氣伎名爾於布等毛能乎已許呂都刀米與」の例これなり。さてこの「トモノヲ」といふ語の義は、古事記の「五伴緒」の説明として古事記傳にいへるを参考とすべし。曰はく、

伴緒 凡て伴とは官職にまれ、何にまれ、一部ともなふを云、某伴、某伴と云是なり。(中略緒は長の本語にて袁佐と云は長兄名の意なり。書紀に魁帥渠帥などを伊佐袁と訓するも勇長なり。然れば伴緒は其部屬の長を云稱なり。(師説に此處の文を引て此五伴緒の中に二柱は女神なることを云、又祝詞に比禮懸伴緒と云るも女なれば、伴男など、書る男は皆借字にて男女にわたる稱なる由云れたるは信にさることなりかし。)さて緒と云意は師説に、一の



緒に數の玉を貫くに譬へて云なれば、伴緒と書る、正字なり、貫首など云貫も意通へりと云れたるは然ることなれども今少し精しからず。其故は玉、緒などを袁と云も、多の玉などを總縛る故の名、又物の長を袁と云も、其徒を統帥る故の稱にて、本同言なり。然れども何方を本とも末とも定むべきに非れば、玉、緒は例には引、べけれども、其に譬へて云とは云べきに非ずなむ。(さて又右の師説の意は伴、緒をたゞ其部類のこと、心得て云れたる物にして、其長の意に云るには非ず。是も又精しからず。其故は次に云べし。)さて今右の五柱、神を指て五伴、緒と云るは石屋戸、段に見えたる如くに此神たち各掌れる職ありて、其職々の部屬を帥る長、神なればなり。(五神を指て五伴、緒と云れば、一伴、緒は一神なり。然れば、伴、緒とは其長を云て、其部類を云に非ること明けし。書紀に此を五部、神と書れば、五伴、緒はたゞ五部の意とも聞ゆるに似たれども、彼も五神を擧て云れば、其意に非ず。五部の長、神といふこと、ろなり。下卷遠、飛鳥、宮、段に定、賜、天下之八十友、緒、氏、姓、八十伴、緒とは所有諸の伴、緒を總云なり。さて是は、長に限らず、部屬までにわたる如く聞ゆめれど、これらは朝廷に仕奉る官人たちを大凡に云る、其はいづれもほどくに帥る部屬あれば、此も皆長なり。此外にも部、字などを書て、廣く其屬を云る如く聞ゆるも皆くはしくいへば、其長なり。又萬葉に多く(中略)十九、七、十に八十伴男者、大玉、爾麻都呂、布物、跡、定、有、官、爾之在者、云々(これに官とあるも長なるゆゑなり)などよめり。大殿祭、祝詞、詞別に、皇御孫命、朝乃御膳、夕乃御膳、供奉流、比禮懸伴、緒、權懸伴、緒、大祓詞に、天皇朝廷、爾仕奉留、比禮挂伴男、手櫃挂伴男、奴負伴男、劍佩伴男、伴男能八十伴男乎始、且、官

○官爾仕奉留人等(中略)とある、是にて八十伴男乎始、且と云るを以て、伴男は其長なることを思ひ定むべし。さて次に官々、爾云々と云る、其下に屬る部々の人等にはありける。

とあり。このうち、長は長兄名の意なりといへるなど、首肯し難き點なれど、その大旨はよくいはれたるなり。まことに部類は即ち、トモにて、その部類を組織する各員が、トモガラにして、その伴を統一する主腦者が伴緒たることは著しきなり。この緒が統一者をさすことは、日本書紀天智卷の歌に「多致播那播於能我、多曳多那例々、騰母陀麻爾、爾農矩騰岐於野兒、弘備農俱」とあるが如く、多くの玉が一の緒にて統べらるゝをいふ、命を緒といふも生るるより死ぬるまで一にて貫けるが故と思はる。ここにいふ、八十伴男は古事記下卷允恭天皇の段にいふ、天下之八十友、緒といへるにおなじく、あらゆる諸の伴、緒といへるなるが、その伴緒即ち部類の長をさせば、その部屬はもとより之に含まるればなり。かくて、モノノフノヤソトモノヲは多くの諸臣僚といふこととなることいふまでもなし。

○召集聚 舊訓、メシアツメとよめり。代匠記は「めしつどへともよむべし」といひたるが、考槻落葉略解攷證、古義等皆しかよめり。この三字のうち、召は「めし」とよむこと勿論なり。「集聚」の二字は一語をなすものなるが、家持の歌に殊にこの歌にかく熟字を用ゐること多し。この熟字は左傳、昭十七年の「五鳩鳩民者也」の疏に「治民尙其集聚、惡其流散、故以鳩爲官名、欲聚叙其民也」とも見え、又易林に「鳳凰在左、麒麟在右、仁聖相遇、伊呂集聚、時無殃咎、福爲我母」とあり。かく漢語として用ゐたるを使用したりと見ゆ。さて「アツム」といへる語の用例は本集に見えざるが、こ



れは或は當時歌詞にてあらざりしが故か。集をツドヒとよむ例は卷二「一六七」にあり。楓落葉に曰はく古事記に訓集云都度比とあり。今は令集也。ハセの約めへなりといへるがこの約音説は首肯せられず。これは集はする意にして下二段活用の語たるなり。

○率比賜比 舊訓「イサヨヒタマヒ」とよみたれど率を「イサヨヒ」とよむべき理由なし。代匠記は「イサナヒタマヒ」とよみ考は「アトモヒタマヒ」とよめり。ここはただ「イザナフ」意にあらねば「アトモヒタマヒ」とよむべし。この語の意と例とは卷二「一九九」に「御軍士乎安騰毛比賜」とある下にいへり。

○朝獵爾 「アサガリニ」とよむ。この語の例及び「ユフカリニ」に對する例は卷一「三」の「朝獵爾今立須良思暮獵爾今他田渚良之」あり。それに照して意を知るべし。

○鹿猪踐起 「シシフミオコシ」とよみて異説なし。鹿猪の二字いづれも「しし」とよみうべきものなるがそれを一として「しし」にあてたりと見ゆるが、かゝる用例は今一つ、卷十二「三〇〇」に「小山田之鹿猪田禁如」といふあり。これは「しし」といふはたゞ一種の獸にあらねばなり。即狩獵の目的たる獸は皆「しし」といひしならむ。さてかくいへる例は卷六「九二六」に「朝獵爾十六履起之」あり。「ふみおこし」につきては童蒙抄に「朝つゆに伏したるししを踏みおこし也」といへり。さる事なるべし。但し、上の「朝獵」は對句の爲にいへるにて、獸狩を朝に限れりといふことにはあらざるべし。

○暮獵爾 「ユフガリニ」なり。意既にいへり。

○鶉雉履立 舊訓「トリフミタテ」といへり。されど考の「トリフミタテ」とよめるに隨ふべし。

この方力強く聞ゆればなり。「鶉雉」は鷹狩する時の獲物の著しきは鶉雉などなるが故にこの二字を以て代表として「トリ」とよませたるものなるべし。さてかくいへる例は卷六「九二六」に「夕狩爾十里躑立」あり。古義に曰はく「起立」は伏たる鳥獸を驚かし起し立しむるを云といへり。これも鷹狩は暮に催したまふといふにあらざりて暮獵は對句とする爲にいへるまでなり。

○大御馬之 舊訓「オホミウマノ」とよみたれど童蒙抄の「オホミマノ」とよめるをよしとす。「御馬」を「ミマ」といへる例は卷五「八七七」に「美麻知可豆加婆和周良志奈牟迦」あり。「大御馬」とは安積皇子の騎りたまへる馬をほめて申したるなり。

○口抑駐 舊訓「クチオサヘトメ」とよめるを童蒙抄は「クチオシトバメ」とよめるが、抑は「オサヘ」とよむべけれど「オシ」といふべきにあらねば舊訓によるべし。卷六「一〇〇」の「馬之歩押止駐余」と字面相似たり。その「押」を舊訓「ヲシテ」とよみたるをも、代匠記には「オサヘ」とよめるなり。「駐」は「トドム」とよむこと論なし。攷證に「馬の口づらをおさへてとむる也」といへるにて意を知るべし。

○御心乎 「ミココロヲ」とよむ。意は次の句に合せていふべし。

○見爲明米之 舊訓「ミセアキラメシ」とよめれど正しからず。考に「メシアキラメシ」とよみ、玉の小琴に「ミシアキラメシ」とよめり。「メシ」又は「ミシ」は「見る」の敬語として、サ行四段活用に再び活用せしめしものなるが、これには「メシ」といふ形のみありて、必ず「ミシ」とよむべきものと主張す



べき證は一も存せず。卷十八四〇九八に「許乃於保美夜爾安里我欲比賣之多麻布良之」卷二十四五〇九に「於保吉美能賣之思野邊爾波之米由布倍之母又メシアキラム」といふべき旁例は卷二十四三六〇に「賣之多麻比安伎良米多麻比」四四八五に「可久之許會賣之安伎良米晚阿伎多都其等爾」などあり。見爲といへるは下の「活道山」を見たまふ意なり。アキラメシは御心を明めしといふことにて卷十八四〇九四に「美知能久乃小田在山爾金有等麻宇之多麻徹禮御心乎安吉良米多麻比」卷十七三九九三に「可久之許會美母安吉良米々」など皆同じ精神なり。即ち、残る所なく明らかに見たまふ意にて今の見はらしのよき所にて心ゆくばかり眺望する義なり。

○活道山 舊訓、イクメチャマとよみ、考はクメチャマとよみたれど、玉の小琴に、イクチャマとよめるによるべし。これは反歌に「活道乃路」とよみ、又卷六一〇四二の詞書に「十六年甲申春正月」市原王とこの作者大伴家持となり。さてこのイクチ山又は活道岡はいづこなるか。この歌の作より僅に二ヶ月に足らぬ前に家持のここに遊びし所にして、安積皇子も亦賞美せられし所なれば、久邇京近き地なりしならむこと想像せらる。大日本地名辭書はこの皇子の御墓地即ちそれなるべしといへり。されど、確かなる證あるにあらず。イクヂといふ地名は越中にも越後にもあれば、これは一種の地勢の名目より出でしならむが、その義を知らず。ただ久邇京近き山の狩獵に適する奥まりたる地にしてその一部の岡は見晴よき地にして著しき一本松の在りし所なりしことは明かなりといふべし。

○木立之繁爾 舊訓、コダチノシジニとよみ、楓落葉はコダチノシゲニとよめり。「コダチといふ語は日本書紀舒明卷の歌に「于泥備椰摩虛多智于須家苔云々」本集卷五八六七に「志滿乃己太知母可牟佐飛仁家理」卷十七四〇二六に「今日見者許太知之氣思物」ありて今もいふ語なり。「繁」の字はシゲとよむべけれど、このシゲはシゲルの語幹にして、本集にてはこれを體言副詞としたる例を見ず。次に繁をシジとよみうるかといふに、その例は既にこの卷三二四の「繁生有」三六八の「大船二眞梶繁貫」三七八の「竹玉乎繁爾貫垂」の條にいへるにて見るべし。即ちここはシジニとよむべきこと論なし。

○咲花毛 サクハナモなり。さてこの句と上の句との關係は木立の花の繁に咲く花といふことをかく簡易にいひたるものなり。諸家多くは木立の繁として、繁を木立の繁きをいふとすれど、シジといふ副詞を以て直ちに説述せしむることは不可能なる筈なりとす。ここに「繁爾咲花」といへるは上の長歌に「花咲乎爲里」といへるに該當せり。

○移爾家里 ウツロヒニケリとよむ。卷五八〇四に「散久伴奈能宇都呂比爾家里」卷十五三七一六に「九月能毛美知能山毛宇都呂比爾家里」などその例なり。ウツロフはウツルが更に波行四段に再び活用したるにて、その作用の繼續するを示す。「移」といふは上四五九の「黃葉乃移伊去者」の下にいへる如く、散り過ぐることをいふ。ここは美はしき盛の花の散り過ぎぬるをいひて、安積皇子の若くして薨じたまひしことを歎く情を寓せり。以上を一段落とす。

○世間者如此耳奈良之 ヨノナカハカクノミナラシとよむ。「世間」をヨノナカとよむことは上



四七二又その前にも度々いへり。「如此耳も四七二にあり。」奈良之の例は卷五八〇四一云に「奈乃奈可伴可久乃末奈良之卷十九四一六〇に宇都勢美母如是能未奈良之あり。この語は卷一五〇の神隨爾有之の下にいへり。世間といふものはかくあるのみのものなるらしと歎息したるなり。」

○大夫之心振起「マストラヲノココロフリオコシ」とよむ。この語に似たる例はこの卷三六五に「大夫之弓上振起射都流矢乎」あるが同じ語の例は卷十七三九六二の「大夫之情布理於許之卷二十四三九八に大夫情布理於許之などあり。こゝにますらをの心を振り起すは家持自らのことをいへるなり。安積皇子を頼み奉りて大に奮起したりしことをいへるなり。」

○劔刀「ツルギタチ」とよむ。「ツルギ」は太刀の鋭利なるをほめていふ語。卷五八〇四に「都流岐多智許志爾刀利波积云々」その他例多し。

○腰爾取佩「コシニトリハキ」とよむ。この語の例上にあげたるが、なほ卷十八四〇九四に「劔大刀許之爾等里波伎」などあり。太刀は腰に取佩くなり。

○梓弓「アヅサユミ」これは卷一三に既にいへり。これは實際の弓をさす。

○鞞取負而「ユギトリオヒテ」とよむ。この語の例は卷九一八〇九に「白檀弓鞞取負而」又卷二十四三三二に「麻須良男能由伎等里於比豆」などあり。「鞞」は和名類聚鈔に「釋名云歩人所帶曰鞞初牙反由岐以箭又其中也」とありて、矢を盛る器にして之を背に負ふが故に取負而とはいへるなり。上四句は劔太刀を腰に佩き、梓弓を持ち、鞞を負ひてといへるにて、武人の征戰の具をとり

て武装したるなり。而して、これ古來大伴氏の世々奉仕し來れる職務によれる公の装たりしなり。

○天地與彌遠長爾「アメツチトイヤトホナガニ」とよむ。この語は、卷二一九六に「天地之彌遠長久思將往云々」といへるに趣同じく、二七六に「天地與共將終登念乍奉仕之情違奴」と心かよへり。天地の永久に存在するが如く、それと共に彌と遠く長くといふなり。卷十八四〇〇八に「可久之許曾都可倍麻都良米伊夜等保奈我邇」ともあり。

○萬代爾「ヨロヅヨニ」とよむ。この語卷一以下に多し。

○如此毛欲得跡「舊訓カクシモガナト」とよみたるを考に「カクシモガモト」とよみたり。さて「ガ」も冀望の終助詞なれど、この頃用ゐるざりしものなれば「ガモ」をよしとすること及び「欲得」を「ガモ」といふ語にあてたることは上の四一九の「石戸破手力毛欲得」の條にいへり。「カクシモガモ」といへる假名書の例は卷五八〇五に「等伎波奈周迦久斯母何母等意母閉等母」あり。又卷十三三三二四に「萬歲如是霜欲得常大船之憑有時爾もこの例と見らる。又卷六九二〇に「萬代爾如此霜願跡天地之神乎曾禱恐有等毛」とある。願はその意を以て「ガモ」にあてたるにて、この「欲得」の二字まさにこれと相當するものなり。「かくしもがも」とは「かくし」の下に略語ありてそれを「も」とがもにてうけて終止せるものなり。この「も」とは卷一八一の「常丹毛冀名」に既に

出でたり。



○皇子乃御門乃「ミコノミカドノ」とよむ。この語は卷二一六八「一九九」に例あるが、ここはその御宮殿をさせるなり。

○五月蠅成「サバヘナス」とよむ。「五月蠅をサバヘ」とよめるは五月の頃に蠅の多く生ずる由に古來いへり。古事記天石屋戸の段に「於是萬神之聲者狹蠅那須皆滿萬妖悉發」とあり、日本書紀卷二天孫降臨の前の記事に「晝者如五月蠅而沸騰之」とあり。これは枕詞にして、ここは次の「サワグ」を導くなり。

○驟騷舍人者「サワグトネリハ」とよむ。「驟」一字にても「サワグ」とよむべきことは卷二一九九の「弓波受乃驟」の下にいへり。次に「騷」字はもとより「さわぐ」とよみ來れる字なれば「驟騷」二字にて「サワグ」とよむことは勿論なり。但し、その例はここに一所のみなるが、これは家持の熟字を好めるによるものなるべし。さて卷五八九七に「五月蠅奈周佐和久兒等遠」とあるはこの旁例とすべし。さてこの「さわぐ」は悪しき意にあらずして、多くの舍人が常に集まりてさゞめきあへるさまをいへりと見ゆ。この皇子の品位明かならねば帳内の數も明かならねど、四品としても百人は奉仕せし苦なれば賑はしく、さわがしく奉仕せしことを思ふべし。

○白袴爾「シロタヘニ」とよむ。この白袴は素服なるべきこと、卷二一九九の「遣使御門之人毛白妙乃麻衣着」の下にいへるにて知るべし。

○服取著而「コロモトリキテ」とよむ。衣服を白袴にして取り着てといふなり。

○常有之「ツネナリシ」とよむ。卷五八〇四の一云に「都禰奈利之惠麻比麻欲思伎」といふあり。

こは次の「咲比振麻比」の常なりし由をいへるにて、即ち、これまで、いつも賑はしく咲みさかえてありしことをいへるなり。

○咲比振麻比「エマヒフルマヒ」とよむ。この「エマヒ」は上の卷五八〇四の例に見え、なほ卷十八「四一一四」に「乎登女良我惠末比能爾保比於母保由流可母」又卷四七一八の「不念爾妹之咲舞乎夢見而」などもその例なり。「フルマヒ」といふ語の例は本集にはこの一なるが、類聚名義抄には「儀姿」舉動「容止」舉動をかくよめり。それらの文字によりてこの語の意義を推知すべし。「ゑまひ」はゑまふことの居體言、ふるまひは振まふことの居體言にて二語を重ねたるものなるが、舍人どものゑみさかえて立ちふるまひしこと共をかく二語にしていへるなり。

○彌日異 上の長歌四七五のにおなじ。

○更經見者 舊訓「カハラフミレバ」とよみ童蒙抄は「カハレルミレバ」とよめり。されど、更經を「カハレル」とよむは無理にして、經は「フ」の假名として用ゐたるものなれば舊訓をよしとす。「更」の「カハル」なること上三二二の「鳴鳥之音毛不更」の下にいへり。卷十九四一六六には「噴鳥乃音毛更布」とも見ゆ。「カハラフ」は「カハル」を再び、波行四段に活用したるものにして、その作用の繼續をあらはすものなり。ここは時の經るにつれて漸々にかはりつゝ行くをいふ。そのかはらふさまを見ればといふなり。

○悲呂可聞「呂」の字流布本には「召」とせり。随つて流布本のおみ方は「カナシメシカモ」とよみたれど、かゝる語法ありとも思はれず。類聚古集は正しく「呂」と書き、西本願寺本、大矢本、京都大學



本等は草體の「呂」とせり。代匠記は「召」は「呂」の訓として「カナシキロカモ」とよめるが、「呂」の字正しきものと認めらるれば、この訓をよしとす。この「ろ」は卷一「五三」の「處女之友者乏吉呂賀聞」の下にいへり。悲しきかなといふに似たり。

○一首の意 この歌二段落なり。第一段落は安積皇子の御在世當時の盛なりしさまを叙して、終りにその薨去を言外にあらはして急に頓挫せしめ、第二段は先づ家持が大に皇子に景仰し奉りしをいひて、その志の遂げられざりし悲を抒べたるなり。即ち心にかけて思ひ奉るだに言語道斷に恐れ多き事なり。わが大君、安積皇子の命は大宮人の多くの者共を召しつどへ、誘ひ率る賜ひて、朝夕の御獵に或は鹿猪を追ひ、或は鶉雉を追ひたまひ、時には又大御馬の口を抑へ止めまして、四方の風景を御覽じて、御心を晴し給ひし活道山の木立の數多く咲く花も盛り之時は過ぎ行きにけり。即ち安積皇子の颯爽とまし／＼し盛にまし／＼し御姿も再び見られずなりたり、第一段世間はすべてかくあるものにてあるらしきが、悲しきことなるかな。我れ家持大丈夫の心を振ひ起し、劔刀を腰に取り佩き、梓弓を持ち、鞍を負ひて、わが安積皇子に奉仕し、天地と共に永遠にかくして永く奉へ仕らむものと願ひ、憑みてありし、その皇子の御宮に仕へ奉れる多くの舍人どもが、白色の素服を着て、今までは常にありし嬉しげなりし顔貌、愉快さうにありし舉動も、日を経るにつれて、彌かはり行くを見れば、悲しきことなるかな。(第二段)

反歌

(四七九)

波之吉可聞、皇子之命乃、安里我欲比、見之活道乃、路波荒爾鷄里。

○波之吉可聞 「ハシキカモ」とよむ。この語は既に屢見えたるが、卷二「一一三」の「三吉野乃玉松之枝者波思吉香聞」に照して意をしるべし。さてこの一句にて一段落として、冒頭に「愛すべきかな」と一句を大膽に投じたる手法、尋常歌人の及ぶ所にあらず。而してこれはその皇子之命をさし奉りてはしきかもといへるなり。

○皇子之命乃 「ミコノミコトノ」とよむ。安積皇子の命のといふ意なること勿論なり。

○安里我欲比 「アリガヨヒ」なり。この語の例は卷二「一四五」の「鳥翔成有我欲比管見良目打母云」云にありて、意はそこにいへる如く、引きつゞきかよひたまふといふことなり。

○見之活道之 「メシシイクチノ」とよむべきこと長歌の下にいへる所にて明かなり。その意も亦明かにして、見たまひし活道のといふことなり。

○路波荒爾鷄里 「ミチハアレニクリ」とよむ。意明かなり。ここは卷二「二三四」の「三笠山野邊從遊久道已伎太久母荒爾計類鴨久爾有勿國」の感じに似たる點あり。即ち、ここに「通ふこと」の絶えたるをいへるなり。

○一首の意 この歌二段落なり。第一段はああ愛すべきかな、わが安積皇子の忘れがたきことよとなり。第二段は安積皇子の命の常にかよひ賜ひて、愛しみたまひし活道山の路は人々の來通ふことも稀れになりて荒れはたりといふなり。



(四八〇)

大伴之名負鞞帶而萬代爾憑之心何所可將寄

○大伴之「オホトモノ」とよむ。この語は卷一、六三にも見えたが、そこは地名なり。ここは家持等の家の名なる大伴氏をさせり。「大伴の伴」は上にいへる八十伴男の伴とおなじくして部類又は團隊をいへるなり。かくて「大伴」とは大部隊といふ程の語なるが、その「オホ」は天皇の御親兵としての部隊なる故に尊んでいへるなり。抑も大伴氏は古事記に

○故爾天忍日命天津久米命二人取負天之石鞞取佩頭椎之大刀取持天之波士弓手挾天之眞鹿兒矢立御前而仕奉。故其天忍日命此者大伴連等之祖天津久米命此者久米直等之祖也。

とある如く、天孫降臨の時に御親兵として警衛し奉りし天忍日命の末にして、爾來連綿として武人の長として奉仕せしものなり。大化改新以後文武の官を分たれしかど、大伴氏が武事に奉仕せしことはなほ舊によりしものなり。かくて、古は大伴といふ名即ち武人最高の地位と名譽とを示したりと思はれたり。

○名負鞞帶 而舊訓ナニオフユキオヒテとよめり。「オヒテ」を代匠記に「ハキテ」ともよみたれど、鞞は背に負ふものにして腰に佩くものにあらねば、しかよむべからず。「帶而」は文字によらば「オビテ」とよむべくして「オヒテ」とよむべきにあらず。然れども鞞は必ず負ふものにして帶ぶるものにあらねば、ここは「おぶ」といふべからず。然らば、これは清濁を顧みずして用ゐたるか如何。この頃濁音の語を往々清音の語に轉じて假用したるもの、たとへば「雉を岸に借りた

ること卷七、一三八九の如き例あればかかることなしといふべからず。然れども、これは漢語に「鞞を帶す」といふよりこの字を用ゐしものならむ。和名鈔には釋名云歩人所帶曰鞞とあり。これ支那にて鞞を身に帶すといひしことの證なり。日本書紀孝德天皇御即位の記事を見るに「于時大伴長德連帶金鞞立於壇右、犬上健部君帶金鞞立於壇左」とあり。この「帶」も同じ。されば「帶」は直譯して「オブ」とよむべきものならで、「帶鞞」即ち「鞞をおぶ」といふ語にあたるものならむ。しかも、この句には上に既に「負」といふ字を用ゐたれば、同じ字を二度用ゐることを避けてわざと「帶字をここに用ゐたるものと見ゆれば、その理由は如何にもあれ、「オヒテ」とよむべきものなり。名に負ふ鞞といふは如何なる事かといふに、名に負ふとは通例その名を有することをいふ。さらばこゝは如何といふに、新撰姓氏錄大伴宿禰の條に

初天孫彥火瓊杵尊神駕之降也、天押日命、大來目部、立於御前降于日向高千穗峯。然後以大來目部爲天鞞負部、天鞞負之號起於此也。

とありて、大伴の部隊は又鞞負部の名、天鞞負の名を有するものなることを語れり。この鞞負は大化改新の後官職の制度となりてより文字の上には公式に認められず、又必ず大伴氏の職掌とは限らずなりたれど、なほ左右衛門府の名となりて傳はれり。令集解の左衛士府の注なる大同三年七月廿日官奏に曰はく、これは衛門府を廢して衛士府に併せむとしての奏上なり。其諸門禁衛、出入禮儀及門籍門勝等事、同令衛士府主之。然鞞負爲名年祀積久、今廢彼混此、雖不改文字、號曰左右鞞負府云々。



とあり、更に弘仁二年十一月廿八日官符を載せたるには、これは先に左右衛士府に左右衛門府を併せたるが、此度は大伴佐伯二氏の請によりそれを左右衛門府と改稱せられたるなり。

今得散位從五位下大伴宿禰眞木鷹、右兵庫頭從五位下佐伯宿禰金山等解備、己等之祖、室屋大連公鎮、靱負三千人左右分衛。是以衛門開闔、奕葉相承、望改衛士字、以爲衛門者。

といふ奏請によりたるものなるが、これは靱負の名に基づきて、かへりて衛士府の名を衛門府と改められしものなり。(右の奏請中の佐伯宿禰は大伴氏の支族大伴室屋の時、その兒語に特に賜はれる氏なりとなり)この衛門府は倭名鈔に「由介比乃豆加佐」と訓ありて、その名久しく傳はり、檢非違使の職のはじめられて、衛門府の官人、やがてその名をつぎ檢非違使たる衛門尉を特に靱負尉と稱するを例とせり。これ等古來大伴佐伯の率ゐたりし部隊の名が靱負なりしが故なり。されば本集にも卷七一〇八六に「靱懸流伴雄廣伎大伴爾」ともいへるなり。靱負といふ名を有するその靱を負ひてといふなり。

○萬代爾憑之心「ヨロゾヨニタノミシココロ」とよむ。長歌にいふ所の「萬代爾如此毛欲得跡憑有之」そのわが心なり。

○何所可將寄 舊訓「イツクニカヨセム」とよみたるを規落葉には「イツクカヨセン」とせり。「何所をイツク」とよむべきことは、卷一四三にいへる所なり。「イツクニカ」といふべきを「イツクカ」といへるは、この頃の語法に「チニ」といふ助詞を略して、たとへば、卷一四三の「吾勢枯波何所行良武卷七一四一二」に「吾背子乎何處行目跡辟竹之背向爾宿之久今思悔裳卷十二一三八」に「鴈鳴者何

處指香雲隱良哉」などの例なり。されば「イツクカヨセム」とよむべきなり。

○一首の意 大伴といふ古來名高きわが家の靱負といふ名に負ふその靱を負ひて奉仕し、萬代もかはらじと憑み奉りしわがこの心は今よりはいつくによせむか。わが心のよすべき方を失ひ途方にくれたることよとなり。

右二首三月二十四日作歌

○三月二十四日 は安積皇子薨去の日よりかぞへて七十一日目にあたれり。

悲傷死妻高橋朝臣作歌一首并短歌

○悲傷死妻 「スギニシメヲカナシミテ」とよむべきか。

○高橋朝臣 名を署せず、左注にもその明かならぬ由をいへれば、今にして之を知るべくもあらず。

白細之袖指可倍氏、靡寢吾黑髮乃、眞白髮爾成極、新世爾共將有跡、玉緒乃不絶射妹跡、結而石事者不果、思有之心者不遂、白妙之手本矣、別丹杵火爾之家、從裳出而、綠兒乃哭乎、毛置而朝霧、髣髴爲乍、山代乃相樂、山乃山際、往



過奴禮婆、將云爲便、將爲便不知、吾妹子跡、左宿之妻、屋爾朝庭、出立、俚夕爾  
波入居、嘆舍腋、挾兒乃泣、母雄自毛能、負見抱、見朝鳥之啼、耳哭管、雖戀、効矣  
無跡、辭不問、物爾波在跡、吾妹子之入爾之山乎、因鹿跡、叙念。

○白細之「シロタヘノ」とよむ。この字上の「四七五」にあり。ここは枕詞にもあらず、その白き潔  
き衣の義によめりと見ゆ。

○袖指可倍氏「ソデサシカヘテ」なり。卷八「一六二八」に「白細之袖指代而佐寐之夜也云々」とあり。

卷二「一九五」に「敷妙乃袖易之君」といふあり。衣の袖をさしかはして寝ぬるをいふ。

○靡寝「ナビキネシ」とよむ。卷二「一三五」玉藻成靡寐之兒乎にこの語の例あり。そこと同じく、  
わが傍にそひふしたるをいふ。

○吾黒髪乃「ワガクロカミノ」とよむ。「吾黒髪」といふ、吾は卷二「八七」に「打靡吾黒髪爾霜乃置萬代」  
にその例あり。ここは歌主のわがといへるなり。これはすべてその妻のことを動的にい  
へるに注意すべし。

○眞白髮爾「マシラカニ」とよむ。攷證に「さて假字にしらかと書る例なければ、定めがたけれど、  
延喜式に多志良加といふ器を手白髪とも書たれば、かは清てよむべし」といへり。新撰字鏡纂  
の下に注にして「方小反、白髮兒、志良加」とあり。即ち「シラカ」にして後世「シラガ」といへるは訛な

り」と知られたり。「ま」はその白髪を強調していへるなり。

○成極 舊訓「ナリキハマリテ」とよみたり。童蒙抄は「ナリハツルマデ」とよみ、考は「ナリキハムマ  
デ」とよみ、槻落葉は「ナレラムキハミ」とよみ、略解は「ナラムキハミ」とよみ、古義は「カハラムキハミ」  
とよみ、攷證は「ナルキハミマデ」とよみ、諸説紛々たり。先づ「成」は「ナル」にして黒髪の白髪に化す  
ることをいへるは疑ふべからず。かく「化成する」を「ナル」といふは當然にして、古義が「カハラム」  
とよめるは字義にあはざるなり。次に「極」は「ハツル」とも「キハミ」ともよむべきこと不合理なり  
といふべからず。されど、ここはその前後の文意を考へざるべからず。この下に「新世爾」とあ  
るに、照して考ふるに、物はその極に達すれば、ここに新になるものなれば、白髪になり、その極に  
達して革まりて、再び黒髪にかはるといふ如き思想にていへるものと思はる。この意にとり  
て考ふる時は舊訓の方適切なりとす。「極」を「キハマリテ」とよむことこの卷「三四二」に「極貴物者  
酒西有良之」とあり。

○新世爾 舊訓「アタラヨニ」とよみたれど、槻落葉によりて「アラタヨニ」とよむべし。「新世」の事は  
卷一「五〇」に「我國者常世爾成卒圖負留神龜毛新代登泉乃河爾云々」とある下にいへるが、そこは  
その新しき御世といふをほめたるなるが、ここは遙なる後の世といふことを主眼としていへ  
るなり。

○共將有跡「トモニアラムト」とよむ。夫婦共にその新世までもながらへあらむと思へるなり。  
さてこの「ト」助詞は下の「結而石」につゞくなり。



○玉緒乃「タマノヲノ」とよむ。これは下の「絶えじ」の枕詞として用ゐたるなり。この枕詞の例は卷十一「二七八八」に「玉緒乃絶天亂名知者知反」二七八七に「玉緒之不絶常念妹之當見津」などあり。

○不絶射妹跡 舊訓「タエシヤイヤト」とよみたれど玉の小琴に「タエジイモト」とよめるに隨ふべし。攷證に曰はく「舊訓射をやと訓たれど射をやとよめるは藐姑射山といふ時より外は見えざれば常の如く不絶射と訓べし」といへり。「射」の字をいに借りたる例は卷一以來頻繁に用ゐたる處なれば例をあげず。されどこの「イ」につきては從來の説多くは首肯せられず。この「イ」は所謂間投助詞にして語調を強むる爲に加へたるものなりとす。卷七一三六〇に「向岡之若楓木下枝取花待伊間爾歎鶴鴨」卷十一八五一に「春風爾不亂伊間爾令視子裳欲得」などこの「イ」の用例なり。この契は永く絶えじ妹よと結びてきとなり。

○結而石「ムスビテシ」とよむ。「石を」しの假名に用ゐたる例は卷四七二九に「醉瞻乃世人有者手」二卷難石「卷六一〇二」に「繫卷裳湯湯石恐石」二〇四七に「芽乃枝乎石辛見散之狹男鹿者妻呼令動山見者山裳見貌石」萬世丹榮將往迹思煎石大宮尙矣」二〇五二に「川乃湍清石」等例多し。「結ぶ」は契を結ぶにて上二句をうけて共に有らむ「絶えじ妹」と結びたるなり。

○事者不果「コトハハタサズ」とよむ。「結びてし事をば果さず」といふなり。この「ず」は終止形にあらざる連用形にして次の語に重ねていへるなり。

○思有之心者不遂「オモヘリシココロハトゲズ」とよむ。「オモヘリシ」といふ語は卷二又この卷

に既にいへり。上の如く思ひて有りし心をば遂げずといふなり。この「ず」も連用形にして次の語に重ねるなり。随つて「ず」しての意に解すべし。

○白妙之「シタロヘノ」とよむ。意は上の「白細之」と同じ。

○手本矣別「タモトヲワカレ」とよむ。「手本の例は卷二「一三一」等にあり。「矣」を助詞「ヲ」にあつることはこの卷「三六一」の「佐農能崗將超公爾衣借益矣」の下にいへり。「タモトヲワカレ」といふは卷二「一三八」の「敷妙之妹之手本乎露霜乃置而之來者」卷十一「二六六八」に「妹之手本乎加流類比來」などの例に似て妹のわが手本をば別れて行きたる由にいへるなり。

○丹杵火爾之「ニギビニシ」とよむ。「杵を」キとよむは肥前國の彼杵郡を古來「ソノキ」とよめるにて著しく本集にても卷六一〇二二に「昔者叙追遠杵土佐道矣」又卷九一八〇四に「朝露乃銷易杵壽」などあり。この語の例は卷一「七九」に「柔備爾之家乎擇」ありて相和して睦しく楽しくくらするをいへるなり。

○家從裳出而 舊訓「イヘヲモイデテ」とよみたれど「從を」ヲとよむべからず。考に「イヘユモイデテ」とよめるをよしとす。「從を」ユとよむことは卷一以來屢あり。

○綠兒乃「ミドリコロ」とよむ。この語卷一「二一三」にいへり。

○哭乎毛置而「ナクヲモオキテ」なり。綠兒の泣く子をも残しおきて死せしをいふ。

○朝霧「アサギリノ」とよむ。下の「髣髴爲乍」の枕詞なり。卷四「五九九」に「朝霧之儔相見之人故爾」卷十三「三三四」に「朝霧乃思惑而」など似たる用例なり。



○髣髴爲乍 舊訓「ホノメカシツ」とよめり。童蒙抄は「ホノカニナリツ」と考は「ホノニナリツ」、玉の小琴は「オホニナリツ」とよめり。先づ「髣髴爲」を「ホノメカス」とよむは不條理なる上、語をなさざれば随ひがたし。「髣髴」を「オホニ」とよむことは卷二二一七に「梓弓音聞吾母髣髴見之事、悔敷乎」の條に例あり。又卷四五九九に「朝霧之爵相見之」の「爵」も「オホニ」とよむことは卷二二一九の「天數凡津子之相日於保爾見敷者今叙悔」に照して考ふべく、二者共に「朝霧」の枕詞とせる點も相通ぜり。されば「オホニナリツ」とよむべきなり。されど、その「オホニ」の意は稍異なり。他は皆見る事のおほなるものなるが、ここは「おほになる」なり。「おほになる」とは「髣髴」たるさまになることとして、幻として形の偲ばるゝのみにして實には見られぬ由をいへるなり。

○山代乃「ヤマシロノ」なり。今の山城國なり。卷六一〇五〇に「山代乃鹿脊山際爾」卷九一七〇七に「山代久世乃鷺坂」などあり。

○相樂山乃 舊訓「サカラノヤマノ」とよみたれど、考に「サガラカヤマノ」とよめるをよしとす。和名類聚鈔には「相樂郡佐良加又相樂郷佐良加」とあり。「サガラ」といふは後の略語なり。これは相樂郡の山なるべきが、今特にかく名づけたる山なし。されど、かの和東山などもとり相樂山ともいひうべき山なり。とにかくここにこの山の中のいづこかに葬りしなり。

○山際 舊訓「ヤマノマテ」とよみ、考は「ヤマノマニ」とよめり。「山際」を「ヤマノマテ」とよむことは、卷一「一七」にあり、ここもそこに准じて「ヤマノマニ」とよむべし。「山の間」の意なり。

○往過奴禮婆 「ユキスギヌレバ」とよむ。往きて見えざりたるに「いへる」なり。山の際を過ぎ

て他に往きぬといふにあらず。山の際に往きて見えざりたるを過ぎぬればといへるなり。

○將云爲便 「イハムスベ」なり。卷二二〇七の「將言爲便」と同じ語なり。

○將爲便不知 「セムスベシラニ」なり。これは卷二二一三の「爲便不知」を「セムスベシラニ」とよむべきことを説ける際に論及せる所なり。意はそこに「いへる」に同じ。

○吾妹子跡 「ワギモコト」とよむ。意明かなり。

○左宿之妻屋爾 「サネシツマヤニ」とよむ。「サネシ」は「ネシ」におなじ。「サ」は接頭辭として加へしものなり。卷十四三五〇五の「宇良夜須爾左奴流夜曾奈伎兒呂乎之毛倍婆」卷十五三七三五に「左奴流欲能伊米爾毛伊母我美延射良奈久爾」三六二六に「安奈多頭多頭志比等里佐奴禮婆」卷五八〇四に「麻多麻提乃多麻提佐斯迦閉佐禰斯欲能」などその例なり。妻屋は卷二二一〇に「吾妹子與二人吾宿之枕付孀屋之内爾」にその語ありて、意はそこに「いへる」におなじ。

○朝庭 「アシタニハ」とよむべし。之を楓落葉には「アサニハニ」とよみて曰はく「朝庭の爾波は助辭にあらず。卷十三三十五に「朝庭丹出居而嘆」卷十七二に「安佐爾波爾伊泥多知奈良之と見えたり。されば、下の夕爾波も庭なるべく、卷十七二に「暮庭爾敷美多比良氣受とあるに、卷十三三十三に「朝庭出居而嘆夕庭入居戀乍とさへあれば、いよ、爾波は助辭ならじとおもへれど、同卷三十五に同じ歌の出たるには「朝庭爾云々夕庭云々と書て、上には「爾の字をそへ、下には「爾の字なきに、こゝも上は庭と書て「爾の助辭はよみつくべく、下は「爾波と假字書にて「爾の助辭なきを相照らして考れば、出立云々は「孀屋の庭」といふ意、入居云々は「都麻屋の内」といふ意也。故ふ



たつの庭は正字と助辭とにて上下違へり。よりて上はあさにはにとよみ、下はゆふべにはとよみたりといひ、古義これにより、攷證はこれに賛成の意を明言せり。今槻落葉の第一の證とするは卷十五、三二七四の「朝庭丹出居而嘆夕庭入居而思」の丹なるが、これは古寫本の多くにはなきものなれば、誤りて擔入せしものと見るをよしとすべし。その卷十七の「三九五七なるは安佐爾波爾伊泥多知奈良之暮庭爾敷美多比良氣受云々」とあるは、立ならし「ふみたひらぐ」といへるにて、その對象が庭なること著しきが、こは出づると入ると相對するなれば、對句として不條理にあらず。按ずるにこは必ずしも庭に出づといふに限らざるべきは、卷十九、四二〇九に「安志太爾波可度爾伊氏多知由布敝爾波多爾乎美和多之古布禮騰母」の例にて知るべく、又卷八、一六二九には「且者庭爾出立夕者床打拂」とある如く、特に庭といへるもあり。されば、こは舊訓の如くよみて、完全なる對句とすべきものなり。「庭を助詞ニ」とハとの合せるものに借りたる例は卷一、三の「朝庭取撫賜夕庭伊縁立之御執乃梓弓之」をはじめて例多きことは今更いふを要せず。

○出立徳 舊訓「イデタチシノビ」とよめり。徳は「シヌビ」とよむべきこと、卷二、一三一の「將徳の例にて知るべし」。「出立は上の、四二〇九の例によらば門に出で立つと見るべく、一六二九の例によらば庭に出で立つと見るべく、いづれにして家居するに堪へずして家を出で外に立ちつゝ故人を思慕するなり。

○夕爾波 ユフベニハなり。

○入居嘆舍 舊訓「イリキナゲカヒ」とよめり。考は「舍は合の誤として、イリキナゲカヒ」とよみ、槻落葉は「舍は會の誤として訓は考と同じくせり。この「舍」字神田本に「會」とあるによれば、槻落葉の説よきに似たり。按ずるに「舍を訓の假名とすること及びそを「ヤ」とよむことは例なきことなれば、舍は合か會かの誤なるべく、字形よりいへば、合の方近きものと思はる。いづれにしても、イリキナゲカヒ」とよむべきなり。「入居の例は卷十三、三三二九に「朝庭出居而嘆夕庭入居戀乍」にこれを見る。家に入り居ることなるはいふまでもなし。「ナゲカヒ」といふ語の例は卷五、八九七に「晝波母歎加比久良志夜波母息豆伎阿可志卷十七、三九六九に「隱居而念奈氣加比奈具佐牟流許己呂波奈之爾」などあり。嘆きつゝあることなり。

○腋挾 挾字流布本、狹とす。古寫本に「挾」とあるによる。「ワキハサム」とよむこと勿論なり。こは「腋」は卷二、二一〇の「若兒乃乞泣每取與物之無有鳥穗之物脇挾持」といへるにてその意を得べし。今ならば子を抱くといふを當時かくいへるなり。

○兒乃泣母 舊訓「コノナカシメハ」とよめり。されど「母」は「シム」にあつること道理なし。代匠記は「ち」のなくをもとか或はこのいさつるもとか讀べし」といひ、考は「母」を「毎」の誤として「イサツコトニ」とよみ、槻落葉も「毎」の誤として「コノナクゴトニ」とよめり。今按ずるにここにすべての本誤字なけれど、意通せざれば「母」は「毎」の誤なるべし。かくて「コノナクゴトニ」とよむを穩かなりとすべし。意は明かなり。

○雄自毛能 舊訓「ヲノコシモノ」とよみ、槻落葉は「ヲトコジモノ」とよめり。いづれにてもあるべし。



きさまなる故に舊訓による。この語は卷二二二二に「男自物育挿持」とあるにおなじ。男にてあるものが子を負ひ子を抱きなどさま／＼にするをいふ。

○負見抱見 舊訓「オヒミイダキ」とよめるを考に「オセミムダキ」とし古義「オヒミウダキ」とせり。この差は抱のよみ方にあるなり。然るに集中抱の語を單獨に用ゐたる假名書の例なし。卷十四三四〇四に「可伎牟太伎奴禮杼安加奴乎」とあるによれば「ムダキ」といふべき如くなれど如何。日本靈異記には「抱時」(卷下第九)とせり。これによりて「ウダキ」とよむべし。さてこの二の「み」は後の歌に「神無月ふりみふらずみさだめなきしくれぞ冬のはじめなりける」(後撰集冬)といへる如く後世の「たり」といふ俗言に似たるものにして同じ趣の二語以上を相對して重ねいふ時に用ゐるなり。本集にての例は卷十一二六二六に「咲見愠見著四紐解」二六四〇に「梓弓引見縦見思見而」などあり。

○朝鳥之「アサトリノ」とよむ。これはなくに對しての枕詞なり。朝は鳥の特によく啼くものなればなり。

○啼耳哭管「ネノミナキツ」となり。「啼」は普通「ナク」と訓する字なれど、ここには體言に用ゐるたるにて「泣」哭を「ネ」にあてたるも同じ道理なり。「ね」にのみなきつ」といふことなり。

○雖戀「コフレドモ」とよむ。意明かなり。

○効矣無跡「シルシヲナミト」とよむ。「效」は效驗にして「驗」をしるしとよむ(この卷三三八)と同じ意なり。かく「云々を無み」といふことは卷二二二三八の「津乃浦乎無美」二〇七の「爲便乎無見」二二

○の「相因乎無見」の場合におなし。又卷十五三六二七に「毛且禮杼毛之留思乎奈美等麻多於伎都流可毛」卷十三三三四四に「嘆友記乎無見跡」などこと同じ關係の語法なり。戀ふれども、そのかひの無きによりてと思ひてといふなり。

○辭不問物爾波在跡「コトトハヌモノニハアレド」とよむ。「コト」は言語なり。「コトトフ」とは「も」のいふなり。卷五八一「許等波奴樹爾波安里等母」卷十九四一六一「言等波奴木尙春開」など例多し。ここは山をさしていへるなり。

○吾妹子之入爾之山乎「ワギモコガイリニシヤマヲ」とよむ。妻が葬られし相樂山をさしていふ。「入り」に「し」は上の「山」際往過奴禮婆に應じたるなり。

○因鹿跡叙念 舊訓「ヨスカトソオモフ」とよみ考は「ヨスカトゾモフ」とす。いづれにてもよき管なれば舊訓による。攷證に曰はく「因鹿」は佛足石歌に「乃利乃多能與須加止奈禮利云々」。本集十六「荒雄を悲しめる歌に志賀乃山痛勿伐荒雄良我余須可乃山跡見管將偲」などありて「因」は心をよするを鹿は「住」か「隠れ」か「在」か「奥」かなどいふ、かと同じく「所」といふ意にて「皆」かも「清」てよめれば「こゝ」かも「清」を清て訓べしといへり。楓落葉に曰はく「寄處也。こゝろをよせ、身をよするをいふ言なれば、常にはたよりといふ意なれど、こゝは形見といふに近し」といへり。さることなり。

○一首の意 互に白妙の袖をさし交して、寄り添ひ寝たる吾が黒髪の眞白髪になり極りて、再び新なる其世までも共に居らむと約束し、この契は絶ゆまじ、妻よと約束せし事をば果すこ



とを得せず、かく思ひてありし心は遂ぐる事を得せずして、白妙のわが衣の袖を別れ共に睦びかはしたる家よりも出でて、緑兒の泣くをもさし置きて、おぼろけなるさまになりつゝ山城の相樂山の山間に往きて見えたりたれば、我は言はむすべも知らず、爲むすべも知らず、ただ茫然として、吾妻と共に寝たる閨の内に居て朝に夕に或は外に出で立ちて思慕し、或は内に入り居て嘆き、腋に挟みて大切にする緑兒の泣く毎に男ながらも或は負ひ、或は抱きて泣聲を出して泣きてのみ居て妻を戀ふれどもその效驗の無きによりて、物をいはぬものなれど妻の入りたる山を妻の由縁と念ひ、せめてそれに慰まむと念ふとなり。

反歌

(四八二)

打背見乃、世之事爾在者、外爾見之、山矣耶今者、因香跡思波牟。

○打背見乃、「ウツセミノ」とよむ。卷一「一三」に「虚蟬」とかき、「二四」に「空蟬之」卷二「一九九」に「打蟬」とかけるにおなじ。

○世之事爾在者、「ヨノコトニアレバ」とよむ。ヨノコトナレバ」とよむも不可なし。この語の例は卷五八〇五に「余能許等奈禮婆等登尾可禰都母」とあり。ここは卷二「一五〇」の「空蟬師神爾不勝者離居而朝嘆君放居而吾戀君」といへるに稍心似たり。

○外爾見之、「ヨソニミシ」なり。卷二「一七四」の卷四七四の「昔許曾外爾毛見之加」といへるに心おなじ。

○山矣耶今者、「ヤマヲヤイマハ」とよむ。「耶」は「邪」の俗字にして「ヤ」の音あれば借りたるなり。もとは無関係と思ひし山を今はといふなり。「ヤ」は疑問の係助詞にして次の句の意に影響を及ぼす。

○因香跡思波牟、「跡」字流布本に「爾」とせり。すべての古寫本及び活字無訓本みな「跡」とせり。流布本は蓋し活字附訓本の誤植に基づくものなり。舊訓に「ヨスカトオモハム」とあるも、その正しき文字によれるが故なり。

○一首の意「生るゝものは終には死ぬる事は世間の定まれる事にて如何ともしがたければ、今までは無関係と見てありし相樂山をば今は妻の葬られてあればそこを心のより所と思はむとなり。

(四八三)

朝鳥之啼耳鳴六、吾妹子爾今亦更逢因矣無。

○朝鳥之、「アサトリノ」とよむ。「啼」の枕詞なること上の長歌におなじ。

○啼耳鳴六 舊訓「ネノミヤナカム」とよめり。玉の小琴は「鳴六」は「之鳴」の誤として「ネノミシナカム」とよみ、楓落葉は「耳」の下に「也」を加へて舊訓の如くし、古義はこのまゝにして「子ノミシナカム」とせり。今按ずるにここに脱字ある本なければ、このまゝにてよむを穩かなりとす。さて「ヤ」といふが如き特殊の助詞のなきをここに加へてよむは穩かならず。かくて「シ」を加へてよむは例少からねば、古義の説をよしとす。卷四「六一四」に「白細之袖漬左右二哭耳四泣裳」など似た



る例なり。

○今亦更「イママタサラニ」なり。意明かなり。

○逢因矣無「アフヨシヲナミ」とよむ。卷二二〇に「戀友相因乎無見」といへるに意同じ。

○一首の意反轉法によれり。今は又更にわが妻に逢ふ由の無きによりてただ啼きのみ啼かむとなり。

右三首、七月廿日高橋朝臣作歌也。名字未審。但云奉膳之男子焉。

○七月廿日 これは前よりの引續きにて天平十六年七月廿日の作と推定すべきなり。

○高橋朝臣作歌也 高橋朝臣は阿部朝臣と同祖、孝元天皇の皇子大彥命の後なり。新撰姓氏錄に曰はく、

高橋朝臣、阿倍朝臣同祖、大稻與命之後也。景行天皇巡狩東國、供獻大蛤。于時天皇喜其奇美、

賜姓膳臣。天淳中原瀛真人、天皇十二年改膳臣賜高橋朝臣。

とあり。この氏は人か、名字未審といへれば、今に於いては知り難し。本集にこの氏の人は高橋朝臣國足あり。なほ高橋連品麿等あれど、それは連のかばねにして氏族は別なり。高橋連は物部氏の同族にして神別なれば、皇別の高橋朝臣と混すべきにあらず。

○名字未審云々 これら十二字をば考に衍とし、槻落葉は後人の加注なりとせり。何時の加注

か、斷言すべきにあらねど、但云奉膳之男子焉とあるは無下の注にあらずして、この歌の作者として傳ふる所あるを注したること著しければ、編者の原注と見ても差支なきなり。

○但云奉膳之男子焉 これは作者の名と字とは知らねども、たゞ奉膳の官に在りし男子なりといひ傳へたりとなり。奉膳とは宮内省の内膳司の長官なり。令にいはいはく、

奉膳二人、掌惣知御膳進食先嘗

とあり、延喜式によれば、後に内膳司の長官に内膳正といふ名も起りたるが、それは式部式に、

凡内膳司長除高橋安曇二氏以外爲正

とあるが、後には奉膳の名すたれて専ら正の名を用ゐられたり。されど、職原抄に

内膳司 掌御膳事

正一人 奉膳一人 近代奉膳乃爲正、高橋氏相傳任之

とありて高橋氏は後々までも内膳司の長官たりしなり。この時に奉膳たりし人は誰なるか明かならず。續日本紀によるに、神護景雲二年二月勅ありて、以高橋安曇二氏任内膳司者爲奉膳、其以他氏任之者宜名爲正とあり。按ずるに、その以前には専ら奉膳とのみいひしものならむ。天平寶字三年十一月に從五位下高橋朝臣子老爲内膳奉膳、又天平寶字六年四月に從五位下高橋朝臣老麿爲内膳奉膳の記事あればなり。されど、これらの人はこの歌の作者といふべき證なし。

(昭和十一年七月六日稿了、八月二十一日再訂了)



## 萬葉集講義卷第三附錄

### 萬葉問題集 卷三

この問題集の本旨は卷一の附録に述べたれば、今くりかへさず。なほこの問題集も主として、その問題として存する部分を指摘するに止めたり。本書に於いて著者が意見を述べたるものにつきてもなほ學者の講究を要すと思ふものはここに問題として採録せり。

問題の下にその歌の番號と本書にはじめてあらはれたる頁とを注記すること卷一、卷二におなじ。而して同一の語の屢出づるものは最初のものをあぐるに止む。次に、卷一、卷二に既に問題として掲げたるものは本卷に於いては便宜上これを略することあり。

### 卷第三中の問題

獵路池 「二三九」(三六頁)



- 春日王 「二四三」(五三頁)
- 野坂乃浦 「二四六」(六〇頁)
- 石川大夫 「二四七」(六二頁)
- 舟公宣 「二四九」(七一頁)
- 可古能島 「二五三」(八一頁)
- 潮 「二五三」(八一頁)
- 留火 「二五四」(八六頁)
- 雪驟朝樂毛 「二六二」(一一九頁)
- 馬莫疾打莫行 「二六三」(一二三頁)
- 赤乃曾保船 「二七〇」(一五二頁)
- 四極山 「二七二」(一六三頁)
- 笠縫之島 「二七二」(一六三頁)
- 磯前 「二七三」(一六六頁)

- 八十之湊 「二七三」(一六六頁)
- 軍布 「二七八」(一八七頁)
- 髮梳乃少櫛 「二七八」(一八七頁)
- 名次山 「二七九」(一九三頁)
- 角松原 「二七九」(一九三頁)
- 石上卿 「二八七」(二一九頁)
- 夜隱 「二九〇」(二三三頁)
- 角麿 「二九二」(二四七頁)
- 廬前乃角大河原 「二九八」(二六七頁)
- 行年 「二九九」(二七三頁)
- 久米能若子 「三〇七」(三〇四頁)
- 京引 「三一二」(三三一頁)
- 奈麻余美乃 「三一九」(三六〇頁)



- 水乃當 『三一九』 (三六〇頁)
- 射狹庭乃崗 『三二二』 (三九五頁)
- 臣木 『三二二』 (三九六頁)
- 飽田津 『三二三』 (四〇七頁)
- 登保志呂之 『三二四』 (四一三頁)
- 宇禮牟曾 『三二七』 (四三六頁)
- 淵有毛 『三三五』 (四五五頁)
- 白縫筑紫 『三三六』 (四六〇頁)
- 湖 『三五二』 (五〇三頁)
- 高城乃山 『三五三』 (五〇六頁)
- 繩乃浦 『三五四』 (五〇八頁) 『三五七』 (五一七頁)
- 志都乃石室 『三五五』 (五一〇頁)
- 粟島 『三五八』 (五一九頁)

- 阿倍乃島 『三五九』 (五二一頁)
- 佐農能崗 『三六一』 (五二五頁)
- 告志五余 『三六二』 (五二八頁)
- 手結 『三六六』 (五四三頁)
- 石上大夫 『三六八』 (五五二頁)
- 飢海 『三七一』 (五六六頁)
- 高座之 『三七二』 (五七〇頁)
- 容鳥 『三七二』 (五七〇頁)
- 祈奈牟 『三七九』 (五九二頁)
- 情進莫 『三八一』 (六〇四頁)
- 明(朋)神之 『三八二』 (六〇七頁)
- 儕立乃 『三八二』 (六〇七頁)

著者は高座は高御座にあらずと本書にいへり。諸家の講究をまつ。



見杲石山 「三八二」(六〇七頁)

吉志義我高嶺 「三八五」(六二三頁)

草取可奈和 「三八五」(六二三頁)

納回 「三九〇」(六五七頁)

鳥總立 「三九一」(六六一頁)

金明軍 「三九四」(六七七頁) (四五八) (八三三頁)

託馬野 「三九五」(六八二頁)

ツクマヌ」とよみうべきものにあらぬは本書に論ぜり。著者の一案は本書にあげたれどもとより一案に止まる。學者の講究をまつ所なり。

待鹿爾繼而行益乎 「四〇五」(七一三頁)

著者の案は本書にいへり。なほ講究を要す。

認有 「四〇六」(七一七頁)

同上

屋前 「四一〇」(七三五頁)

伊奈太吉爾伎須賣流玉 「四一二」(七四三頁)

池般 「四一六」(七六二頁)

手弱寸 「四一九」(七七二頁)

七相菅 「四二〇」(七七六頁)

田葛 「四二三」(八〇〇頁)

霏薇 「四二九」(八二二頁)

これに關する著者の見解は動くまじと思はるれど、なほ一段の研究を要す。

名豆颯 「四三〇」(八二四頁)

同上

倭文幡乃帶解替而廬屋立妻問爲家武 「四三一」(八三一頁)

松之根也遠久寸 「四三一」(八三一頁)

加麻。幡夜能美保乃浦 「四三四」(八四六頁)



- 清之河 [四三七] (八五五頁)
- 香君 [四四三] (八七五頁)
- 牛留鳥 [四四三] (八七五頁)
- 天木香樹 [四四六] (九〇二頁)
- 心神 [四五七] (九二七頁)
- 内日指 [四六〇] (九四二頁)
- 豫 [四六八] (九八五頁)
- 情神 [四七一] (九九〇頁) (心神参照)
- 活道山 [四七八] (一〇一四頁)

### 萬葉集講義卷第三 索引

#### 例言

- 一、本索引は二部に分る。一部は國語索引にして、二部は漢字索引なり。これらはいづれにもこの巻の國語及び漢字をすべて網羅してあげむことを目的としたること前巻の場合におなじ。
- 二、記載例は前巻の場合におなじきを以て、詳細の説明は前巻のものを見らるべし。但しこの巻に至りて稍方法をかへたるものなきにあらず、されど、大綱はもとより變更せざるものなり。
- 三、一の歌の中に二回あらはるゝものはその項數を二回あぐることゝしたり。



國語索引

國語索引

ア

- あ(吾勢) 276 一本(ワ参照)
- (吾將枕) 439
- (吾乎召麻之乎) 464
- あかし(明石之浦爾) 326
- (自明門) 255
- (開乃門從者) 388
- あかしおほと(明大門) 254
- あき(秋夜者) 324
- あきかせ(秋風) 361 462 465
- あきつは(秋津羽之) 376
- アキラム(明)
- あきらめ(明米之) 478
- アク(飽)
- あか(不飽) 297 459
- (不飽鴨) 307
- (不飽香聞) 319
- アク(明、開)
- あけ(此夜乃將明跡) 388

- (開去歲) 388
- (明去者) 388
- あけ(赤乃曾保船) 270
- あご(網子) 238
- あさ(朝夕) 443 456 458
- (朝不離) 372 423
- (朝爾食爾) 377 403
- アサカハワタル
- あさかはわたり(朝川渡) 460
- あさがり(朝獵) 478
- あさぎり(朝霧) 481
- あさぐも(且雲) 324
- あさけ(寒朝開) 361
- あさちはら(淺茅原) 333
- あさとのり(朝鳥之) 381 483
- あさなな(朝旦) 408
- あさぬ(淺野之雉) 388
- あさびらき(且開) 351
- あさり(磯廻爲鴨) 368
- あしがらやま(足柄山) 391

- あしきた(葦北) 246
- あした(朝庭) 481
- あしたづ(蘆鶴之) 456
- あしひきの(足日本之) 297
- (足日本乃) 466
- (足日本能) 414
- (足檜木乃) 477
- (足氷木乃) 460
- あしべ(葦邊) 362
- あじろぎ(阿白木爾) 264
- あす(明日從) 423
- (從明日香) 423 一云
- あすか(明日香庭) 268
- (明日香能舊京師) 324
- (明日香河乃) 356
- あすかがは(明日香河) 325
- (明日香川) 356
- アス(淺)
- あせ(淺爾家留香裳) 292
- あそびのみち(遊道爾) 347

アソブ(遊)

- あそぶ(遊船爾波) 257
- アタタケン(暖)
- あたたけく(暖所見) 336
- あたひ(價無寶) 345
- あたら(安多良船材乎) 391
- あたり(家當) 254
- (家門當) 255 一本
- あぢむら(味村) 257
- (阿遲村動) 260
- あづさゆみ(梓弓) 311 478
- あづま(東國) 382
- あと(跡無如) 351
- (跡無) 466
- アトモフ(率)
- あともひ(率比賜比) 478
- あな(痛醜) 344
- あに(豈益目八) 345
- (豈若目八目) 346
- あは(粟) 404 405
- あはしま(粟島) 358
- あはち(粟路) 251

國語索引

- あはぢしま(淡路島) 388 388
- あはれ(阿恰) 415
- あびき(網引爲跡) 238
- アフ(逢、相)
- あは(相半鴨) 427
- (不相久美) 310
- (君爾不相可開) 379
- (君爾不相鴨) 330
- (不相兒故荷) 372
- あひ(相見染跡衣) 300
- (昔人乎相見如之) 309
- (相見之妹) 474
- (相之兒等) 284
- (相爾來鴨) 267
- あふ(逢因) 483
- あへ(逢耶) 425
- (親魄相哉) 417
- アフ(敢)
- あへ(安倍而) 388
- (競敢六鴨) 302
- アフグ(仰)
- あふぎ(仰而) 239

- あふみ(淡海乃海) 266
- (近江海) 273
- あべ(阿倍乃市道) 284
- アヘグ(喘)
- あへぎ(阿倍寸管) 366
- あべのしま(阿倍乃島) 359
- あま(海人) 238 278 413
- (海人釣船) 256 294
- (海部) 256 一本
- (白水郎) 252
- (海女) 239
- あまぐま(天雲) 319 321 420 443
- (天雲之) 235
- あまざかる(天離) 255
- あまづたひ(天傳來) 260
- あまのかはら(天川原) 420
- あまのさぐめ(天之探女) 292
- あまのはら(天原) 289 317 379
- あまをとめ(海未通女) 366
- あみ(網爾刺) 240
- あめ(天) 239 240
- (天所知奴禮) 475



(天所知牟登) 476  
 (天地) 316 317 420 420 443 478  
 (天有) 420  
 (天之芳來山) 257  
 あめ(雨) 265 299 374 460  
 あもりつく(天降付) 257  
 (天降就) 260  
 あや(綾爾恐之) 475  
 (文爾恐之) 478  
 アヤシ(靈)  
 あやしき(靈寸物香) 388  
 あやめぐさ(菖蒲) 423  
 あゆこ(年魚小) 475  
 あゆちがた(年魚市方) 271  
 あらかじめ(豫) 468  
 アラシ(荒)  
 あらき(荒其路) 381  
 あらたへの(荒栲) 252  
 あらたまの(荒玉之) 443 480  
 あらたよ(新世爾) 481  
 あらやまなか(荒山中爾) 241  
 あられ(霞) 385

アリ(有)

あら(直幸有者) 288  
 (樂有者) 348  
 (有雲知之) 258  
 (樂有名) 348  
 (樂乎有名) 349  
 (不取香聞將有) 386  
 (不改將有) 315  
 (所燒乍可將有) 269  
 (常將有等) 242  
 (有牟) 428  
 (共將有跡) 451  
 (空跡將有登曾) 442  
 (將有乎) 467  
 (將有哉) 438  
 (將有八方) 410  
 (妹鴨有牟) 428  
 (伊香爾安良牟) 285 一云  
 (奈何將有) 285  
 (絶日安良米也) 243  
 (此間毛有益神) 387  
 (神者不有) 406

四

(人跡不有者) 343  
 (常有奴可) 332  
 (久者不有) 335  
 (時爾波不有跡) 441  
 (志賀爾安良七國) 263  
 (家裳不有國) 265  
 (孤悲爾不有國) 325  
 (庭好有之) 256  
 (清有師) 315  
 (貴有師) 315  
 あり(蟻通島門) 304  
 (安里我欲比) 479  
 (有金手) 388  
 (有言八方) 424  
 (有跡) 446  
 (雖有) 402  
 (啖而有哉) 455  
 (有世婆) 466  
 (在鶴公) 443  
 (在管裳) 324  
 (公者在然) 444  
 (安里氣禮騰) 308

(有家留) 401  
 (有家類物乎) 455  
 (有家留物乎) 470  
 (有家武人) 451  
 (淵有毛) 335  
 (悲喪有香) 459  
 (客有間爾) 460  
 (名付而有毛) 319  
 (酒西有良師) 340  
 (酒西有良之) 342  
 (可飲有良師) 338  
 (益有良之) 341  
 (可有良師) 347  
 あれ(死物爾有者) 349  
 (不免物爾之有者) 460  
 (客之有者) 366  
 (間違之有者) 413  
 (世間爾有者) 466  
 (女有者) 419  
 (左波爾雖有) 382  
 (壽爾之在者) 461  
 (世之事爾在者) 482

イ

(左波爾雖在) 322 460  
 (常世有跡) 446  
 (物爾波在跡) 481  
 ありそ(荒磯爾生) 363  
 ありまやま(有間山) 460  
 アル(生)  
 あれ(生來神之命) 379  
 アル(荒)  
 あれ(安禮爾家留可毛) 302 一云  
 (荒爾鷄里) 479  
 (荒有家) 440  
 あるく(公之阿流久爾) 425  
 あれ(朕) 236 (われ參照)  
 (吾) 275 276 一本 310 437 470  
 (我) 276  
 あをによし(青丹吉) 328  
 あをやま(青山之嶺乃白雲) 377  
 い(寢乃不勝宿者) 388  
 い(格助詞)(志斐伊波奏) 287  
 い(間投助詞)(不絶射妹與) 480

五

いかさま(何方爾) 443 460  
 いかづち(雷之上爾) 295  
 いかに(伊香爾安良牟) 285 一云  
 (奈何將有) 285  
 (如何) 462  
 (何在) 443  
 (如何爲鴨) 403  
 いくち(活道乃路) 479  
 いくちやま(活道山) 478  
 いくよ(幾代將經) 355  
 いけ(池之激爾) 378  
 (磐余池) 416  
 いけなみ(池浪) 257 260  
 いざ(去來) 280  
 (率兒等) 388  
 (率行) 293  
 いさなとり(勇魚取) 368  
 いさにはのをか(射狹庭乃崗) 322  
 イサヨフ(躊躇)  
 いさよひ(心射左欲比) 372  
 いさよふ(不知夜代經浪) 264  
 (射狹夜歷月) 393



(伊佐夜經雲) 428  
 いざりする(伊射里爲流) 256 一本  
 いしうら(石卜) 420  
 いせ(伊勢海之) 306  
 いそ(磯) 447 448  
 (磯前) 275  
 (磯越道有) 314  
 (宇乃住石爾) 359  
 (磯之草根) 435  
 いそがくり(磯隱居而) 388  
 いそのかみ(石上) 422  
 いそみ(石轉爾生) 362  
 いた(痛毛爲便奈美) 456  
 イタシ(痛、甚)  
 いたく(疾打莫行) 263  
 いたき(痛情者) 472  
 (智己所痛) 466  
 イタル(至)  
 いたれ(春爾至婆) 257  
 イタレリ  
 いたれる(至流左右) 420  
 いち(東市) 310

いちぢ(阿倍乃市道) 284  
 いつ(何時間) 259  
 (何時可) 279  
 (何時毛將超) 282  
 (何時鴨) 388  
 (何時毛何時毛) 398  
 (何時毛) 467  
 イヅ(出)  
 いで(撈出牟) 388  
 (色爾將出八方) 301  
 (出立) 481  
 (出立而) 420  
 (出立有) 319  
 (出來月) 290  
 (出行道) 468  
 (海路爾出而) 366  
 (出而) 461  
 (家從裳出而) 481  
 (保爾曾出流) 326  
 いづ(亂出所見) 256  
 いづる(出流船人) 233

イツク(齋)  
 いつき(伊都伎坐等) 420  
 いづく(何處) 275  
 (家八方何處) 287  
 (何所可將寄) 480  
 いづも(出雲兒等) 429  
 (出雲子等我) 430  
 いづら(何在登) 448  
 いでまし(行幸之宮) 315  
 いでましどころ(幸行處) 296  
 (行幸處) 322  
 いと(甚近) 411  
 いとま(無暇) 278  
 いな(不聽) 236 237  
 いなだき(伊奈太吉) 412  
 いなびぬ(稻日野) 253  
 いなみ(稻見乃海) 303  
 いにしへ(古所念) 266 313  
 (古思者) 324  
 (古爾) 387  
 (古之七賢人) 340  
 (古昔) 431

(古昔大聖) 339  
 (古者之) 378  
 イヌ(往)  
 いな(往者) 382  
 いに(撈去師船) 351  
 (往公鴨) 446  
 (往監) 443  
 いのち(吾命之) 288  
 (吾命毛) 331  
 (壽) 461  
 いはがね(磐金之) 301  
 いはと(石戸) 418 419  
 いはね(石根) 414  
 いはひべ(齋忌戸) 443  
 (齋戸) 379 420  
 イハフ(匍匐)  
 いはひ(伊波比拜) 239  
 (伊波比拜目) 239  
 (伊波比毛等保理) 239  
 (伊波比回禮) 239  
 イハフ(齋)  
 いはひ(忌穿居) 379

いはふね(石船) 292  
 いはほ(石穗) 420 421  
 いはもとすげ(磐本菅) 397  
 いはや(石室者) 308  
 (三穗乃石室) 307  
 (志都乃石室) 355  
 いはやど(石室戸) 309  
 いはれ(石村) 282 423  
 (磐余池) 416  
 イフ(言)  
 いは(居中跡所言奚米) 312  
 (所云人者) 443  
 (將言爲便) 342 460  
 (將云爲便) 481  
 (有不言八方) 424  
 (言卷毛) 475  
 いひ(言繼將往) 317  
 (人之言嗣) 382  
 (言不得) 319  
 (言毛不得) 466  
 (苗有跡云師) 407  
 (人曾言鶴) 420

いふ(價無實跡言十方) 345  
 (玉跡言十方) 346  
 (死云事爾) 460  
 (不見跡云物乎) 305  
 (所見云物乎) 396  
 (物言從者) 341  
 いへ(云者) 463  
 (不聽跡雖云) 236  
 (不聽雖謂) 237  
 (人者雖云) 400  
 イフル(觸)  
 いふり(伊觸家武) 435  
 いへ(家) 265 460 461  
 (家當) 254  
 (家八方何處) 287  
 (家妹) 360  
 (家戀良霜) 365  
 (思家登) 381  
 (妹家) 398 399  
 (家有者) 415  
 (家待莫國) 426  
 (荒有家) 440



(離家) 471  
 (家從裳出而) 481  
 (宅) 460  
 いへぢ(家道) 302  
 いへづと(家裏) 306  
 いほえ(五百枝刺) 324  
 いほさき(盧前乃) 298  
 いほはら(盧原乃) 296  
 いほり(盧爲流鴨) 285  
 いま(今毛) 308  
 (今見者) 316  
 (今盛有) 328  
 (今者將罷) 337  
 (今亦更) 483  
 (今者都引) 312  
 (從今者) 462  
 (今者) 482  
 (今毛可毛等奈) 356 或本  
 いまだ(未者伎禰村) 336  
 (未服而) 395  
 (未著穢) 413  
 (未干爾) 469

イマス(坐)  
 いまし(伊座都流香物) 420  
 (伊座勢波) 454  
 (伊座之君) 459  
 (座之物乎) 460  
 (伊座家留) 307  
 (將座) 355  
 います(伊都伎坐等) 420  
 (靈母座神香聞) 319  
 (鎮十方座祇可聞) 319  
 (敷座國之盡) 322  
 (離家伊麻須吾妹) 471  
 いませ(伊麻世) 381  
 (念座可) 443  
 いめ(夢乃和太) 335  
 いも(妹) 326 428 437 447 449 464 463 469 470 473  
 (妹母) 276  
 (妹者) 286  
 (妹名) 385  
 (妹乎) 300 376  
 (妹手) 385  
 (妹之手) 415

(妹之家裏) 306  
 (妹家) 398 399  
 (家妹之) 360  
 (妹爾) 445  
 (妹之有世婆) 466  
 (與妹爲而) 452  
 (不絶射妹與) 481  
 いや(彌繼嗣爾) 324  
 (益目頼四寸) 239  
 (益及常世) 260  
 (彌遠長爾) 423 一云 478  
 (彌遠長) 443  
 (彌遠永) 423  
 (彌日異) 475 478  
 イユク(行)  
 いゆき(伊去波伐加利) 317 319  
 (伊去羽計) 321  
 いゆく(伊去吾妹可) 467  
 いゆけ(伊去者) 459  
 いよ(伊與) 388  
 (伊豫能高嶺) 322  
 いよよ(彌清成爾來鴨) 316

いりえ(入江) 433  
 いりひなす(入日成) 466  
 イル(入)  
 いら(入日) 254  
 いら(入居) 451  
 (入爾之山乎) 481  
 イル(射)  
 い(射都流矢) 364  
 いろ(色爾將出八方) 301  
 (色出來) 395

うち(大宮之内二手) 238  
 (國中者) 329  
 ウツ(打)  
 うた(梁者不打而) 396  
 うち(打出而) 318  
 (打越見者) 272  
 (打越去者) 365  
 (打靡) 260 433 475  
 (疾打莫行) 263  
 うつ(梁打人) 387  
 うちのへ(内重) 443  
 うちひさす(内日指) 460  
 うちよする(打縁流) 319  
 ウツクシ(愛)  
 うつくしき(愛人) 438  
 うつせみの(鬱蟬乃) 443  
 (虛蟬之) 465  
 (打蟬乃) 466  
 (打背見乃) 482  
 うづら(鶉) 239  
 うづらなす(鶉成) 239  
 ウツル(移)

うつり(移伊去者) 469  
 ウツロフ(移)  
 うつろひ(移爾氣里) 478  
 うへ(雷之上爾) 235  
 (礮上) 448  
 (石穗乃上) 420 421  
 (瀧上之) 242  
 (濱松之上) 444  
 (船上) 259  
 (三湯之上) 322  
 (大殿於) 260  
 (玉藻之於爾) 390  
 うべ(字倍) 310  
 うま(馬並而) 239  
 (馬莫疾打莫行) 263  
 (我乘有馬曾) 365  
 ウマル(生)  
 うまるれ(生者) 349 460  
 うみ(海成可聞) 241  
 (伊勢海之) 306  
 (稻見乃海) 303  
 (飲海乃) 371



- (彼山之堤有海會) 319
- (飼飯海) 256
- (越海之) 366 367
- (石花海) 319
- (武庫之海) 256 一本
- うみぢ(海路) 366
- うめ(梅乎) 392
- (開有梅之) 398
- (梅樹) 453
- (梅花) 399 400
- うら(明石之浦) 326
- (田兒之浦) 318
- (手結我浦) 366
- (手結之浦) 367
- (鞆浦) 446 447
- (繩乃浦) 364
- (繩浦) 357
- (鈴坂乃浦) 246
- (藤江之浦) 252
- (見穗乃浦) 296
- (武庫浦) 358
- うらみ(納回) 390

- (浦廻之) 434
  - うれむぞ(宇禮牟會) 327
  - ウウ(植)
  - うゑ(殖生) 410
  - (殖而師故二) 411
  - (殖之) 453 464
  - うゑき(殖木) 310
  - うゑこなき(殖子水葱) 407
- エ
- え(枝)(柄者指爾家牟) 407
  - えだ(枝將有八方) 400
  - (賢木之枝) 379
  - (柘之枝) 387
  - えなつ(得名津) 283
- オ
- おうのうみ(飢海) 371
  - おき(奥傍) 270
  - (吉野川奥) 430
  - (奥爾持行而) 327
  - (奥部) 274

- 一〇
- おきつしま(奥島) 357
  - おきつしらなみ(奥津白浪) 294 306
  - おきつなみ(奥津浪) 303
  - (奥浪) 247
  - おきへ(奥邊波) 257
  - (奥邊者) 260
  - おく(奥爾念乎) 376
  - オク(置)
  - おか(塞毛置末思乎) 468
  - おき(立置而) 388
  - (置而) 443
  - (坐置而) 443
  - (若子乎置而) 467
  - (哭乎毛置而) 481
  - おく(置幣者) 300
  - (零置雪者) 320
  - おくつき(奥柳) 431 474
  - おくつきどころ(奥津城處) 432
  - おくやま(奥山) 299 379 397
  - おくら(憶良等者) 337
  - オコス(起)
  - おこし(弓上振起) 364

- (心振起) 364
  - (踐起) 478
  - オサフ(抑)
  - おさへ(抑駐) 478
  - おして(押光) 443
  - おすひ(押日取懸) 379
  - おと(音之清左) 314
  - おび(帶) 481
  - オフ(負)
  - おひ(負來爾之) 286
  - (取負而) 478
  - (鞆帶而) 480
  - (負見) 481
  - おふ(名負鞆) 480
  - オフ(生)
  - おひ(生繼爾家里) 322
  - (水草生家里) 378
  - (繁生有) 324
  - おふる(石轉爾生) 362
  - (荒磯爾生名乘藻) 363
  - (生流紫) 395
  - おほ(於保爾會見給流) 476
- 國語索引

- (髣髴爲乍) 481
- おほあらし(大荒城乃時) 441
- おほきひじり(大聖之言乃宜左) 339
- おほきみ(吾於富吉美可聞) 289
- (皇者) 235 241
- (王者) 243
- (王之) 417
- (王之命) 443
- (大皇) 441 460
- (大王) 369
- (大王之) 297 304
- (大王之命恐) 368
- (吾王) 475 476 477 478
- (吾王之) 329
- (吾大王) 239 260 420
- (我大王) 240
- (我大王之) 295
- オホス(生)
- おほし(殖生) 410
- (種生之) 384
- オホス(負)
- おほせ(聖跡負師) 339

- おほつ(志賀乃大津) 288
- おほと(明大門) 254
- おほとの大殿於) 260
- おほとも(大伴之) 480
- おほなむち(大汝) 355
- おほぶね(大船之) 423 一云
- (大舟爾) 366
- (大船二) 368
- おほみま(大御馬) 478
- おほみや(大宮之内) 238
- おほみやびと(大宮人) 257 260 323
- おほやまと(大日本) 475
- おみ(臣之壯士) 369
- おみのき(巨木) 322
- おも(母) 443
- おもかけ(面影爲而) 396
- オモフ(思)
- おもは(辭思爲師) 322
- (思波牟) 452
- (物乎不念者) 333
- (不思想) 476
- (和我不念久爾) 242



- (我思莫苦) 244
- (不思爾) 444
- おもひ(思過倍吉) 422
- (念應過) 325
- (念會吾爲流) 372
- (念座可) 443
- (念憑而) 423 一云
- (思出) 473
- (歌思辭思爲師) 322
- (念而) 423
- (思之物乎) 392
- (念鷄目鴨) 460
- (念乍) 423
- おもふ(無人思爾) 434 或云
- (奧爾念乎) 376
- (將蔣登會念) 384
- (因鹿跡叙念) 481
- おもへ(物念者) 833
- (念者) 434 474
- (古思者) 324
- (榜與雖思) 260
- (雖念) 409

- オモヘリ(思有)
- おもへり(念有之君) 457
- (思有之の心) 481
- おもへる(念有笠乃山) 374
- おもへれ(思有者) 253
- おもほす(御念八君) 330
- オモホユ(所思)
- おもほゆ(古所念) 266 313
- (所念) 433
- (神代之所念) 304
- (日本師所念) 359
- (京師所念) 329
- おもほゆる(所念可聞) 333
- おもほゆらく(所念國) 371
- (所念久爾) 463
- おや(親者知友) 362
- (祖名) 443
- (父母) 363
- およづれ(於余頭禮可) 420
- (逆言之) 421 475
- オロス(下)
- おろし(貫下) 366

力

- カ(助詞) (カモ)は別にあぐ
- (誰孀可) 426
- (誰手本乎可) 439
- (何時可) 279
- (何時然跡) 445
- (何所可將寄) 480
- (白水郎跡香將見) 252
- (狂言加) 420
- (歲月日香) 443
- (從明日香) 423 一云
- (不見歟將成) 331
- (於余頭禮可) 420
- (所燒可將有) 260
- (棕橋乃山乎高可) 290
- (念座可) 443
- (今毛可毛等奈) 356 或本
- (伊去吾妹可) 467
- (零來雨可) 265
- (靈寸物香) 388
- (悲喪有香) 459

- (神佐備居賀) 245
- (語將告可) 448
- (常有奴可) 331
- (神佐備祁留鹿) 259
- (カを加へてよむもの)
- (何處吾將宿) 275
- (如何獨) 462

ガ(格助詞)

- (手結我浦) 366
- (野島之埼) 259
- (野島之前) 251
- (天之探女之石船) 292
- (志斐能我強語) 236
- (手兒名之奧柳) 431
- (手兒名之奧津城處) 432
- (和世故我三船) 247
- (吾背子我古家之里) 268
- (妹之手) 415
- (吾妹子之奧柳) 474
- (兒等之家道) 302
- (松之根) 431
- (不忘之爲) 334

- (消去之如久) 466
- (君之隨意) 412
- (出雲子等我) 430
- (久米能若子我) 307 435
- (君我黃葉乃移伊去者) 459
- (泊瀬越女我手纏在) 424
- (妹我可悔) 437
- (妹之結) 251
- (妹之家裏) 306
- (家妹之濱裏乞者) 360
- (妹之殖之) 464
- (妹之有世婆) 466
- (妹之見師) 469
- (吾妹子之將結標) 402
- (吾妹子之見師) 446
- (吾妹子之殖之) 453
- (吾妹子之入爾之山) 481
- (吾背乃君之負來爾之) 286
- (君之臥有) 421
- (君之阿流久) 425
- (香君之牛留島名津師來與) 443
- (君之云者) 463

- (此之將死還生) 327
- (ガを加へてよむもの)
- (妹家) 398 399
- (妹手) 385
- (薰如) 328
- (無跡如) 351

ガ(終助詞) (ガモは別に出す)

- (其花爾毛我) 408
- (花爾欲得) 306
- (外爾見而思香) 393
- かがみのやま(鏡山) 417 418
- かがみやま(鏡山) 311
- かく(如此) 455
- (如此谷袋) 379
- (如此谷母) 380
- (如是故爾) 305
- (如是耳) 470
- (如此耳余良之) 478
- (如此耳跡) 472
- (如此毛欲得跡) 478
- かくにも(此方彼方) 412
- カク(懸)



かけ(此勢能山爾懸者) 285  
 (懸卷欲寸) 285  
 (掛卷母) 475  
 (掛卷毛) 478  
 (押目取懸) 379  
 (可比奈爾懸而) 420  
 (懸而) 366  
 (懸有) 289  
 カク(關)  
 かけ(滿闕爲家流) 442  
 カクス(隱)  
 かくさ(將隱乎) 269  
 かくやま(香山) 259  
 (天之芳來山) 257  
 (神乃香山) 260  
 (香具山乃) 334  
 カクル(隱)  
 かくり(隱益去禮) 460  
 (隱去可婆) 466  
 (隱奴) 303  
 かくる(榜隱) 272  
 カクロフ

かくろひ(隱比) 317  
 かけ(度日之陰毛) 317  
 かこのしま(可古能島) 253  
 カザス  
 かざす(挿頭跡) 423  
 かさぬひのしま(笠縫之島) 272  
 かさのやま(笠乃山) 374  
 かざはやの(加麻幡夜能) 484  
 カシコシ  
 かしこし(恐之) 475  
 (文爾恐之) 478  
 (高見恐見) 321  
 (大王之命恐) 297  
 (大皇之命恐) 441  
 (浪矣恐) 249  
 (浪乎恐美) 388  
 (恐等) 289  
 カス(貸)  
 かさ(衣借益矣) 361  
 かすが(春日) 404  
 (春日野) 405  
 460

(春日里) 407  
 (春日山乃) 372  
 かすみ(霞) 473  
 (霞立) 257  
 かせ(風乎疾) 294  
 かせまもり(風候) 331  
 かたこひ(片戀耳爾) 372  
 カタシ(難)  
 かたき(卷難寸) 409  
 かたて(一手者) 443  
 443  
 かたみ(引者難三等) 414  
 カタラフ(語)  
 かたらひ(語而) 443  
 カタル(語)  
 かたり(語之告者) 313  
 (語將告可) 443  
 (語告言繼將往) 317  
 (語繼金) 364  
 かたれ(話禮話禮常) 287  
 かつ(梶棹毛) 257  
 (竿梶母) 260  
 (真梶) 366  
 368

かちぬ(勝野原) 275  
 かつ(可都知跡) 472  
 カツ(難)  
 がて(去過勝爾) 253  
 (不勝宿者) 333  
 かつき(潜爲) 258  
 かつしか(勝牡鹿) 431  
 432  
 433  
 かつら(蘊爾) 428  
 がてり(君待香光) 370  
 カナシ(悲)  
 かなしく(悲喪有香) 459  
 かなし(悲霜) 434  
 或云  
 かなしき(悲呂可聞) 473  
 かなわ(草取可奈和) 385  
 かにも(此方彼方) 412  
 カヌ(難)  
 かね(停不得) 471  
 (有金手) 333  
 (待不得而) 268  
 (超不超而) 301  
 (行過不得而) 354  
 (不忍都毛) 472

(忘不得裳) 397  
 (別不勝鶴) 276  
 がね(語繼金) 364  
 かは(河) 324  
 (河四清之) 324  
 (水可良思) 315  
 (吉野川) 430  
 かはかせ(河風) 425  
 かはぎし(河岸) 437  
 かはせ(河湍爾波) 475  
 かはづ(河津者驟) 324  
 (川津鳴瀬) 356  
 かはよど(川余藤不去) 325  
 (川余村) 375  
 かはら(河原之乳爲) 371  
 (角太河原) 420  
 (天川原) 420  
 カハラフ(更)  
 かはらふ(更經見者) 473  
 カハル(更)  
 かはら(不改將有) 315  
 (鳴鳥之音毛不更) 322

かひ(甲斐乃國) 319  
 かひな(可比奈) 420  
 カフ(替)  
 かい(可倍波) 285  
 一云  
 (解替而) 431  
 (指可倍氏) 481  
 カヘス(返)  
 かへす(吹返) 251  
 カヘル(還)  
 かへり(濱眷奴) 294  
 かへる(應還) 439  
 かへるさ(還左爾) 449  
 かほどり(容鳥) 372  
 かみ(神爾之生者) 241  
 (神二四座者) 235  
 (靈母座神香聞) 319  
 (皇神祖之神乃御言) 323  
 (神之命) 379  
 (神之社) 404  
 (神之御門) 443  
 (神者不有) 406  
 (認有神會) 406



(神祇) 443  
 (鎮十方座祇可聞) 319  
 (神乃香山) 260  
 かみよ(神代) 382  
 (神代之所念) 304  
 カムサフ  
 かむさび(神佐備將往) 322  
 (神佐備居賀) 245  
 (神左備手) 317  
 (神佐備爾) 420  
 (神左備祁留鹿) 259  
 かむなびやま(神名備山) 324  
 かも(鴨妻喚) 257 260  
 (鴨會鳴成) 375  
 (鴨尙爾) 390  
 (鳴鴨乎) 416  
 かも(かくも)(左右將爲) 399  
 かも(助詞)(カ助詞參照)  
 (獨可毛將去) 276 一本  
 (獨可毛將宿) 298  
 (妹鴨有牟) 428  
 (猿二鴨似) 344

(外爾可聞見牟) 423  
 (狂言等可聞) 421  
 (狂言登加聞) 475  
 (今日可聞) 356  
 (何時毛將超) 282  
 (何時鴨) 388  
 (如何爲鴨) 408  
 (不取香聞將有) 386  
 (所念可聞) 333  
 (一有加母) 276  
 (不飼鴨) 307  
 (不飽香聞) 319  
 (波之吉可聞) 479  
 (齋忌志伎可物) 475  
 (悲呂可聞) 478  
 (盧爲流鴨) 235  
 (磯廻爲鴨) 368  
 (戀哭爲鴨) 373  
 (相牟鴨) 427  
 (競敢六鴨) 302  
 (海成可聞) 241  
 (君爾不相可聞) 379

(君爾不相鴨) 380  
 (開家流香聞) 464  
 (淺爾家留香裳) 292  
 (安禮爾家留可毛) 307 一云  
 (名積來有鴨) 383  
 (成爾來鴨) 316  
 (成家留鴨) 452  
 (散去奚留鴨) 277  
 (相爾來鴨) 267  
 (伊座都流香物) 420  
 (思努妣都流可聞) 465  
 (見鶴鴨) 248 297  
 (戀敢牟鴨) 311  
 (淵有毛) 335  
 (極此疑) 322  
 (念鷄目鴨) 460  
 (靈母座神香聞) 319  
 (鎮十方座祇可聞) 319  
 (吾於富吉美可聞) 239  
 (吾王香聞) 477  
 (往公鴨) 445  
 (寶十方成有山可聞) 319

かも(手力毛欲得) 419 (カ終助詞參照)  
 (如此毛欲得跡) 478  
 (成而師鴨) 343  
 かやはら(眞野乃草原) 396  
 カヨフ(通)  
 かよは(將通) 324  
 かよひ(將通) 423  
 (通計萬口波) 423  
 (往來乍) 260  
 からし(助詞)(山可良之) 315  
 (水可良思) 315  
 からある(韓藍) 384  
 かりこもの(刈薦乃) 256  
 かりぢ(獵路乃小野) 239  
 カル(刈)  
 かり(玉藻刈藏) 360  
 (玉藻刈兼) 433  
 (軍布刈) 278  
 かる(珠藻刈) 250  
 (玉藻將刈) 293  
 カル(離)  
 かれ(目不離) 300

(從手不離有牟) 403  
 カル(干)  
 かれ(干卷惜裳) 435  
 (雖干) 384  
 かるのいけ(輕池) 390  
 カレリ(借有)  
 かれる(借有身在者) 466  
 キ  
 き(樹爾伐歸都) 391  
 (梅樹) 453  
 (臣木) 322  
 (都賀乃樹) 324  
 (松樹) 309  
 (天木香樹) 446  
 キ(複語尾)  
 せ(伊座勢波) 454  
 (有世婆) 466  
 (種有世伐) 405  
 (無有世伐) 387 404  
 き(戀乍居寸) 370  
 (雲隱去寸) 461

(零寸八) 460  
 し(相之兒等) 284  
 (思之物乎) 392  
 (結之情) 397  
 (吾標結之枝) 400  
 (問之君波母) 455  
 (伊座之君) 459  
 (座之物乎) 460  
 (憑之心) 480  
 (二作之) 452  
 (泊師高津) 292  
 (左宿之妻屋) 481  
 (榮之君乃) 464  
 (殖之梅樹) 453  
 (明米之) 478  
 (妹之殖之屋前之石竹) 464  
 (外爾見之) 482  
 (見之人) 446 448  
 (昔見之) 316  
 (妹之見師屋前) 469  
 (昔見之象小河) 332  
 (二吾見之此埜) 450



- (見師鞆浦) 446
- (相見之妹) 447
- (苗有跡云師) 407
- (聖跡負師) 339
- (名積叙吾來並二) 332
- (來之) 449
- (辭思爲師三湯) 322
- (見之活道乃路) 479
- (思有之心) 481
- (念有之君) 457
- (憑有之人) 460
- (憑有之皇子) 478
- (常有之咲比) 478
- (榜去師船) 351
- (故去之里) 334
- (丹杵火爾之家) 481
- (入爾之山乎) 481
- (負來爾之此勢能山) 286
- (立西日) 443
- (成而師鴨) 343
- (結而石事) 481
- (殖而師故二) 411

- (纏而師) 433
- (定義之) 394
- (シを加へてよむもの)
- (分時從) 317
- (靡寝吾黑髮) 481
- (往公鴨) 445
- (過去人) 427
- (所云人者) 443
- (如聞) 245
- (故郷) 333
- しか(吾去鹿齒) 284
- (隱去可婆) 466
- (外爾見而思香) 393
- (外爾毛見之加) 474
- (公者在然) 444
- きぎし(淺野之雉) 388
- キク(聞)
- きか(不聞而) 236
- きき(如聞) 245
- (吾聞都流) 420
- (我聞都流母) 420
- きく(聞跡云物會) 369

- きけ(聞杼) 431
- キコス(御聞)
- きこし(所聞而) 460
- キコユ(所聞)
- きこゆ(大宮之内二手所聞) 238
- きさのをがは(象乃小河乎) 316
- (象小河) 332
- きし(木笑松原) 295
- きしみがたけ(吉志美我高嶺) 385
- きすめる(伎須賣流玉) 412
- キタル(來)
- きたる(生來神之命) 379
- きぬ(衣借益矣) 361
- (衣染) 395
- きぬがさ(蓋) 240
- きのふ(昨日) 444
- きはまりて(極貴物) 342
- (成極) 481
- きはみ(曾久敝能極) 420
- キホフ(競)
- きほひ(競敢六鴨) 302
- きみ(君社見良目) 231

- (君) 421 422 443 454 456 457 458 463
- (公) 423 443
- (御念八君) 330
- (君乎) 423 一云
- (君乎婆) 423
- (君待香光) 370
- (吾背乃君之) 286
- (君爾不相可聞) 379
- (君爾不相鴨) 330
- (問之君波母) 455
- (君之隨意) 412
- (伊座之君) 459
- (將超公君) 361
- (公者在然) 444
- (往公鴨) 445
- キユ(消)
- きゆれ(消者) 320
- きよみのかは(清之河) 437
- きよみのさき(清見之埜) 296
- きり(立霧乃) 325
- (霧有哉) 429
- キル(切)

- きり(船木伐) 391
- (伐歸都) 391
- キル(著)
- き(人爾莫令蓋) 374
- (將蓋) 374
- (未者伎禰杼) 330
- (未服而) 395
- (不服而) 269
- (未著穢) 413
- (取著而) 478
- ク(來)
- こ(流來者) 336
- (來生者) 343
- (名津匠來與) 443
- (來之) 449
- (名積叙吾來並二) 332
- き(不來座) 418
- (慕來座而) 460
- (渡來座而) 460
- (速來而母) 277

- (負來爾之) 286
- (伎濃) 460 一云
- (來家里) 392
- (來來) 269
- (來二家里) 287
- くる(天傳來) 260
- (出來月) 290
- (零來雨) 265
- くれ(戀來者) 255
- (春去來者) 260
- くぐつ(久具都持) 293
- くさ(草) 335
- くさ(來左) 281
- くさね(草根) 435
- くさまくら(草枕) 366 415 426 451 460
- くず(延葛乃) 423
- (田葛根乃) 423 一云
- クスシ(奇)
- くすしく(奇母) 245
- (靈母座神) 319
- くち(大御馬之口) 478
- くに(已知其智乃國) 319



- (宜國跡) 322
- (國之盡) 322
- (國中者) 329
- (國忘有) 426
- (天雲之向伏國) 443
- (親族兄弟無國) 460
- (敷座國) 460
- (東國) 382
- (甲斐乃國) 319
- (新羅國) 460
- (駿河能國) 319
- (難波國) 443
- (山跡國) 319
- くにのみやこ(久邇乃京) 475
- くにみ(國見爲) 382
- くめのわく(久米能若子) 307 435
- くも(雲) 428
- (立雲之) 244
- (居雲乃) 242
- (於雲) 444
- くもがくり(雲隱座) 441
- (雲隱去牟) 416

- (雲隱去寸) 461
- くもる(雲居多奈引) 372
- (雲居輕引) 460
- くもるなす(雲居奈須) 248 272
- クヤシ(悔)
- くやしき(悔事) 420
- (悔言者) 420
- クユ(悔)
- くゆ(後雖悔) 410
- (可悔) 437
- くらはし(椋橋乃山) 290
- クル(暮)
- くれ(暮去者) 275
- クルシカリ(苦有)
- くるしかり(辛苦有家里) 451
- くるしかる(可辛苦) 440
- クルシ(苦)
- くるしく(苦毛) 265
- くろかみ(黒髪) 430 481
- くろとりの(牛留鳥) 443

ケ

- け(朝爾食爾) 377 403
- (彌日異) 475 478
- (氣並而) 263
- け(消)(消者) 299
- (消去之如久) 466
- けだし(蓋雖有) 402
- (蓋相牟鴨) 427
- ケツ(消)
- けち(雪以滅) 319
- (消通都) 319
- けづり(髮梳乃少櫛) 278
- けひのうみ(飼飯海) 256
- けふ(今日) 416 454
- (今日可聞) 356
- (今日見鶴鴨) 248
- けぶり(火氣) 354
- (災) 366
- ケム(複語尾)
- けむ(家牟) 307 一云
- (知家武) 291
- (將通) 423
- (柄者指爾家牟) 407

- (將座) 355
- (船乘將爲) 322
- (往監) 443
- (將結標) 402
- (將歸人乃) 423
- (有家武人) 431
- (妻問爲家武) 431
- (玉藻刈兼手兒名) 433
- (伊觸家武儀之草根) 435
- (待監人) 443
- けまく(通計萬口波) 423
- けめ(所言奚米) 312
- (念鷄目鴨) 460
- けらし(十二家良進) 271
- (隱爾計良思) 418
- アリ(複語尾)
- (布里家利) 320
- (時者成來) 439
- (辛苦有家里) 451
- (不如來) 350
- (戀爾家里) 236
- (戀爾家利) 310

- (生繼爾家里) 322
- (都備仁鷄里) 312
- (移爾家里) 478
- (荒爾鷄里) 479
- (水草生家里) 378
- (深去來) 274
- (來家里) 392
- (成來) 330
- (色出來) 395
- (來來) 269
- ける(滿闕爲家流) 442
- (於保爾曾見谿流) 476
- (零家留) 318
- (常無里家留) 308
- (憑有來) 470
- (雪者落家留) 317
- (山守之有家留不知爾) 401
- (榜來舟) 260
- (伊座家留三穗乃石室) 307
- (住氣類人) 308
- (神左備那留鹿) 259
- (名積來有鴨) 383

- (散去奚留鴨) 277
- (淺爾家留香裳) 292
- (相爾來鴨) 267
- (安禮爾家留可毛) 307 一云
- (成爾來鴨) 316
- (成家留鴨) 462
- (開家流香聞) 464
- (有家類物乎) 465
- (有家留物乎) 470
- けれ(安里氣禮騰) 308
- コ
- こ(子將哭) 337
- (不相兒故荷) 372
- (腋挾兒乃) 481
- (哭兒成) 460
- (相之兒等羽裳) 284
- (兒等之家道) 302
- (出雲兒等) 429
- (出雲子等我) 430
- コイマロ(展轉)
- こいまろび(展轉) 476



コダ(榜)  
 こが(人不榜有雲) 254  
 (榜與) 260  
 こぎ(榜出牟) 388  
 (我榜行者) 366  
 (榜手回行者) 273  
 (榜回舟者) 357  
 (榜轉小舟) 358  
 (許藝廻者) 389  
 (榜隱) 272  
 (榜將泊) 274  
 (榜將別) 254  
 (榜來舟) 260  
 (榜去師船) 351  
 こぐ(己具人) 257  
 (與榜所見) 270  
 こけ(辭) 259  
 ここ(此間) 287 431  
 (此間毛有益) 387  
 コゴシ(險)  
 こごし(極此疑) 322  
 こごしき(凝敷山) 301

こごしみ(許其思美) 414  
 こころ(心) 437 480  
 (心者不遂) 481  
 (心射左欲比) 372  
 (心振起) 478  
 (心戀敷) 253  
 (情) 453 466  
 (情毛思努爾) 266  
 (結之情) 397  
 (情乎遣爾) 346  
 (情進莫) 381  
 (痛情者) 472  
 (情哀) 467  
 (情悲裳) 450  
 こころと(心神毛奈思) 457  
 (情神毛奈思) 471  
 こし(腰) 478  
 こしのうみ(越海) 366 367  
 こせち(磯越道有) 314  
 こそ(助詞) (鴉已曾) 239  
 (君社見良目) 281  
 (曾己所痛) 466

(昨日社) 444  
 (昔者社) 312  
 (昔許會) 474  
 (十六社者) 239  
 (話禮話禮常詔許會) 237  
 こだかく(木高繁成家留鴨) 462  
 こだち(木立) 262 478  
 こだる(木足左右) 310  
 こちごち(已知其智乃) 319  
 こと(辭思爲師) 322  
 (悔言者) 420  
 (言耳母) 431  
 (辭不問物) 481  
 (言乃宜左) 339  
 (事者將定) 398  
 (絕事無) 324  
 (悔事) 420  
 (死去事爾) 460  
 (事者不果) 481  
 (世之事) 482  
 (事太爾不告) 446  
 ごと(如聞) 246

(跡無如) 351  
 ことごと(國之盡) 322  
 (日之盡) 372  
 (夜之盡) 372  
 (人乃盡) 460  
 ゴトシ(如)  
 ごとく(如千歲) 470  
 (薰如) 328  
 (天見如久) 239  
 (消去之如久) 466  
 ごとし(相見如之) 309  
 ごとき(散去如寸) 477  
 ごとに(多藝通瀬每爾) 314  
 (泣母) 481  
 (每見) 324 453 473  
 (將見每) 447  
 ごとも(兒等) 280  
 (率兒等) 388  
 (子等) 443  
 こぬれ(木末) 267  
 この(此暮) 386  
 (此埜) 450

(此勢能山) 285 286  
 (此旅人) 415  
 (此照月) 443  
 (此日) 275  
 (此夜) 388  
 (此世) 448  
 (今代爾之) 348  
 (今生在間者) 349  
 このくれ(木晚茂爾) 257  
 (木晚茂) 260  
 このごろ(比者) 236  
 (比來) 359  
 (比日) 436  
 このは(木葉) 291  
 こひ(孤悲爾不有國) 325  
 (戀哭爲鴨) 373  
 コフ(乞)  
 こは(濱裏乞者) 360  
 こひ(吾波乞背) 380  
 (吾者祈奈牟) 379  
 (乞禱) 448  
 コフ(戀)

こひ(不戀有益雄) 436  
 (不戀日) 408  
 (不戀有米) 383  
 (君爾戀) 456  
 (戀來者) 255  
 (戀爾家里) 236  
 (戀爾家利) 310  
 (戀乍居寸) 370  
 こふ(家戀良霜) 365  
 こふれ(雖戀) 481  
 こふらく(妹爾戀久) 326  
 コホシ(戀)  
 こほしく(日本戀久) 389  
 こほしき(心戀敷可古能島) 253  
 (物戀敷爾) 270  
 こほしけむ(戀敷牟鴨) 311  
 こほしみ(戀石見) 392  
 こまつ(濱乃小松) 394  
 こむら(樹村) 322  
 こもりえ(隱江) 249  
 こもりくの(隱久乃) 420  
 (隱口乃) 424



(隠口能) 428  
 コモル(隠)  
 こもり(隠爾計良思) 418  
 コヤセリ(臥有)  
 こやせる(客爾臥有) 415  
 (君之臥有) 421  
 コユ(超)  
 こえ(將超) 282  
 (將超公) 361  
 (吾超去者) 291  
 (打越去者) 365  
 (暮越行而) 298  
 (打越見者) 272  
 (超不勝而) 301  
 (超而) 287  
 コル(懲)  
 こり(不懲而) 354  
 これ(許禮能水島) 245  
 (此之將死還生) 327  
 ころも(服) 478  
 (衣不干) 443  
 ころもで(衣袖) 460

こゑ (鳴鳥之音) 322  
**サ**  
 さえだ(柘之左枝) 386  
 さかき(賢木) 379  
 さかしき(七賢人) 340  
 さかしみ(賢跡) 341  
 さがしみ(險跡) 385  
 さかしら(賢良乎) 344  
 (賢良爲者) 350  
 さかつぼ(酒壺) 343  
 サカユ  
 さかえ(茂座) 260  
 (榮之君乃) 454  
 さかゆる(榮時) 475  
 さがらかやま(相樂山) 481  
 さかり(吾盛) 331  
 (盛爾成來) 330  
 (今盛有) 328  
 サカル(避)  
 さかり(奥部莫避) 274  
 (離家伊麻須) 471

さき(此埼) 460  
 (磯前) 273  
 (清見之埼) 296  
 (野島之埼) 250  
 (野島之前) 251  
 (三津埼) 249  
 (敏馬乃埼) 389  
 (敏馬能埼) 449  
 サク(避)  
 さか(見毛左可受) 450 一云  
 サク(咲)  
 さき(花咲乎爲里) 476  
 (咲而) 455  
 (開而) 400  
 (花曾咲有) 466  
 (開有梅) 398  
 (開有花) 399  
 (開家流香聞) 464  
 さく(花咲) 469  
 (咲花) 328 477 478  
 サク(放)  
 さくる(間放流親族兄弟) 460

さくらだ(櫻田部) 271  
 さくらばな(櫻花) 257 260  
 さけ(酒) 339 340 341 342 343 344 346 350  
 (濁酒) 338 345  
 ささなみ(樂浪乃) 305  
 ささらのをぬ(左佐維能小野) 420  
 さざれなみ(小浪) 314  
 サス(指)  
 さし(山邊乎指而) 460  
 (山道乎指而) 466  
 サス(刺)  
 さし(五百枝刺) 324  
 (柄者指爾家牟) 407  
 (指可倍氏) 481  
 (網爾刺) 240  
 サダム(定)  
 さだめ(將定) 398  
 (定義之) 394  
 さだむる(宮登定流) 417  
 さつき(五月者) 423  
 さつま(薩摩) 248  
 さつを(山能佐都雄) 267

さと(里) 460  
 (古家乃里) 268  
 (故去之里) 334  
 (古郷之) 333  
 (春日里) 407  
 サニヅラフ  
 さにづらふ(狹丹頰相) 420  
 さぬ(狹野乃渡) 265  
 さぬ(佐農能岡) 361  
 サヌ(眞寢)  
 さね(左宿之妻屋) 481  
 さは(佐波一) 273  
 (左波爾鳴) 339  
 (左波爾雖在) 322 460  
 (左波爾雖有) 382  
 サバシル(走)  
 さばしり(狹走) 475  
 さばへなす(五月蠅成) 478  
 サブシ(淋)  
 さぶし(佐夫之毛) 260  
 (不樂毛) 257  
 (不恰) 434

さへ(助詞) (山佐倍光) 477  
 さほ(佐保過而) 300  
 (佐保乃山邊) 460  
 さほがは(佐保河) 460  
 (吾佐保河) 371  
 さほやま(佐保山) 473  
 (佐寶山) 474  
 サムシ(寒)  
 さむく(寒吹良武) 352  
 (寒將吹鳥) 462  
 さむき(寒朝開) 361  
 (寒長谷乎) 425  
 さむみ(秋風寒) 465  
 サモラフ(候)  
 さもらひ(立候) 443  
 さもらふ(侍從爾) 388  
 サカヤケリ(清有)  
 さやけかる(清有良武) 356  
 さやけさ(音之清左) 314  
 サヤケシ(清)  
 さやけく(彌清成爾來鴨) 316  
 (清有師) 316



さやけし(河四清之) 324  
 さよ(左夜深去來) 285  
 さら(今亦更) 483  
 ザリ(複語尾)  
 ざら(從手不離有牟) 403  
 (不戀有米) 393  
 (不戀有益雄) 436  
 さる(猿二鴨似) 343  
 サル(去)  
 さら(秋去者) 414  
 (川余藤木去) 325  
 (朝不離) 372 423  
 (夕不離) 356  
 さり(春去來者) 260  
 (春去奴禮婆) 475  
 され(明去者) 338  
 (夕去者) 354  
 サワグ(騒)  
 さわぎ(味村左和伎) 257  
 (阿運村動) 260  
 さわぐ(河津者驟) 324  
 (立動良之) 388

さを  
 (驟駭舍人) 478  
 (梶棹毛) 257  
 (竿梶) 260  
 シ  
 し(助詞)(吾命之眞幸有者) 288  
 (河四清之) 324  
 (山四見容之) 324  
 (世間之常如此耳跡) 472  
 (神之社四無有世伐) 404  
 (社師留焉) 405  
 (涕之流) 453  
 (君師不座者) 457  
 (故郷之所念可聞) 333  
 (日本師所念) 359  
 (神代之所念) 304  
 (手兒名志所念) 433  
 (神爾之坐者) 241  
 (神二四座者) 235  
 (壽爾之在者) 461  
 (客之有者) 366  
 (物爾之有者) 460

(實之成名者) 399  
 (今代爾之樂有者) 348  
 (酒西有良師) 340  
 (酒西有良之) 342  
 (醉哭爲師益有良之) 341  
 (開去歲立動良之) 388  
 (間遠之有者) 413  
 (語之告者) 313  
 (何時然跡) 445  
 (山可良志) 315  
 (水可良思) 315  
 (愛八師榮之君) 454  
 (愛八師妹) 466  
 (シを加へてよむもの)  
 (哭耳所泣) 324 456  
 (啼耳鳴六) 483  
 (女有者) 419  
 (何時鳴) 388  
 (如此毛欲得跡) 478  
 じ(複語尾)(不持) 487  
 (不喚) 286  
 (君爾不相可聞) 379

(君爾不相鴨) 380  
 (不止) 411  
 (不絶等) 423  
 (不絶射妹與) 481  
 (不見跡去物乎) 305  
 (久者不有) 335  
 しか(然之海人) 278  
 しが(志賀爾安良七國) 263  
 (志賀乃大津) 283  
 したたへの(敷細之) 438  
 (布細乃) 460  
 (敷細乃) 461  
 シク(如)  
 しか(豈若目八方) 346  
 (不如來) 359  
 シク(敷)  
 しき(敷座國之盡) 322  
 (斷座國) 460  
 (敷座有) 329  
 シク(及)  
 しき(千重浪敷爾) 409  
 しぐれ(四具禮能時) 423

しげ(木晚茂爾) 257  
 シゲシ(繁)  
 しげく(繁成家留鴨) 452  
 しげき(人言之繁比日) 436  
 しげみ(木晚茂) 260  
 シゲル(茂)  
 しげり(茂有武) 431  
 しし(鹿猪) 448  
 (十六社者) 239  
 (待鹿爾) 405  
 しじ(木立之繁爾) 478  
 (繁爾貫垂) 379  
 (無間貫垂) 420  
 (繁生有) 324  
 しじもの(四時自物) 239  
 (十六自物) 379  
 しじぬき(眞梶繁貫) 368  
 シジケシ(靜)  
 しづけし(之頭氣師) 388  
 しづのいはや(志都乃石室) 355  
 しづはた(倭文幡) 481  
 しづめ(鎮十方) 319

シタフ(慕)  
 したひ(慕來座而) 460  
 シナフ(撓)  
 しなふ(眞木葉乃之奈布勢能山) 291  
 しぬ(情毛思努爾) 266  
 シヌ(死)  
 しぬ(死云事爾) 460  
 しぬる(死物爾有者) 349  
 シヌグ(凌)  
 しぬぎ(菅葉凌零雪) 299  
 シヌア(偲)  
 しぬば(之奴波受而) 291  
 しぬび(出立偲) 481  
 (之奴櫃) 366  
 (思櫃) 367  
 (不忍都毛) 472  
 (思努妣都流可聞) 465  
 しぬべ(見乍思跡) 464  
 しはつやま(四極山) 272  
 しばなく(數鳴) 372  
 しひ(志斐能我強語) 236  
 (志斐伊波奏) 237



しひかたり(強語) 236  
 (強話登言) 237  
 シフ(強)  
 しふる(強流志斐能我強語) 236  
 しほ(潮)(鹽乎令滿) 388  
 (鹽干去者) 360  
 (鹽干二家良進) 271  
 (鹽乎令干) 388  
 しほ(鹽)(鹽燒) 278  
 (鹽燒火氣) 354  
 (鹽燒灸) 366  
 しほさる(鹽左爲能) 388  
 しほつやま(鹽津山) 365  
 しほひ(鹽干乃) 293  
 しほやきぎぬ(鹽燒衣) 413  
 しま(島待不得而) 268  
 (山齋) 462  
 しまづたひ(島傳) 389  
 しまと(島門乎) 304  
 しまね(山跡島根) 303  
 (日本島根) 366  
 しまやま(島山之宜國) 322

しみみ(京思美彌爾) 460  
 シム(染)  
 しみ(酒二染膏) 343  
 シム(複語尾)  
 しめ(令滿) 388  
 (相見染跡衣) 300  
 (人爾莫令蓋) 374  
 しむ(令干) 388  
 しめ(印結而) 394  
 (吾標結之枝) 400  
 (標結立而) 401  
 (將結標) 402  
 (標耳曾結焉) 414  
 シメス(示)  
 しめさ(將示) 279  
 (何矣示) 360  
 しも(露霜) 443  
 しも(助詞)(湯者霜) 322  
 (時者霜何時毛將有乎) 467  
 しらかつく(白香付) 379  
 しらき(新羅國) 460  
 しらくも(白雲) 243 317

(白雲乃) 287  
 (白雲者) 353  
 (嶺乃白雲) 388  
 シラス(所知)  
 しらさ(天所知牟登) 476  
 しらし(天所知奴禮) 475  
 しらすげの(白菅乃) 281  
 しらなみ(白浪) 288 313 388  
 (奥津白浪) 294 306  
 しらつつじ(白管仕) 434  
 しらぬひ(白縫) 336  
 しらまゆみ(白眞弓) 289  
 シル(知)  
 しら(知末世婆) 468  
 (雖不知) 313  
 (名付毛不知) 466  
 (名不知) 319  
 (不知) 342 481  
 (不知爾) 401 460  
 (去邊白不母) 264  
 しらなく(年之不知) 323  
 (不知苦) 119

しり(知家武) 291  
 しる(親者知友) 362  
 (父母者知友) 363  
 (知物乎) 465  
 しれ(知跡) 472  
 しるし(驗) 410  
 (驗無物乎) 338  
 (効効) 481  
 (知師無美) 366  
 シルシ(著)  
 しるし(有雲知之) 258  
 しろたへ(白栲) 443 478  
 (白細) 460 475 481  
 (白妙) 481  
 ス(爲)  
 セ(手向爲者) 427  
 (將爲登) 423  
 (家裏爲) 306  
 (將爲便) 342 481  
 (將爲須便) 475

(將爲須做) 460  
 (將爲須辨) 466  
 (左右將爲) 399  
 (滿闕爲家流) 442  
 (妻問爲家武) 431  
 (船乘將爲客爲) 323  
 (客爲而) 270 367  
 (好爲而) 381  
 (獨爲而) 366  
 (船出爲而) 246  
 (面影爲而) 396  
 (與妹爲而) 452  
 (此間爲而) 287  
 (山影爾之氏) 375  
 (時爾不在之天) 443  
 (朝夕四天) 456  
 (君無二四天) 458  
 (如何爲鴨) 403  
 (辱爲都) 401  
 (シを加へてよむもの)  
 (未服而) 395  
 (直獨而) 460

(獨而見者) 449  
 (網引爲跡) 288  
 (賢良乎爲跡) 344  
 (釣爲良下) 357  
 (雪消爲山道) 382  
 (國見爲筑羽乃山) 382  
 (念會吾爲流) 372  
 (磯廻爲鴨) 368  
 (戀哭爲鴨) 373  
 (賢良爲者) 350  
 (醉哭爲師) 341  
 (醉哭爲爾) 347  
 (醉泣爲爾) 350  
 (スルを加へてよむもの)  
 (欲見其玉) 430  
 (複語尾)  
 ず(物乎不念者) 338  
 (人跡不有者) 343  
 (人不見者) 269  
 (不成者) 411  
 (不改將有) 316  
 (不見久有者) 311



(不相久美) 310  
 (不見歟將成) 381  
 (不行) 466  
 (不飽伊座之君) 459  
 (朝不離) 372 423  
 (川余藤不去立霧) 325  
 (不止將通) 324  
 (言毛不得) 466  
 (不果) 481  
 (衣不干) 443  
 (見毛左可受) 460 一云  
 (言不得) 319  
 (不見) 254  
 (心者不遂) 481  
 (不干) 460  
 (目不離) 300  
 (飛毛不上) 319  
 (不折來家里) 392  
 (不衝毛) 420  
 (不取香聞將有) 386  
 (事太爾不告往公) 445  
 (木立不見落亂) 262

(人不撈有雲知之) 258  
 (夕不離) 356  
 (雨不零) 370  
 (鳴鳥音毛不更) 322  
 (光毛不見) 317  
 (不過) 282  
 (時爾不在之天) 443  
 (不開而) 286  
 (不懲而) 384  
 (不打而) 386  
 (不見而) 382  
 (之奴波受而) 291  
 (不服而) 269  
 (未服而) 395  
 (湍者不成而) 335  
 (不如來) 350  
 (神者不有) 406  
 (不來座) 418  
 (白不母) 264  
 (未著穢) 413  
 (不所見十方) 393  
 (不言八方) 424

に(不知) 342 481  
 (不知爾) 401 460  
 (名不知) 319  
 (名付毛不知) 466  
 ぬ(不戀日) 403  
 (不飽香聞) 319  
 (留不得壽) 461  
 (不飽鴨) 307  
 (不忘之爲) 334  
 (不飽田兒浦) 297  
 (不相兒故荷) 372  
 (不泣日者無) 473  
 (不免物) 460  
 (不思爾) 444  
 (常有奴可) 331  
 (酒不飲人) 344  
 (辭不問物) 481  
 ね(不勝宿者) 388  
 (不思考) 476  
 (雖不知) 313  
 (未者伎禰杼) 336  
 (不座者) 457

(時爾波不有跡) 441  
 (雨莫零行年) 299  
 なくに(不所忘) 431  
 (未干爾) 469  
 (不見久爾) 278  
 (和我不念久爾) 242  
 (宿名久二) 390  
 (不知苦) 419  
 (我思莫苦二) 244  
 (孤悲二不有國) 325  
 (安良七國) 263  
 (不有國) 265  
 (君爾有名國) 422  
 (所念國) 371  
 (不所忘) 431  
 すが(菅葉) 299  
 (菅根) 414  
 すぎむら(杉村) 422  
 スグ(過)  
 すぎ(不過) 282  
 (行過不得而) 354  
 (敏馬乎過) 250

(去過勝爾) 298  
 (過去人) 427 463  
 (佐保過而) 300  
 (往過奴禮婆) 481  
 すぐ(思過倍吉) 422  
 (念應過) 325  
 すぐれ(獨過者) 460  
 すくなびこな(小彦名) 355  
 すずき(鈴寸) 252  
 スズシ  
 すずしき(遊道爾冷者) 347  
 ススム  
 すすむ(情進莫) 381  
 すべ(爲便) 342 419 456 460 481  
 (須便) 475  
 (須徹) 460  
 (須辨) 466  
 (將爲便) 342 481  
 すま(須麻乃海人) 413  
 スマフ(住)  
 すまひ(住乍) 460  
 すみだかはら(角太河原) 298

すみのえ(墨吉) 283  
 (清江) 295  
 (住吉) 394  
 スム(住)  
 すみ(住家類) 303  
 すむ(船上住) 258  
 (宇乃住石) 359  
 すめろぎ(皇神祖) 322  
 (皇祖) 443  
 すら(助)(山道尙矣) 382  
 (鴨尙爾) 396  
 するが(駿河奈流) 284  
 (駿河有) 317 319  
 (駿河能國) 319  
 スウ(据)  
 すゑ(忌穿居) 379  
 (齋戶乎居) 420  
 (坐置而) 443  
 七  
 せ(吾勢毛) 276 一本  
 せ(湍者) 335



(川津鳴瀬之) 356  
 せき(塞) 468  
 せと(薩摩乃迫門) 248  
 せのうみ(石花海) 319  
 せのやま(勢能山) 285 286 291  
 セリ(爲有)  
 せり(蓋爾爲有) 240  
 せる(盧爲流鴨) 235

サ

そ(其乎) 466  
 そ(助詞)(雨莫零行年) 299  
 (疾打莫行) 269  
 ぞ(助詞)(神會) 406  
 (住氣類人會常無里家留) 308  
 (人會言鶴) 420  
 (見之人會) 446  
 (馬會爪突) 365  
 (鴨會鳴成) 375  
 (花會咲有) 466  
 (標耳會結焉) 458  
 (念會吾爲流) 372

(哭耳會吾泣) 458  
 (眞白衣) 318  
 (保爾會出流) 326  
 (於保爾會見谿流) 476  
 (因鹿跡叙念) 481  
 (將有登會) 442  
 (將蒔登會念) 384  
 (相見染跡衣) 300  
 (時自久會) 317  
 (名積叙吾來並二) 382  
 (彼山之堤有海會) 319  
 (水之當鳥) 319  
 (聞跡云物會) 369  
 (將待會) 337  
 そがひ(背向爾所見) 357  
 (背向爾見乍) 460  
 (背爾見乍) 358  
 そくへ(會久做能極) 420  
 そこ(會許念爾) 466  
 そで(我袖用手) 260  
 (袖振妹乎) 376  
 (袖指可倍氏) 481

その(彼母毛) 337  
 (其鳥乃) 372  
 (其花) 403  
 (其玉乎) 403  
 (其玉之) 409  
 (其路) 381  
 (彼山之) 319  
 (其山) 319 401  
 (其夜) 320 392  
 そほふね(赤乃會保船) 270  
 ソム(染)  
 そめ(衣染) 395  
 そも(其彼母毛) 337  
 タ  
 たか(高槻村) 277  
 たが(誰手本) 439  
 (誰孀可) 426  
 タカカリ(高有)  
 たかからし(奥津白浪高良之) 294  
 たかきのやま(高城乃山) 353  
 たかくらの(高座之) 372

(高桜之) 373  
 タカシ(高)  
 たかく(高貴寸) 317  
 たかしま(高島乃) 275  
 たかだま(竹玉乎) 379 420  
 たかつ(高津者) 292  
 たかね(不盡能高嶺) 317 318 319  
 (布士能高嶺) 317  
 (不盡能高峯) 319  
 (伊豫能高嶺) 322  
 たかひかる(高光) 239  
 (高輝日之里子) 260  
 たかべ(高部共) 258  
 たかみ(椋橋乃山乎高可) 290  
 (高見恐見) 321  
 (山高三) 324  
 たかやま(高山) 421  
 (高山乃) 420  
 (高山者) 382  
 たから(價無寶) 345  
 (寶十方成有山) 319  
 たぎ(瀧上之) 242

(瀧上乃) 388  
 (瀧乃白浪) 313  
 たぎち(水之常鳥) 319  
 たぎつせ(多藝通瀨每爾) 314  
 たくつぬの(栲角乃) 460  
 たくひれの(栲領巾乃) 285  
 たくまぬ(託馬野) 395  
 たごのうら(田兒浦) 297  
 (田兒之浦) 318  
 ただ(直獨而) 460  
 タタス(立)  
 たたし(立之而) 322  
 (御輿立之而) 475  
 タタセリ(立有)  
 たたせる(三獵立流弱薦乎獵路乃  
 小野爾) 289  
 たち(七賢人等毛) 340  
 たちから(手力) 419  
 たちばな(橘) 410 411  
 たづ(鶴) 273  
 (鶴) 389  
 (鶴鳴渡) 271 271

(多頭羽亂) 324  
 タツ(立)  
 たた(瀧立目八方) 247  
 たち(池浪立而) 257  
 (池浪颺) 260  
 たつ(邊浪雖立) 247  
 (浪立莫) 246  
 タツ(立)(四)  
 たつ(霞立) 257  
 (御船乃山爾立雲) 244  
 (立霧乃) 325  
 タツ(立)(四)  
 たち(立動良之) 388  
 タツ(立)(四)  
 たつ(眞木之立荒山中) 241  
 タツ(立)(四)  
 たち(立候) 443  
 (立而) 283 372 410  
 (立居而) 448  
 (出立而) 420  
 (立西日) 443  
 (出立俥) 481



タツ(立)(下二)  
 たて(御諸乎立而) 450  
 (廬屋立) 431  
 タツ(立)(下二)  
 たて(石戸立) 418  
 タツ(立)(下二)  
 たて(履立) 478  
 タツ(立)(下二)  
 たて(標結立而) 401  
 (立置而) 388  
 たづがね(鶴之哭鳴而) 352  
 タテリ(立有)  
 たてる(立在松樹) 309  
 (出立有) 319  
 タトフ(譬)  
 たとへ(將譬) 351  
 たななしをぶね(棚無小舟) 272  
 タナビク(罪徴)  
 たなびき(雲居多奈引) 372  
 (棚引所見) 353  
 (輕引) 460  
 たなびく(棚引) 444

(山雨棚引) 354  
 (霏霂) 429  
 (白雲乃棚引山) 287  
 (多奈引霞) 473  
 (田菜引物緒) 321  
 だに(助詞)(事太爾不告) 445  
 (如此谷裳) 379  
 (如此谷母) 380  
 タヌシ(樂)  
 たぬしく(樂有者) 348  
 (樂乎有名) 349  
 タノム(憑)  
 たのみ(憑之心) 480  
 (念憑而) 423 一云  
 (憑有來) 470  
 タノメリ(憑有)  
 たのめり(憑有之人) 460  
 (憑有之皇子) 478  
 たはごと(狂言) 420 421 475  
 たび(旅) 262 440 451  
 (客) 460  
 (客爲而) 270 367

三四  
 (客之有者) 366  
 (客爾臥者) 415  
 (穉宿爾) 426  
 たびと(此旅人) 415  
 タヒラケシ(平)  
 たひらけく(平間幸座與) 443  
 タフトシ(貴)  
 たふとく(眞貴久) 245  
 (貴有師) 315  
 たふとき(極貴物) 342  
 (貴山) 382  
 たま(玉) 436  
 (其玉乎) 408  
 (其玉之) 409  
 (伎須賣流玉) 412  
 (玉爾貫) 423  
 (玉者) 424  
 (玉緒) 481  
 (夜光玉) 346  
 たまかづら(玉葛) 324 443  
 たまくしげ(珠匣) 376

たまくら(吾手枕) 438  
 たまたすき(珠手次) 366  
 たまづさの(玉梓乃) 420 445  
 タマフ(賜)  
 または(食賜麻思) 475  
 たまひ(率比賜比) 478  
 たまへ(見賜) 376  
 たまも(玉藻) 293 360 390 433  
 (珠藻) 250  
 タム(回)  
 たみ(榜手回行者) 273  
 たむ(榜回舟者) 357  
 (榜轉小舟) 358  
 ため(許藝廻者) 359  
 たむげ(寧樂乃手祭) 300  
 (手向爲者) 427  
 ため(行見爲) 332  
 (不忘之爲) 334  
 たもと(誰手本) 439  
 (白妙之手本) 481  
 タモトホル(徘徊)  
 たもとほり(多毛登保里) 458

(徘徊) 460  
 タユ(絶)  
 たえ(不絶) 423  
 (不絶射妹與) 481  
 たゆる(絶日) 243  
 (絶事無) 324  
 たゆひ(手結我浦) 366  
 (手結之浦) 367  
 タヨワシ(手弱)  
 たよわき(手弱寸) 419  
 たらちねの(帶乳根乃) 443  
 タリ(複語尾)  
 たり(憑有來) 470  
 (縣有) 289  
 たる(繁生有都賀乃樹) 324  
 (荒有家) 440  
 (開有花) 399  
 (開有梅) 398  
 (乎二卷四而有) 366  
 (益良有之) 341  
 (茂有武) 431  
 (國忘有) 426

三五  
 (花會咲有) 466  
 タル(垂)  
 たり(繁爾貫垂) 379  
 (貫垂) 420  
 たれ(孰不戀良米) 398  
 タワスル(手忘)  
 たわすれ(手忘而) 392  
 たわやめ(手弱女) 379  
 タラル(手折)  
 たをり(手折而) 280  
 (手折而毛) 466  
 千  
 チカシ(近)  
 ちかく(甚近) 411  
 チカヅク(近)  
 ちかづき(近著奴) 250  
 ちち(父) 443  
 ちとせ(千歳爾麻佐武) 243  
 (如千歳) 470  
 ちどり(乳鳥) 268 371  
 ちはやぶる(千磐破) 404



ちへ(千重爾) 303  
ちへなみ(千重浪敷爾) 409  
チル(散)

ちり(散去奚留鴨) 277  
(落去) 400  
(散去如寸) 477

ツ

ツ(複語尾)  
て(潔身而麻之乎) 420  
(見手益物乎) 277  
(仰而) 239  
(置而) 443  
(坐置而) 443  
(立置而) 388  
(哭乎毛置而) 481  
(持行而) 327  
(繼而行益乎) 405  
(暮越行而) 298  
(開而落去) 400  
(咲而有哉) 455  
(鳴而) 352

(纏而帥) 438  
(山邊乎指而) 460  
(山道乎指而) 466  
(慕來座而) 460  
(渡來座而) 460  
(益而戀石見) 382  
(取負而) 478  
(帶而) 480  
(立而) 257 283 372 410 420  
(出立而) 420  
(取持而) 408 420  
(手取持而) 380  
(我袖用手) 269  
(石卜以而) 420  
(卷以而) 436  
(念而) 423  
(結而石事) 481  
(印結而) 394  
(裝束而) 475  
(念以而) 423 一云  
(裏而) 306  
(酒飲而) 341 346

(飲酒而) 350  
(手折而) 280  
(手折而毛) 466  
(仕奉而) 239  
(成而帥鴨) 343  
(語而) 443  
(行憚而) 353  
(張而懸有) 289  
(益旅而) 440  
(益而) 541  
(亂而) 424  
(佐保過而) 300  
(神左備手) 317  
(名付而有毛) 319  
(木綿取付而) 379  
(懸而之奴櫃) 366  
(懸而) 420  
(退出而) 257  
(出而) 366 461  
(打出而) 318  
(家從裳出而) 481  
(標結立而) 401

(有金手) 383  
(待不得而) 268  
(行過不得而) 354  
(超不勝而) 301  
(解替而) 431  
(安倍而) 388  
(指可倍而) 481  
(氣並而) 263  
(定義之) 394  
(根深目手) 397  
(超而) 287  
(手忘而) 392  
(所聞而) 460  
(殖而帥故) 411  
(身著而) 336  
(取著而) 478  
(見氏毛) 263  
(外爾見而思香) 393  
(磯隱居而) 388  
(居而) 272 410 443  
(速來而母) 277  
(客爲而) 270 397

(直獨而) 460  
(獨而見者) 449  
(獨爲而) 366  
(與妹爲而) 462  
(好爲而) 381  
(船出爲而) 246  
(此間爲而) 287  
(面影爲而) 396  
(朝夕四天) 456  
(山影爾之氏) 375  
(君無二四天) 458  
(時爾不在之天) 443  
(默然居置) 350  
(立之而) 322 475  
(之奴波受而) 291  
(不聞而) 236  
(不打而) 386  
(不懲而) 384  
(湍者不成而) 335  
(不服而) 269  
(未服而) 395  
(不見而) 382

(無而) 257 260  
(テを加へてよむもの)  
(行見爲) 332  
(行見) 293  
(疾打莫行) 263  
(成極) 481  
(益有良之) 341  
(折挿頭跡) 423  
(出行道) 468  
(今日耳見哉) 416  
(如何爲鴨) 408  
(立居而) 443  
つ  
(伐歸都) 391  
(思櫃) 367  
(之奴櫃) 366  
(不思都毛) 472  
(忘不得裳) 397  
(令見都) 297  
(辱爲都) 401  
(見都) 432  
つる  
(人會言鶴) 420  
(我聞都流母) 420



(見鶴鳴) 248  
 (吾聞都流) 420  
 (射都流矢) 264  
 (在鶴公) 443  
 (思努妣都流可聞) 465  
 (伊座都流香聞) 420  
 (別不勝鶴) 276  
 (見鶴鳴) 297  
 つれ(山隱都禮) 471  
 て(告志五余) 362  
 つが(都賀乃樹) 324  
 ツカへ(仕) 324  
 つかへ(將仕物常) 457  
 (仕奉) 443  
 (仕奉都) 239  
 つき(天歸月) 240  
 (出來月) 290  
 (夜渡月) 302  
 (照月) 317  
 (射狹夜歷月) 393  
 (歲月日香) 443  
 つきむら(高槻村) 277

ツク(衝)  
 つか(不衝毛) 420  
 つき(杖策毛) 420  
 ツク(著付) 420  
 つけ(身著而) 336  
 (木綿取付而) 379  
 つく(吾紐二付) 334  
 (白香付) 379  
 ツグ(繼)  
 つが(止者繼流) 373  
 つぎ(繼往物與) 443  
 (生繼爾家里) 322  
 (繼而行益乎) 405  
 (語告言繼將往) 317  
 つぐ(語繼金) 364  
 つげ(語之告者) 313  
 ツグ(告)  
 つげ(語將告可) 448  
 (將告) 432  
 (事太爾不告) 445  
 つくし(筑紫) 336  
 つくば(筑羽乃山) 382

つくばね(筑羽根) 383  
 ツクル(作)  
 つくり(二作之) 452  
 (宅乎毛造) 460  
 つち(天地) 420  
 (天地與) 315  
 (天地之) 317  
 (天地爾) 420  
 つつ(哭管) 481  
 (阿倍寸管) 365  
 (歎乍) 460  
 (念乍) 423  
 (戀乍居寸) 370  
 (往來乍) 260  
 (住乍) 460  
 (髣髴爲乍) 481  
 (消通都) 319  
 (所燒乍可將有) 269  
 (情咽都追) 453  
 (見乍) 296  
 (四十耳見乍) 383

(見乍思跡) 464  
 (背爾見乍) 358  
 (令見乍) 305  
 (在管裳) 324  
 (深去通都) 382  
 つつみ(舊堤者) 378  
 ツツム(包)  
 つつむ(裏而) 306  
 ツツメリ(包有)  
 つつめる(彼山之堤有海會) 319  
 つと(家裏) 306  
 (濱裏) 360  
 ツドフ(集)  
 つどへ(召集聚) 478  
 ツナゲリ(維有)  
 つなげる(認有神會) 406  
 つぬが(角鹿乃濱) 366  
 つぬさはふ(角障經) 282  
 つぬのまつばら(角松原) 279  
 つね(常將有等) 242  
 (常有奴可) 331  
 (常將在跡) 244

(常如此耳跡) 472  
 (常有之) 478  
 (無常跡) 465  
 (常無里家留) 308  
 (恒見杼毛) 377  
 つばら(つばら(曲曲)) 333  
 つひ(遂毛死物) 349  
 つま(妻) 443  
 (鴨妻喚) 257  
 (誰孀可) 426  
 ツマヅク(爪突)  
 つまづく(馬會爪突) 365  
 つまどひ(妻問爲家武) 431  
 つまや(妻屋) 481  
 つみ(柘之左枝) 386  
 (柘之枝) 387  
 つゆ(露霜) 443  
 つゆしもの(露霜乃) 466  
 つり(釣爲良下) 357  
 つりふね(釣船) 256  
 (海人釣船) 294  
 ツル(釣)

つる(鈴寸釣) 252  
 つるぎたち(劔刀) 478  
 つれ(都禮毛奈吉) 460  
 つる(杖策毛) 420  
 つをのさき(津乎能埼羽毛) 352  
 テ  
 (手二卷四而有)  
 (手二纏在) 424  
 (手二卷難寸) 409  
 (手取持而) 408  
 (手二卷以而) 436  
 (從手不離有牟) 403  
 (妹手乎取) 385  
 (妹之手) 415  
 て(出)(イヅの連用形の略)  
 (色出來) 395  
 (思出) 473  
 (退出而) 257  
 (去出而) 260  
 てこな(手兒名) 431  
 テル(照)



てる(照月乃) 317  
(此照月) 442

ト

と (開乃門從者) 388  
と(助詞)(天地與) 315 478  
(駿河能國與) 319  
(鶯與高部共) 258  
(與妹來之) 449  
(吾妹子與) 481  
(與妹爲而) 452  
(因香跡思波牟) 481  
(因鹿跡叙念) 481  
(奧柳常念者) 474  
(價無寶跡言十方) 345  
(居中跡所言奚米) 312  
(武士登所云人) 443  
(玉跡言十方) 346  
(此間登波聞杼) 481  
(石花海跡名付而有毛) 319  
(狂言登加聞) 475  
(白水郎跡香將見) 262

(見杲石山跡) 382  
(聖跡負師) 339  
(寶十方成有山) 319  
(宮登定流) 417  
(人跡不有者) 343  
(鎮十方座祇) 319  
(不盡河跡) 319  
(遠乃朝廷跡蟻通) 304  
(宜國跡) 322  
(時敷時跡) 382  
(空物跡將有) 442  
(將仕物常念有之) 467  
(狂言等可聞) 421  
(繼往物與) 443  
(不聽跡雖云) 236  
(晚間跡) 460  
(何時然跡) 446  
(何在登問者) 448  
(如此耳跡可都知跡) 472  
(吉跡所聞而) 460  
(苗有跡云師) 407  
(落去登人者雖云) 400

(不絕等念而) 423  
(將有登會) 442  
(無常跡知物乎) 465  
(賢跡物言從者) 341  
(潤濕跡) 370  
(伊都伎坐等) 420  
(挿頭跡) 423  
(賢良乎爲跡) 344  
(求跡) 267  
(思跡) 267  
(網引爲跡) 238  
(思家登) 381  
(開去歲立動良之) 388  
(常將有等) 242  
(天所知牟登) 476  
(此夜乃將明跡) 388  
(名津匠來與) 443  
(將爲登) 432  
(共將有跡) 481  
(蒔將登會念) 384  
(將蓋跡念有) 374  
(榜與雖思) 260

(不絶射妹與) 481  
(不見跡云物乎) 305  
(咲而有哉跡) 455  
(獨哉將宿跡君之云者) 463  
(間幸座與) 443  
(強話登言) 237  
(話禮話禮常詔許會) 273  
(引者難三等) 414  
(效矣無跡) 481  
(恐等仕奉而) 239  
(險跡草取可奈和妹手乎取) 385  
(如此毛欲得跡) 478  
(相見染跡衣) 300  
(トを加へてよむもの)  
(妹者不喚) 286  
(不聽雖謂) 237  
(死云事爾) 460  
(所見云物乎) 396  
(有不言八方) 424  
ど(助詞)(聞杼) 431  
(離待) 418  
(不聽跡雖云) 236

とき

(不聽雖謂) 237  
(人者雖云) 400  
(雖思) 260  
(知跡) 472  
(雖干) 354  
(雖見) 237 319  
(見禮杼) 459  
(見杼) 466  
(見騰) 297  
(有跡) 446  
(物爾波在跡) 481  
(未者伎禰杼) 336  
(時爾波不有跡) 441  
(安里氣禮騰) 308  
(時) 467  
(將成時爾) 398  
(時爾不在之天) 443  
(時敷時跡) 382  
(分時從) 317  
(時者經去) 469  
(榮時) 475  
(時者) 439

トキジ

(四具禮能時波) 423  
(時爾波不有跡) 441  
ときじく(時自久會) 317  
ときじき(時敷時跡) 382  
ときはなす(常警成) 308  
トク(解)  
とか(人將解八方) 402  
とき(帶解替而) 431  
トグ(遂)  
とげ(心者不遂) 481  
とこよ(益及常世) 260  
とこ(常世有跡) 446  
ところ(行幸處) 322  
(幸行處) 295  
(奧津城處) 432  
とし  
(年) 443  
(年之不知久) 323  
(歲月日香) 443  
(年深) 378  
トシ(速)  
とく(速來而母) 277



としのを(年緒) 460  
 トトノフ(調)  
 ととのふる(網子調流海人之呼聲)  
 トドム(留)  
 とどめ(妹乎將留) 468  
 (留不得) 461  
 (停不得) 471  
 とどむる(社師留焉) 406  
 とねり(舍人) 475 478  
 トノグモル  
 とのぐもる(殿雲流夜) 370  
 とのへ(外重) 443  
 トフ(問)  
 とは(問者) 448  
 (辭不問物) 481  
 とひ(夕衝占問) 420  
 (問之君波母) 455  
 (問放流) 460  
 とふ(ト云フ)(聞跡云物會) 369  
 トブ(飛)  
 とび(飛毛不上) 319

とぶ(飛鳥毛) 319  
 とぶさたて(鳥總立) 319  
 トホシ(遠)  
 とほく(遠久寸) 481  
 (遠毛) 248  
 とほき(遐代) 322  
 とほけども(雖遠) 396  
 トホシロシ  
 とほしろし(河登保志呂之) 324  
 とほつかみ(遠神) 295  
 とほなが(彌遠長爾) 423 一云 478  
 とほなが(彌遠長) 443  
 (彌遠永) 423  
 (遠長將仕物) 457  
 とほのみかど(遠乃朝廷) 304  
 とまり(三船乃登麻里) 247  
 トム(止)  
 とめ(抑駐) 478  
 とも(柄浦) 446 447  
 とも(共將有跡) 481  
 とも(助詞)(泣友) 301  
 (雖立) 247

(雖放) 327  
 (玉跡言十方) 346  
 (價無寶跡言十方) 345  
 (親者知友) 362  
 (父母者知友) 363  
 (後雖悔) 410  
 (霑者漬跡裳) 374  
 (雖有) 402  
 (不所見十方) 393  
 ども(助詞)(雖泣) 475  
 (雖念) 409  
 (雖戀) 481  
 (見杼毛) 377  
 (見十方) 434  
 (佐波爾雖在) 322  
 (佐波爾雖有) 382  
 (雖在) 460  
 (雖不知) 313  
 トヒシ(乏)  
 ともしき(光乏寸) 290  
 (乏小舟) 358  
 もともしび(留火之) 254

ともしみ(見者乏見) 367  
 トモス(燒)  
 ともす(燒火乃) 326  
 とよくに(豐國之) 311  
 (豐國) 417 418  
 とり  
 (鳥爾毛) 348  
 (飛鳥毛) 319  
 (鳴鳥之) 322 378  
 (其鳥乃) 372  
 (鶉雉) 478  
 とりがなく(雞之鳴) 382  
 トル(取)  
 とら(不取香聞將有) 386  
 とり(手取持而) 420  
 (木綿取持) 443  
 (木綿取付而) 379  
 (取負而) 478  
 (取著而) 478  
 (押日取懸) 379  
 (手取持而) 380 408  
 (取佩) 478  
 (取毛不見久爾) 278

(草取可奈和) 385  
 とる(妹手乎取) 385  
 トヲヨル(撓寄)  
 とをよる(十緣皇子) 420  
 十  
 な  
 (名者) 362  
 (名耳母) 481  
 (名告者告世) 363  
 (妹名乎) 285  
 (祖名) 443  
 (酒名乎) 339  
 (名負鞞) 266  
 (汝鳴者) 266 371  
 (汝乎見者) 309  
 な(助詞禁)(馬莫疾打莫行) 263  
 (奥部莫避) 274  
 (雨莫零行年) 299  
 (人爾莫令蓋) 374  
 (浪立莫) 246  
 (情進莫) 381  
 な(助詞冀)(樂乎有名) 349

なか(中爾立置而) 388  
 ナカリ  
 なかり(無有世伐) 387 404  
 (常無里家留) 308  
 ナガシ(長)  
 ながく(年緒長久) 460  
 (天地與長久) 315  
 ながき(長夜) 462  
 (長夜乎) 463  
 ながち(夷之長道) 255  
 ながつき(九月) 423  
 なかなかに(中中二) 343  
 ナガル(流)  
 ながれ(流來者) 386  
 ながる(涕之流) 453  
 なぎさ(池之激爾) 378  
 ナク(泣)(鳴)  
 なか(啼耳鳴六) 483  
 (不泣日者無) 473  
 (哭耳所泣) 324 456  
 なき(鶴鳴渡) 271  
 (哭管) 481



なく(鳴而) 352  
 なく(佐波二鳴) 273  
 (左波爾鳴) 389  
 (泣母) 481  
 (泣友) 301  
 (吾泣) 458  
 (子將哭) 337  
 (鴨會鳴成) 375  
 (吾泣淚) 469  
 (乳鳥鳴成) 268  
 (鳴鳥之) 322 373  
 (鳴鴨乎) 416  
 (霍公鳥鳴五月) 423  
 (川津鳴瀬) 356  
 (哭乎毛置而) 481  
 (哭兒成) 466  
 なけ(汝鳴者) 266 371  
 (雖泣) 476  
 ナクハシ  
 なくはしき(名細寸) 303  
 ナゲク(嘆)  
 なげか(嘆舍) 481

なげき(歎乍) 425  
 (嘆乍) 460  
 なけむ(將無) 408  
 ナシ(無)  
 なく(絶事無) 324  
 (梶棹毛無而) 257  
 (無而) 260  
 (間無) 359  
 なし(不泣日者無) 473  
 (將爲須便毛奈思) 475  
 (將爲須辨毛奈思) 466  
 (心神毛奈思) 457  
 (情神毛奈思) 471  
 (物念毛奈信) 296  
 (無常跡) 465  
 (君無二四天) 458  
 (己具人奈四二) 257  
 (無二) 412  
 なき(親族兄弟無國) 460  
 (價無寶) 345  
 (無人) 434 434 或云  
 (人毛無奈吉空家) 451

(驗無物乎) 338  
 (跡無世間) 466  
 (都禮毛奈吉) 460  
 (跡無如) 351  
 (見之人會奈吉) 446  
 なす  
 (哭兒成) 460  
 (水鴨成) 466  
 ナス(成)  
 なす(海成可聞) 241  
 なすきやま(名次山) 279  
 ナツク(名付)  
 なづけ(名不知) 319  
 (名付毛不知) 466  
 (名付而有毛) 319  
 なつくさの(夏草之) 250  
 ナツサフ  
 なづさひ(名津匠來與) 443  
 なづさふ(名豆颯) 430  
 なつみのかは(夏實之河) 375  
 ナヅム(泥)  
 なづみ(名積叙吾來並二) 382  
 (名積來有有鴨) 383

なでしこ(石竹) 408 464  
 など(奈何) 409  
 なな(古之七賢人) 340  
 ななふすげ(七相菅) 420  
 なに(何矣示) 360  
 (何物爾將譬) 351  
 なのは(難波) 312  
 (難波國) 443  
 なのりその(名乘藻乃) 302 363  
 なのはのうら(繩乃浦) 354  
 (繩浦) 357  
 ナビク(靡)  
 なびき(靡寝) 481  
 なびく(打靡) 475  
 なへ(苗有) 407  
 なべ(宜奈倍) 286  
 なほ(尙不如來) 350  
 なまよみの(奈麻余美乃) 319  
 なみ  
 (浪上) 256 一本  
 (依浪) 359  
 (不知代經浪) 264  
 (浪矣恐) 249

(浪乎恐美) 388  
 (浪立莫勤) 246  
 (瀾立目八方) 247  
 (池浪) 257 260  
 (奥浪) 247  
 (奥津浪) 303  
 (邊波) 247  
 (小浪) 314  
 (千重浪) 409  
 (無暇) 278  
 (效矣無跡) 481  
 (逢因矣無) 483  
 (知師無美) 366  
 (爲便奈美) 456  
 なみだ(涙) 469  
 (涕之流) 453  
 ナミダグマシ  
 なみだぐまし(涕具末之毛) 449  
 なみたち(儕立乃見杲石山) 382  
 なむ  
 (吾波祈奈牟) 379  
 ナム(並)

なめ(馬並而) 239  
 なゆたけの(名湯竹乃) 420  
 なら  
 (寧樂) 300  
 (寧樂京師) 328 331  
 (平城京乎) 330  
 ならし(船爾波有之) 256 一云  
 (如此耳奈良之) 478  
 ナラブ(並)  
 ならび(雙居) 466  
 ナリ(也)  
 なら(枝將有八方) 400  
 (何在) 443  
 (君爾有名國) 422  
 (時爾不在之天) 443  
 (久有者) 311  
 なり(常有之) 478  
 (苗有跡) 407  
 (今盛有) 328  
 (鳴成) 266  
 なる(鴨會鳴成) 375  
 なれ(霧有哉) 429  
 (身在者) 466



- (一有加母) 276
- ナリ(ニ在)
- なら(家有者) 415
- (國有者) 436
- なる(今生在間者) 349
- (磯越道有能登湍河) 814
- (天有) 420
- (駿河有) 317 319
- (駿河奈流) 284
- (在京都) 440
- (三河有二見) 276
- (振乃山有杉村) 422
- (吉野爾有) 376
- ナル(成)
- なら(不成者) 411
- (湍者不成而) 335
- なり(吾羽成武) 348
- (實之成名者) 399
- (髯髯爲乍) 481
- (成極) 481
- (時者成來) 439
- (成家留鴨) 452

- (將成時爾) 398
- (不見歟成) 331
- (彌清成來鴨) 316
- (盛爾成來) 330
- (成而師鴨) 343
- ナル(穢)
- なれ(未著穢) 413
- ナレリ(成方)
- なれる(寶十方成有山) 319
- ニ
- に(助詞)(東國爾) 382
- (伊與爾回之) 388
- (難波國爾) 443
- (足柄山爾) 391
- (神名備山爾) 324
- (佐保山爾) 473
- (佐保乃山邊爾) 460
- (高城乃山爾) 353
- (始瀨乃山爾) 420
- (不盡能高嶺爾) 318
- (不盡嶺爾零置雪) 320

- (御笠乃山爾) 372
- (三笠乃山爾鳴鳥) 373
- (三船乃山爾居雲) 242
- (三船乃山爾絶日安良米也) 243
- (御船乃山爾) 244
- (射狹庭乃崗爾) 322
- (水島爾將去) 246
- (奴島爾) 249
- (枚乃湖爾) 274
- (明石浦爾) 326
- (手結我浦爾) 366
- (繩乃浦爾鹽燒) 354
- (藤江之浦爾) 252
- (明大門爾入日) 254
- (野島之埼爾) 250
- (志賀乃大津爾) 288
- (飽田津爾) 323
- (得名津爾立而) 283
- (勝野原爾) 275
- (託馬野爾生流) 395
- (春日野爾) 405
- (獵野乃小野爾) 239

- (角太河原爾) 298
- (磐余池爾鳴鴨) 416
- (狹野乃渡爾) 265
- (阿倍乃市道爾) 284
- (寧樂乃手祭爾) 300
- (夜隱爾出來月) 290
- (親族兄弟無國爾) 460
- (敷座國爾) 460
- (雷之上爾廬爲流鴨) 285
- (八十之湊爾) 273
- (河湍爾波) 475
- (八十隅坂爾) 427
- (天川原爾) 420
- (荒山中爾海成可聞) 241
- (其山爾) 401
- (山爾棚引) 354
- (山邊爾波) 475
- (山之末爾) 393
- (山際爾) 428
- (天地爾) 420
- (池之激爾) 373
- (入江爾打塵) 433

- (川余杼爾) 375
- (宇乃住石爾) 359
- (礪上丹根蔓室木) 443
- (石穗乃上爾) 420 421
- (荒礪爾生) 363
- (石轉爾生) 362
- (玉藻之於丹) 390
- (御門爾) 443
- (內重爾仕奉) 443
- (外重爾立候) 443
- (荒有家爾) 440
- (妹家爾) 398 399
- (吾屋戶爾) 394 420
- (妻屋爾) 481
- (吾屋前爾) 466
- (屋前爾) 410 469
- (石室戶爾立立) 309
- (鞆宿爾) 426
- (奧爾持行而) 327
- (奧爾念乎) 376
- (邊津方爾) 257
- (客爾臥有) 415

- (海路爾出而) 363
- (中爾立置而) 388
- (阿白木爾不知代經浪) 264
- (賢木之枝爾) 379
- (枕邊爾) 420
- (背向爾所見) 357
- (背向爾見乍) 360
- (背爾見乍) 358
- (萬代爾) 315 473 480
- (萬世爾不絶) 423
- (千歲爾麻佐武) 243
- (退代爾) 322
- (新世爾) 481
- (古爾) 387
- (春爾在婆) 267
- (榮時爾) 475
- (將成時爾) 398
- (還左爾) 449
- (人爾莫令蓋) 774
- (吾妹子爾) 483
- (吾妹兒一) 279
- (妹爾) 445



- (妹爾戀久) 326
- (妻爾) 443
- (母父爾) 443
- (君爾戀) 456
- (過去人爾相半鴨) 427
- (子等爾語而) 443
- (公爾衣借益矣) 361
- (君爾不相可聞) 379
- (君爾不相鴨) 380
- (山能佐都雄爾) 267
- (大夫爾認有神) 406
- (酒壺二成而師鴨) 343
- (蟲爾鳥爾毛) 348
- (雨爾零寺八) 460
- (於雲棚引) 444
- (暮爾將爲登) 424
- (玉爾貫) 423
- (樹爾伐歸都) 391
- (蓋爾爲有) 240
- (手二卷四而有) 366
- (手二卷難寸) 409
- (手二纏在) 424

- (手爾卷以而) 436
- (腰爾取佩) 478
- (吾紐二付) 334
- (可比奈爾懸而) 420
- (此勢能山爾懸者) 285
- (伊奈太吉爾) 412
- (大舟爾) 366
- (大船二) 368
- (濱風爾) 251
- (松風爾) 257 260
- (朝獵爾) 478
- (暮獵爾) 478
- (夕霧丹) 324
- (酒二染管) 343
- (旅爾益而) 451
- (濁酒二豈益目八) 45
- (夜渡月爾) 302
- (猿二鴨似) 344
- (網爾刺) 240
- (色爾將出八方) 301
- (遊道爾冷者) 347
- (何物爾將譬) 351

- (死云事爾不免) 460
- (君爾有名國) 422
- (志賀爾安良七國) 268
- (孤悲爾不有國) 325
- (死物爾有者) 349
- (世間爾有者) 466
- (世之事爾在者) 482
- (山影爾之氏) 375
- (待鹿爾) 405
- (侍從爾) 388
- (曾許念爾) 466
- (醉哭爲爾) 347
- (醉乎遣爾) 346
- (醉泣爲爾尙不如來) 350
- (阿流久爾似人) 425
- (朝爾食爾) 377 403
- (外爾見之) 482
- (外爾見而思香) 393
- (彌繼爾) 324
- (彌遠長爾) 423 一云 478
- (綾爾恐之) 475
- (文爾恐之) 478

- (左波爾雖在) 322 460
- (左波爾雖有) 382
- (左波二鳴) 273
- (左波爾鳴) 389
- (白細爾) 476
- (白袴爾) 478
- (真白衣) 318
- (真白髮爾) 481
- (何方爾) 443 460
- (繁爾貫垂) 379
- (木晚茂爾) 257
- (京思美彌爾) 460
- (千重爾隱奴) 303
- (千重浪敷爾) 409
- (木立之繁爾) 478
- (如是故爾) 305
- (殖而師故二) 411
- (不相兒故荷) 372
- (曲曲二) 333
- (中中二) 343
- (神佐備爾) 420
- (去過勝爾) 253

- (君無二四天) 458
- (盛爾成來) 330
- (情毛思努爾) 266
- ごとに(多藝通瀬每爾) 314
- のみに(片戀耳爾) 372
- までに(生左右二) 259
- (至流左右二) 420
- (年經左右二) 443
- すらに(鴨尙爾) 390
- にし(神二四座者) 235
- (神爾之坐者) 241
- (酒西有良師) 340
- (酒西有良之) 342
- (壽爾之在者) 461
- (物爾之有者) 460
- (今代爾之) 348
- には(遊船爾波) 257
- (時爾波不有跡) 441
- (物爾波在跡) 481
- (明日香庭) 268
- (朝庭) 481
- (夕爾波) 481

- (去左爾波) 450
- (一日爾波) 409
- にも(人爾毛) 432
- (外爾毛見之加) 474
- (其花爾毛我) 408
- (花爾欲得) 306
- にぞ(於保爾曾見谿流) 476
- (保爾曾出流) 326
- にか(外爾可聞見牟) 423
- (ニを加へてよむもの)
- (春日之野邊粟種益乎) 404
- (鉢椀本薛生左右二) 259
- (燒津邊吾去鹿齒) 284
- (葦邊波) 352
- (濱眷奴) 294
- (山際) 481
- (嶺霏霞) 429
- (大殿於) 260
- (濱松上) 444
- (船上住) 258
- (奥名豆颯) 430
- (奥榜) 270



- (故郷) 333
- (前坐置而) 443
- (何處) 275
- (此間爲而) 287
- (六月十五日消者) 320
- (常有奴可) 331
- (後離悔) 410
- (且雲) 324
- (常世有跡) 445
- (朝夕在鶴公) 443
- (朝夕哭耳曾吾泣) 458
- (常將在跡) 244
- (常將有等) 242
- (客爲而) 270 360
- (客有間) 460
- (女有者) 419
- (古昔有家武人) 431
- (共將有跡) 481
- (身著而) 336
- (益旅而) 440
- (衣染) 395
- (手取持而) 380 408 420

- (恒見杆毛) 377
- (色出來) 395
- (名負般) 430
- (今亦更) 483
- (家裏爲) 306
- (面影爲而) 396
- (雪驪) 262
- (無間貫垂) 420
- (繁生有) 324
- (殆) 331
- (朝夕四天) 456
- (髣髴爲乍) 481
- (彌日異) 475 478
- (每見) 324
- (泣母) 481
- (ニシ)(客之有者) 366
- (實之成名者) 366
- (ニハ)(國中者) 329
- (湍者) 335
- (來生者) 348
- (奥邊者) 260
- (邊都返者) 260

- (五月者) 423
- (神者不有) 406
- (哭者泣友) 301
- (一手者) 443 443
- (久者不有) 335
- (ニモ)(此間毛有益) 387
- (遂毛死物) 343
- (ニカ)(歲月日香) 443
- (妹鴨有半) 423
- (ノミニ)(如此耳有家類物乎) 455
- (如此耳有家留物乎) 470
- (接續)(無人思丹) 434 或云
- (不思爾) 444
- (物戀敷爾) 270
- (己具人奈四二) 257
- にきたつ(飽田津) 323
- にきたへ(和細布) 443
- ニギア(賑)
- にぎび(丹杵火爾之) 481
- ニゴレリ(濁有)
- にこれる(濁酒) 335 345
- にて(京都爾而) 439

(加へてよむもの)(淵有毛) 335

には(庭好有之) 256

(爾波母之頭氣師) 388

ニホフ(蕪)

にほふ(咲花乃蕪如) 328

ニホヘリ(香有)

にほへる(香君) 443

ニル(似)

にる(猿二鴨似) 344

(似人) 425

又

ヌ(寝)

ね(一宿者) 440

(獨哉將宿跡) 463

(將宿) 293 462

(不勝宿者) 338

(獨宿名久二) 390

(靡寝吾黑髮) 481

ヌ(複語尾)

な(實之成名者) 399

(暮去者) 275

(干去者) 360

(雲隱去牟) 416

(成奈武) 34

(將成時爾) 398

(不見歟將成) 331

(將吹鳥) 462

(將死還生) 327

(酒二染骨) 343

(將別) 254

(ナを加へてよむもの)

(消者) 399

(に雲隱去寸) 461

(過去人) 427 463

(立西日) 443

(入爾之山乎) 481

(故去之里) 334

(負來爾之) 286

(丹杵火爾之家) 481

(隱去可婆) 466

(深去通都) 282

(生繼爾家里) 322

(都備仁鶴里) 312

(移爾家里) 478

(戀爾家利) 310

(戀爾家里) 286

(深去來) 274

(荒爾鷄里) 479

(來二家里) 287

(安禮爾家留可毛) 307 一云

(彌清成爾來鴨) 316

(散去奚留鴨) 277

(相爾來鴨) 267

(淺爾家留香裳) 292

(隱爾計良惡) 418

(干二家良進) 271

(柄者指爾家牟) 407

(ニを加へてよむもの)

(水草生家里) 378

(開家流香聞) 464

(成家留鴨) 452

(成而師鴨) 343

(色出來) 395

(成來) 330

(來家里) 392



- (來<sub>ニ</sub>來) 269
- ぬ(隠奴) 303
- (開去歲) 388
- (近著奴) 250
- (時者經去) 489
- (濱眷奴) 294
- (伎濃) 450 一云
- (落去登) 400
- (ヌを加へてよむもの)
- (幾代將經) 355
- ぬる(散去如寸) 477
- (保爾會出流) 326
- (消去之如之) 466
- ぬれ(隱益去禮) 460
- (天所知奴禮) 475
- (春去奴禮婆) 475
- (往過奴禮婆) 481
- (ヌレを加へてよむもの)
- (雖干<sub>ヌレ</sub>) 384
- ヌク(貫)
- ぬき(玉爾貫) 428
- (貫交) 423 一云

- (貫垂) 379 420
- (眞棍貫下) 366
- ぬさ(置幣者) 300
- ぬさかのうら(野坂乃浦) 246
- ぬしま(奴島) 249
- ぬしまがさき(野島之崎) 250
- ぬばたまの(烏珠之) 392
- (野干玉乃) 302
- ぬべ(春日之野邊) 404
- ヌル(沾)
- ぬれ(潤濕跡) 370
- (霽者漬跡裳) 374
- ネ
- ね(根) 根深目手) 397
- (草根) 435
- (菅根乎) 414
- (田葛根乃) 423 一云
- (松之根也) 481
- (根蔓) 448
- ね(嶺) 筑波根) 388

の(助詞)(連體格)

- (不盡嶺爾) 320
- (布士能嶺乎) 321
- ね(哭)(哭者泣友) 301
- (哭耳所泣) 324 456
- (哭耳會吾泣) 458
- (啼耳哭管) 481
- (啼耳鳴六) 485
- (明石之浦) 326
- (開乃門) 388
- (葦北乃野坂乃浦) 246
- (明日香能舊京師) 324
- (粟路之野島前乃) 251
- (淡海乃海) 266
- (阿倍乃市道) 284
- (阿倍乃島) 359
- (活道乃路) 479
- (稻見乃海之奥津浪) 303
- (廬前乃角太河原) 298
- (廬原乃清見之崎) 296

- (夢乃和太) 335
- (伊豫能高嶺乃射狹庭乃崗) 322
- (祇海乃河原) 371
- (香具山乃) 334
- (可古能島) 253
- (笠乃山) 374
- (笠縫之島) 276
- (春日之野邊) 404
- (春日山乃) 372
- (勝牡鹿乃眞間之手兒名) 431
- (勝牡鹿之間間能手兒名) 432
- (勝牡鹿乃眞々乃入江) 433
- (甲斐乃國) 319
- (獵路乃小野) 239
- (象乃小河) 316
- (清之河乃) 437
- (清見之崎乃) 296
- (久邇乃京) 476
- (棕橋乃山) 290
- (飼飯海乃) 256
- (越海乃手結之浦) 267
- (越海之角鹿濱) 366

- (左佐羅能小野之七相菅) 420
- (樂浪乃舊都) 305
- (薩摩乃迫門) 248
- (狹野乃渡) 265
- (佐濃能崗) 361
- (佐保乃山邊) 460
- (志賀乃大津) 288
- (志都乃石室) 355
- (鹽干乃三津) 293
- (黒吉乃) 283
- (清江乃木笑松原) 295
- (住吉乃濱乃小松) 394
- (駿河能國) 319
- (勢能山) 285 291
- (此勢能山) 286
- (高城乃山) 353
- (高島乃勝野原) 275
- (田兒之浦) 318
- (手結之浦) 367
- (筑羽乃山) 382
- (角鹿乃濱) 366
- (津乎能崎) 352

- (豐國之鏡山) 311
- (豐國乃鏡山) 417 418
- (夏實之河乃川余村) 375
- (繩乃浦) 354
- (寧樂乃手祭) 300
- (寧樂乃京師) 328
- (始瀨乃山) 420
- (枚乃湖) 274
- (不盡能高嶺) 317 318 319
- (不盡能高峯) 319
- (布士能高嶺) 317
- (布士能嶺) 321
- (藤江之浦) 252
- (藤江能浦) 252 一云
- (振乃山) 422
- (陸奥之眞野乃草原) 396
- (眞野乃榛原) 280
- (眞野之榛原) 281 281
- (眞々乃入江) 433
- (御笠乃山) 372
- (三笠乃山) 373
- (水河乃) 276 一云



- (敏馬乃埼) 389
- (敏馬能埼) 449
- (三船乃山) 242 243
- (御船乃山) 244
- (三穗乃石室) 307
- (見穗乃浦) 296
- (三保乃浦廻之白管仕) 434
- (三諸乃神名備山) 324
- (三湯之上乃) 322
- (三吉野之御船乃山) 244
- (見吉野之瀧) 313
- (見吉野之芳野乃宮) 315
- (見吉野之高城乃山) 353
- (神之埼) 265
- (武庫乃浦) 256 一云
- (六兒乃泊) 285
- (山代乃相樂山) 481
- (山跡國乃嶺) 319
- (芳野乃宮) 315
- (石村之道) 423
- (淺野之雉) 338
- (伊勢海之奥津白浪) 306

- (鏡山之石戸) 419
- (香山之鉢槽) 258
- (春日里之殖子水葱) 407
- (清見之埼乃見穗乃浦) 296
- (輕池之納廻) 390
- (越海之角鹿乃濱) 366
- (相樂山乃山際) 481
- (鞆浦之磯) 447
- (夏實之河乃) 375
- (泊瀬山之山際) 428
- (二見之目道) 276 一云
- (日本之山跡國) 319
- (八十氏河乃阿白木) 264
- (久米能若子) 207 435
- (間間能手兒名) 432
- (然之海人) 278
- (須麻乃海人之鹽燒衣) 413
- (眞間之手兒名) 431
- (三津之海女) 293
- (三湯之上乃) 322
- (天雲之雷之上) 235
- (石穗乃上) 420 421

- (山之末) 393
- (大宮之内) 238
- (海若之奥) 327
- (泊瀬山之山際) 428
- (香具山乃故去之里) 334
- (瀧上之三船乃山) 242
- (高山之石穗乃上) 241
- (高山乃石穗乃上爾) 240
- (瀧上乃淺野) 388
- (瀧乃白浪) 313
- (青山之嶺乃白雲) 377
- (池之激) 378
- (磯之草根) 435
- (磯之室木) 447
- (奥山之菅葉) 299
- (奥山之磐本背) 397
- (鞆浦之天木香樹) 446
- (奥山乃) 379
- (夷之長道) 255
- (東市之殖木) 310
- (屋前之橋) 411
- (屋前之石竹) 464

- (濱乃小松) 394
- (嶺乃白雲) 377
- (瀧乃白浪) 313
- (山能佐都雄) 267
- (河原之乳鳥) 371
- (筑紫乃綿) 336
- (木笑松原) 295
- (天之芳來山) 257
- (古家乃里之明日香) 263
- (大夫乃手結我浦) 366
- (八十之湊) 273
- (雷之上) 235
- (濱松之上) 444
- (國之三中) 319
- (其山之水乃當) 319
- (雪消乃道) 383
- (三船乃登麻里) 247
- (浪乃去邊) 264
- (許禮能水島) 245
- (已知其智乃) 319
- (曾久敝能極) 420
- (遠乃朝廷) 304

- (玉梓乃事) 445
- (行幸之宮) 315
- (大荒城乃時) 441
- (九月能四具禮能時) 423
- (出來月乃光) 290
- (度日之陰) 317
- (照月乃光) 317
- (天雲乃) 420
- (神乃香山) 260
- (天地乃神祇) 443
- (皇神祖之神乃御言) 322
- (神之御門) 443
- (神之命) 379
- (神之社) 404
- (吾妹兒之屋前) 411
- (朋神之貴山) 382
- (儕立乃見杲石山) 332
- (綿津海乃手) 366
- (天之探女) 292
- (我王之幸行處) 295
- (大王之遠乃朝廷) 304
- (大王之御命) 363

- (大王之命) 297
- (大皇之命) 441
- (王之命) 443
- (吾日乃皇子) 239
- (日之皇子) 261
- (御子乃命) 475
- (皇子之命乃) 479
- (皇子之命) 478 479
- (皇子乃御門) 475
- (皇子乃御門乃) 478 479
- (物乃部能八十氏河) 264
- (物乃負能八十伴男) 478
- (物部乃臣之壯士) 369
- (大夫之心) 478
- (海部之釣船) 256 一本
- (海人之呼聲) 238
- (大聖之言) 539
- (古之七賢人) 340
- (大伴之名) 480
- (吾背乃君) 286
- (海人之鹽燒衣) 413
- (任乃隨) 369



(大御馬之口) 478  
 (鳴鳥之音) 322  
 (其鳥乃) 372  
 (都賀乃樹) 324 324  
 (其夜乃梅) 392  
 (賢木之枝) 379  
 (柘之枝) 387  
 (柘之左枝) 386  
 (石竹之其花) 408  
 (藤浪之花) 330  
 (鉢槽之本) 259  
 (木立之繁) 478  
 (玉藻乃於) 390  
 (水乃當) 319  
 (鹽左爲能浪) 388  
 (秋津羽之袖) 376  
 (赤乃曾保船) 270  
 (髮梳乃少櫛) 278  
 (白妙乃手本) 481  
 (白細之衣袖) 460  
 (倭文幡乃帶) 431  
 (一杯乃濁酒) 338 345

(鹽干乃) 293  
 (鹽燒衣乃) 413  
 (世間乃悔言) 420  
 (世間之遊道) 347  
 (世之事) 482  
 (昔者之舊堤) 378  
 (行幸之宮) 315  
 (音之清左) 314  
 (言乃宜左) 339  
 (天地爾悔事乃世間乃悔言) 420  
 (鹽燒衣乃藤服) 413  
 (朋神之貴山乃儕立乃見杲石山) 382  
 (開有花之梅花) 399  
 (逆言之狂言) 421 475  
 (結之辱) 401  
 (國之盡) 322  
 (日之盡) 372  
 (夜之盡) 372  
 (人乃盡) 460  
 (朝鳥之) 481 483  
 (蘆鶴之) 456

(足日木能) 414  
 (足水木乃) 460  
 (足日木乃) 267 466  
 (足檜木乃) 477  
 (荒玉乃) 460  
 (荒玉之) 443  
 (虛蟬之) 465  
 (鬱蟬乃) 443  
 (打蟬乃) 466  
 (打背見乃) 482  
 (大船之) 423 一云  
 (加麻幡夜能) 434  
 (容鳥能) 372  
 (河岸之) 437  
 (刈薦乃) 256  
 (田葛根乃) 423 一云  
 (隱江乃) 249  
 (隱久乃) 420  
 (隱口乃) 424  
 (隱口能) 428  
 (布細乃) 460  
 (敷細乃) 461

(敷細之) 438  
 (白菅乃) 280 281  
 (白栲乃) 252 一云  
 (白細之) 460 481  
 (杉村乃) 422  
 (高座之) 372  
 (高座之) 378  
 (栲角乃) 460  
 (栲領巾乃) 285  
 (立霧乃) 325  
 (玉梓乃) 420 445  
 (帶乳根乃) 443  
 (露霜乃) 466  
 (留火之) 254  
 (夏草之) 250  
 (夏草乃) 250 一云  
 (名乘藻乃) 362 363  
 (奈麻餘美乃) 319  
 (野干玉乃) 302  
 (烏珠之) 392  
 (延葛乃) 423  
 (隼人乃) 248

(春草之) 239  
 (久堅之) 379  
 (久堅乃) 239 240 475  
 (久方乃) 292  
 (大夫乃手結我浦) 366  
 (百磯城之) 257  
 (百式乃) 260 或云  
 (百式紀乃) 323  
 (燒火乃) 326  
 (志斐能我強語) 236  
 (秋風乃寒朝開) 361  
 (明日香河乃) 356  
 (海女乃久具都持) 263  
 (天雲之曾久做) 420  
 (天雲之向伏國) 443  
 (天地之分時) 317  
 (天地乃至流左右) 420  
 (寢乃不勝宿者) 388  
 (石船乃泊師) 292  
 (字乃住石) 359  
 (殖木乃木足左右) 310  
 (王之親魂合哉) 417

(大宮人乃) 257 或云  
 (大宮人乃去出) 260  
 (大宮人之) 323  
 (磐金之擬敷山) 301  
 (開有梅之) 398  
 (神乃御言乃敷座) 322  
 (立雲之常將在) 244  
 (草根乃干卷) 435  
 (榮之君乃伊座勢者) 454  
 (故鄉之) 333  
 (大皇之敷座國) 460  
 (咲花之薰如) 323  
 (吾佐保河乃所念國) 371  
 (島山之宜國) 322  
 (白雲乃棚引山) 287  
 (小彥名乃將座) 355  
 (爲便乃不知苦) 419  
 (鳴瀬之清有良武) 356  
 (玉緒乃不絕射妹與) 481  
 (吾背乃君之) 286  
 (其玉之) 409  
 (手弱女之押日取懸) 379



- (柘之左枝乃流來者) 386
- (年之不知久) 323
- (不知代經浪乃) 264
- (鳴音之止者繼流) 372
- (儕立之) 382
- (名湯竹乃十緣) 420
- (人之言嗣) 382
- (有家武人之) 431
- (過去人之所念久爾) 403
- (人言之繁比日) 436
- (人乃渡毛) 319
- (將歸人乃) 423
- (零雪乃消者) 299
- (船之跡無如) 351
- (真木之立) 241
- (真木葉乃之奈布) 291
- (大夫之弓上振起射都流失) 364
- (若子乃匍匐多毛保里) 458
- (綠兒乃哭乎毛置而) 481
- (見穗乃浦乃寬) 296
- (皇子乃御門乃) 478
- (黃葉乃移伊去者) 459

- (梁打人乃無有世伐) 387
- (島山之宜國) 321
- (彼山之) 319
- (山守之有家留) 401
- (此夜乃將明跡) 388
- (夜之) 370
- (吾王乃敷座有) 329
- (皇子之命乃安里我欲比見之活道) 479
- (吾黑髮乃) 451
- (吾日乃皇子乃) 239
- (腋挾兒乃) 451
- (居雲乃常將有等) 242
- (ノを加へてよむもの)
- (伊勢海) 306
- (天原) 317 379
- (遊道爾) 347
- (東市) 310
- (古昔大聖) 339
- (梅花) 400
- (磯上) 448
- (瀧上乃) 358

- (春日里) 407
- (家門當) 255 一本
- (山際) 428
- (鞆浦) 446 447
- (繩浦) 357
- (武庫浦) 358
- (越海) 366 367
- (飲海) 371
- (東國) 382
- (新羅國) 460
- (山跡國) 319
- (二見自道) 276
- (吉野川奥) 430
- (不盡嶺) 320
- (山背高槻村) 27
- (吉野山嶺) 429
- (寧樂京師) 331
- (平城京) 330
- (春日山) 372
- (磐余池) 416
- (泊瀨山) 428
- (近江海) 273

- (出雲兒等) 429
- (出雲子等) 430
- (妹名) 285
- (酒名) 389
- (皇祖神之御門) 443
- (象小河) 332
- (勝野原) 275
- (難波國) 443
- (國中者) 329
- (祖名) 443
- (山際) 420 481
- (瀧上) 242
- (大殿於) 260
- (船上) 258
- (海人釣船) 256 294
- (山下赤乃曾保船) 270
- (磯前) 273
- (家當) 254
- (真木葉) 291 431
- (菅根) 414
- (菅葉) 299
- (梅樹) 453

- (芽子花) 455
- (梅花) 399
- (年緒) 460
- (七賢人) 340
- (玉緒) 481
- (母命) 443
- (白袴衣) 443
- (昔人) 309
- (家妹) 360
- (春日) 324
- (鞆宿) 426
- (六月十五日) 320
- (秋夜者) 324
- (何時間) 259
- (愛人纏而師) 438
- (天雲向伏國武士) 443
- (依浪間無) 359
- (朝霧髻爲乍) 481
- (露霜置而) 443
- (大王任乃隨意) 369
- (如千歲) 470
- (河風寒) 425

- のち (後毛吾松) 394
- (後將見人) 364
- (後悔) 410
- のとせがは (能登湍河) 314
- ノボル(上)
- のぼら (飛毛不上) 319
- のみ (言耳毛) 431
- (名耳母) 431
- (標耳曾結焉) 414
- (哭耳所泣) 424 456
- (啼耳鳴六) 483
- (啼耳哭管) 481
- (哭耳曾吾泣) 458
- (今日耳見哉) 416
- (片戀耳爾) 372
- (如此耳跡) 472
- (如是耳有家留物乎) 470
- (如此耳有家類物乎) 455
- (如此耳奈良之) 473
- (四十耳見乍) 383
- ノム(祈)
- のみ(乞禱) 443



- ノム(飲)
  - のま(酒不飲人) 344
  - のみ(酒飲而) 341 346
  - (飲酒而) 350
  - のむ(可飲有良師) 338
  - ノラス(告)
    - のらし(名者告之五余) 362
    - のらせ(告名者告世) 363
    - (話禮話禮常詔許會) 273
  - ノル(告)
    - のら(告名者告世) 363
    - のる(強話登言) 287
    - ノレリ(乘有)
      - のれる(我乘有馬) 365
- ハ
  - は(葉)(真木葉) 291 331
  - (背葉) 299
  - は(末)(山之末爾) 393
  - は(助詞)(王者) 243
  - (皇者) 235 241
  - (我大王者) 240

- (吾大王者) 420
- (親者知友) 362
- (父母者知友) 363
- (母命者) 443
- (憶良等者) 337
- (舍人者) 478
- (志斐伊波奏) 237
- (出雲兒等者) 429
- (海若者) 388
- (然之海人者) 278
- (臣之壯士者) 369
- (妹者) 286 447
- (山主者) 402
- (在鶴公者) 448
- (公者在然) 444
- (人者) 364 443
- (人者雖云) 400
- (所云人者) 443
- (吾者) 243 379 431
- (吾波乞甘) 380
- (吾羽成奈武) 348
- (吾等者) 250

- (此照月者) 442
- (白雲者) 353
- (伊佐夜歷雲者) 428
- (雪者) 317 318
- (零置雪者) 320
- (山跡島根者) 303
- (春日者) 324
- (高山者) 382
- (不盡能高嶺者) 317 319
- (不盡高峯者) 319
- (寧樂乃京師者) 328
- (久邇乃京者) 475
- (舊京師者) 324
- (高津者) 292
- (河津者驟) 324
- (路波荒爾鷄里) 479
- (舊堤者) 378
- (湯者霜) 322
- (芳野乃宮者) 315
- (里家者) 460
- (空家者) 451
- (三穗石室者) 307

- (石室者今毛) 308
- (志都乃石室者) 355
- (吾山齋者) 452
- (代者無常) 465
- (世間者) 442 478
- (時者) 439 469
- (時者霜) 467
- (四具禮能時者) 423
- (今生在間者) 349
- (不泣日者無) 473
- (書者毛) 372
- (夜者深去通都) 282
- (夜者毛) 372
- (秋夜者) 324
- (今者) 337 432
- (極貴物者) 342
- (欲爲物者) 240
- (牟佐佐婢波) 267
- (多頭羽亂) 324
- (天木香樹者) 446
- (濱乃小松者) 394
- (花者) 330

- (柄者指爾家半) 407
- (舟者) 260 357
- (吾船者) 274
- (黑髮者) 430
- (置幣者) 300
- (王者) 424
- (伎須賣須流玉者) 412
- (筑紫乃綿者) 336
- (痛情者) 472
- (悔言者) 420
- (遊道爾冷者) 347
- (心者不遂) 481
- (通計萬口波) 423
- (賢良爲者) 350
- (吾行者) 335
- (夜路者將吉) 239
- (心者不持) 437
- (猪名野者令見都) 279
- (事者將定) 393
- (事者不果) 481
- (名者告志豆余) 362
- (梁者不打而) 386

- (未者伎禰杼) 336
- (不念者) 338
- (霏者漬跡裳) 374
- (邊都返者) 260
- (人跡不有者) 243
- (奧邊者) 260
- (君乎婆) 423
- (物乎不念者) 338
- (家從者) 461
- (開乃門從者) 338
- (從今者) 462
- (物言從者) 341
- (十六社者) 239
- (葦邊波) 352
- (奧邊波) 257
- (朝庭) 481
- (遊船爾波) 257
- (山邊爾波) 475
- (河湍爾波) 475
- (一日爾波) 409
- (去左爾波) 450
- (夕爾波) 481



- (時爾波不有跡) 411
- (物爾波在跡) 481
- (國中者) 329
- (來生者) 348
- (湍者不成而) 335
- (五月者) 423
- (一手者) 443 448
- (哭者泣友) 301
- (神者不有) 406
- (久者不有) 335
- (トハ)(此間登波) 481
- (妹者不喚) 286
- (ハモ)(問之君波母) 455
- (津乎能崎羽毛) 352
- (相之兒等羽裳) 878
- (柘之枝羽裳) 372
- (晝者毛) 237
- (夜者毛) 372
- (ハを加へてよむもの)
- (吾將宿) 275
- (未然形所屬)
- (引者難三等) 414

- (濱裏乞者) 360
- (何在問者) 448
- (秋去者) 464
- (告名者) 363
- (雨零者) 374
- (懸者奈何將有) 285
- (不見而往者) 382
- (可倍波伊香爾安良牟) 285 一云
- (一宿者) 440
- (流來者) 386
- (手向爲者) 427
- (不見久有者) 311
- (眞幸有者) 288
- (樂有者) 348
- (家有者) 415
- (玉有者) 436
- (知末世波) 468
- (人不見者) 269
- (不成者不止) 411
- (暮去者) 275
- (實之成名者) 399
- (鹽干去者) 360

- (ナバ)(別者) 276 一云
- (消者將惜) 299
- (無有世伐) 387 404
- (種有世伐) 405
- (伊座勢波) 454
- (有世婆) 460
- (已然形所屬)
- (語之告者) 313
- (汝鳴者) 266 371
- (行者) 273 366
- (打越去者) 365
- (伊去者) 469
- (吾超去者) 291
- (神二四座者) 235
- (神座者) 235 或本
- (神爾之坐者) 241
- (見渡者) 283 326
- (云者) 463
- (念者) 434 474
- (物念者) 333
- (古思者) 324
- (春爾至婆) 257

- (明去者) 338
- (夕去者) 354
- (暮去者) 838
- (見者) 272 304 309 317 318 322 376 449 478
- (見者悲霜) 434 一云
- (今見者) 316
- (振離見者) 289
- (打出而見者) 318
- (熟見者) 344
- (獨過者) 460
- (許藝廻者) 839
- (止者) 373
- (消者) 320
- (生者) 349 460
- (春去來者) 260
- (戀來者) 255
- (物爾有者) 349
- (客之有者) 366
- (女有者) 419
- (世間爾有者) 466
- (壽爾之在者) 461
- (世之事爾在者) 482

- (間遠之有者) 413
- (不免物爾之有者) 460
- (思有者) 253
- (身在者) 466
- (不思者) 476
- (君師不座者) 457
- (不勝宿者) 388
- (隱去可婆) 466
- (春去奴禮婆) 475
- (往過奴禮婆) 481
- (吾去鹿齒) 284
- はぎ(芽子花) 455
- はきはら(眞野乃榛原) 280
- (眞野之榛原) 231 281
- ハク(佩)
- はき(取佩) 478
- ハシ(愛)
- はしき(波之吉佐實山) 474
- (波之吉可聞) 479
- (愛八師榮之君) 454
- (愛八師) 466
- ハタス(果)

- はたさ(不果) 481
- はたすすき(皮爲酢寸) 307
- はち(結之辱爲都) 401
- ハツ(泊)
- はて(榜將泊) 274
- (泊師高津) 292
- はつせ(長谷乎) 425
- (泊瀬山) 428
- (始瀬乃山) 420
- はつせやま(白瀬山) 282
- はつせをとめ(泊瀬越女) 424
- はな
- (花) 466 469 477 478
- (花者) 330
- (其花) 403
- (花爾欲得) 306
- (開有花之梅花) 399
- (咲花乃) 328
- (梅花) 400
- (芽子花) 465
- (花橋) 423
- ハナツ(放)
- はなつ(雖放) 378



はは (彼母毛) 337  
 (母命) 443  
 ハバカル(憚)  
 はばかり(伊去波伐加利) 317 319  
 (伊去羽計) 321  
 (行憚而) 353  
 ハフ(匍匐)  
 はひ(匍匐多毛登保里) 458  
 ハフ(延)  
 はふ(延葛乃) 423  
 (根蔓室木) 448  
 はま (濱乃小松) 394  
 (濱眷奴) 294  
 (角鹿乃濱) 366  
 はまかせ(濱風) 251  
 はまづと(濱裏) 360  
 はままつ(濱松) 444  
 ハヤシ(早)  
 はやく(倭部早) 280  
 はやびと(隼人乃) 248  
 はやみ(風乎疾) 294  
 はら(天原) 317 379

はらから(勝野原) 275  
 (兄弟) 460  
 はる (春爾至婆) 257  
 (春日者) 324  
 ハル(張)  
 はり(張而懸有) 259  
 はるがすみ(春霞) 407  
 はるくさ(春草之) 239  
 はるびを(春日乎) 372  
 ひ  
 (日之盡) 372  
 (絶日) 243  
 (歲月日香) 443  
 (春日者) 324  
 (不泣日者無) 473  
 (立西日從) 443  
 (入日哉) 254  
 (不戀日) 408  
 (度日之) 317  
 (此日暮去者) 275  
 (彌日異) 475 478

ひ  
 (燒火乃) 326  
 (燎火乎) 319  
 ひかり(火用消通都) 319  
 (光乏寸) 290  
 (照月乃光毛不見) 317  
 ヒカル(光)  
 ひかり(山佐倍光) 477  
 (夜光玉) 346  
 ヒク(引)  
 ひか(引者) 414  
 ひき(引豐國之) 311  
 ひさ (久有者) 311  
 (久者不有) 335  
 ひざ (膝折伏) 379  
 ひさかたの(久堅之) 379  
 (久堅乃) 230 240 420 475  
 (久方乃) 292  
 (久方) 260  
 ヒサシ(久)  
 ひさしく(長久) 315  
 さひしき(遠久寸) 431  
 ひさしみ(不相久美) 310

ひじり(聖跡負師) 339  
 (大聖) 339  
 ヒツ(濕)  
 ひづ(潤濕跡) 370  
 (霽者漬跡裳) 374  
 ひづち(溼打) 475  
 ひと (人不見者) 269  
 (人不榜) 258  
 (己具人奈四二) 257  
 (人乃渡毛) 319  
 (住氣類人會) 308  
 (昔人乎) 309  
 (七賢人) 340  
 (人跡不有者) 340  
 (酒不飲人乎) 344  
 (人者) 364  
 (人爾莫令蓋) 374  
 (人之言嗣) 382  
 (梁打人) 387  
 (人者雖云) 400  
 (人將解八方) 402  
 (人會言鶴) 420

(過去人) 427 463  
 (無人) 434 434 或云  
 (似人) 425  
 (人爾毛將告) 432  
 (有家武人) 431  
 (將歸人乃) 423  
 (愛人纏而師) 438  
 (纏人將有哉) 438  
 (武士登所云人者) 443  
 (待監人者) 443  
 (見之人) 443 448  
 (人毛奈吉) 451  
 (憑有之人乃盡) 460  
 ひとごと(人言) 436  
 (人事乎) 460  
 ひとつ(一有加母) 276  
 ひとつき(一坏) 338 345  
 ひとひ(一日) 409  
 ひとり(獨可毛將去) 276 一本  
 (獨可毛將宿) 298  
 (獨宿名久二) 390  
 (獨爲而) 366

(獨而) 449  
 (獨過者) 450  
 (獨哉將宿跡) 463  
 (獨長夜乎將宿) 462  
 (直獨而) 460  
 (一宿者) 440  
 ひな (夷之長道) 255  
 ひのみこ(吾日之皇子乃) 239  
 (日之皇子) 260  
 ひのもと(日本之) 319  
 ひむがし(東市) 310  
 ひも(紐吹返) 251  
 (吾紐二付) 334  
 ひらのみなと(枚乃湖) 274  
 ひる(晝者毛) 372  
 (晝見騰) 297  
 ひれ(袴領巾) 285  
 ヒル(干)  
 ひ(令干) 334  
 (未干爾) 469  
 (鹽干去者) 360  
 (鹽干二家良進) 271



フ

- フ(經)
- へ(幾代將經) 355
- (時者經去) 469
- ふる(年經左右二) 443
- ふかみ(年深) 378
- フカム(深)
- ふかめ(根深目手) 397
- フク(吹)
- ふき(吹返) 256
- (將吹鳥) 462
- ふく(寒吹良武) 352
- フク(更)
- ふけ(夜者深去通都) 282
- (深去來) 274
- ふじ
- (不盡能高嶺) 317 318 319
- (不盡能高峯) 819
- (布士能高嶺) 817
- (布士能嶺) 321
- (不盡嶺) 320
- ふじかは(不盡河) 319
- フス(伏)

- ふせ(膝折伏) 379
- ふせや(廬屋立) 431
- ふたがみ(朋神之貴山) 332
- ふたつ(無二) 412
- ふたみ(二見自道) 276
- (二見之) 276 一本
- ふたり(二吾見之) 450
- (二作之) 460
- (二人) 466
- ふち
- (淵有毛) 335
- ふちえ(藤江之浦) 252
- ふちごも(藤服) 413
- ふちなみ(藤浪之) 330
- ふなき(船木伐) 391
- (船材乎) 391
- ふなで(船出爲而) 246
- ふなには(船爾波有之) 256 一本
- ふなのり(船乘將爲) 323
- ふなびと(船人) 283
- ふね(舟) 250
- (榜法師船) 351
- (遊船爾波) 257

- (船上) 258
- (榜來舟者) 260
- (吾船) 274
- (榜回舟者) 357
- フム(踐)
- ふみ(踐起) 478
- (履立) 478
- ふゆごもり(冬木成) 382
- フル(降)
- ふら(雨零者) 374
- (雨不零) 370
- ふり(落亂) 262
- (雨莫零行年) 299
- (霰零) 385
- (雪者落家留) 317
- (雪波零家留) 318
- (零置雪者) 320
- (零寸八) 460
- (零來雨) 265
- (布里家利) 320
- ふる(零雪) 299
- (落雪乎) 319

- フル(振)
- ふり(振離見者) 289
- (振放見者) 317
- (心振起) 478
- (弓上振起) 364
- ふる(袖振妹乎) 376
- フル(古)
- ふり(故郷) 333
- (故去之里) 334
- フルシ(舊)
- ふるき(舊都) 305
- (舊京師) 324
- (舊堤者) 378
- ふるのやま(振乃山) 422
- ふるへ(古家乃里) 268
- ふるまひ(振麻比) 478

- へ(上) (瀧上乃) 338
- へ(助詞) (櫻田部鶴鳴渡) 271
- (奥部莫避) 274
- (倭部早) 280

- へシ(複語尾)
- べく(應還) 439
- (可飲有良師) 338
- (可有良師) 347
- べし(可辛苦) 440
- べき(可悔心) 437
- (應祀) 406
- (念應過) 325
- (思過倍吉) 422
- へつへ(邊津方) 257
- (邊都返者) 260
- へなみ(邊浪) 247

- ほとほと(殆) 331
- ホル(穿)
- ほり(忌穿居) 379
- ホル(欲)
- ほり(欲爲物者) 340
- (欲見其玉) 403
- マ
- ま
- (何時間毛) 259
- (今生在間者) 349
- (客有間爾) 400
- (間無) 359
- (間無數鳴) 372
- ま
- (山際) 428 429 481
- まかち(真棍貫下) 366
- (真棍繁貫) 368
- マガフ(紛)
- まがふ(落亂雪) 262
- マカル(罷)
- まから(今者將罷) 337
- まかり(退出而) 257
- (去出而) 260



まき (眞木之立) 241  
 (眞木葉) 291 431  
 マク(蒔)  
 まか(蒔蒔) 384  
 (種益乎) 404  
 まき(種生之) 384  
 (種益乎) 404  
 マク(卷、纏)  
 まか(將纏) 415  
 (手二卷四而有) 366  
 まき(卷難寸) 409  
 (卷以而) 436  
 (纏而師) 433  
 まく(纏人) 438  
 マクラク(枕)  
 まくらか(將枕) 439  
 まくらべ(枕邊) 420  
 マケリ(蒔有)  
 まけり(種有世代) 405  
 マケリ(纏有)  
 まける(手二纏在) 424  
 まこと(眞貴久) 245  
 まさきく(眞幸有者) 358

(間幸座與) 443  
 マサル(益)  
 まさら(益目八) 345  
 まさり(益有良之) 341  
 (益旅而) 440  
 (益而) 451  
 マシ(複語尾)  
 ませ(知末世婆) 468  
 まし(食賜麻思) 475  
 (此間毛有益) 387  
 (種益乎) 404  
 (行益乎) 405  
 (塞毛置末思乎) 468  
 (召麻之乎) 454  
 (借益矣) 361  
 (不戀有益雄) 436  
 (潔身而麻之乎) 420  
 (令見麻思物乎) 466  
 (見手益物乎) 277  
 マジフ(交)  
 まじへ(貫交) 423 一云  
 ましらか(眞白髮爾) 481

ましろ(眞白衣) 318  
 マス(坐)  
 まさ(不來座) 418  
 (不座者) 457  
 (千歲爾麻佐武) 243  
 まし(渡來座而) 460  
 (慕來座而) 460  
 (隱益去禮) 460  
 ます(雲隱座) 441  
 (茂座大殿) 260  
 (敷座國) 460  
 ませ(神二四座者) 235  
 (神爾之坐者) 241  
 (間幸座與) 443  
 マス(益)  
 まし(益而戀石見) 332  
 ますらを(大夫之) 364  
 (大夫乃) 366  
 (大夫爾認有神) 406  
 (大夫之心) 478  
 マセリ(坐有)  
 ませる(敷座有) 329

まそかがみ(眞十鏡) 239  
 また(亦毛將見) 288  
 (今亦更) 483  
 (亦毛) 384  
 (復將變八方) 331  
 マタス(待)  
 またさ(待牟妹) 446  
 まつ(松之根也) 431  
 (吾松) 394  
 (小松) 394  
 (濱松) 444  
 (松樹) 309  
 マツ(待)  
 また(家待莫國) 426  
 まち(待鹿爾) 405  
 (待不得而) 268  
 (待監人) 443  
 (君待香光) 370  
 まつ(將待會) 357  
 まで(雖待) 418  
 まつかぜ(松風) 257 260  
 まつちやま(亦打山) 298

まつばら(松原) 295  
 (角松原) 279  
 マツル(祭)  
 まつる(好應祀) 406  
 (吾祭神) 406  
 マツル(奉)  
 まつり(和細布奉) 443  
 (仕奉) 443  
 まで (大宮之内二手) 288  
 (及常世) 260  
 (木足左右) 310  
 (生左右二) 259  
 (至流左右二) 420  
 (年經左右一) 443  
 マドホシ(間遠)  
 まどほく(間遠之有者) 413  
 まどほき(差間遠鳥) 302  
 まにま(任乃隨) 359  
 まにまに(君隨意) 412  
 まぬ(眞野乃榛原) 280  
 (眞野之榛原) 281 281  
 (眞野乃草原) 396

マヌカル(免)  
 まぬかれ(不免物) 460  
 まへ(前坐置而) 443  
 まま (眞々乃入江) 433  
 (眞間之手兒名) 431  
 (間間能手兒名) 432  
 まるりくらく(朝樂毛) 262  
 マチス  
 まをせ(志斐伊波奏) 237  
 ミ  
 み(身)(身著而) 336  
 (身在者) 466  
 み(實)(實之成名者) 399  
 み(海)(淡海乃海) 266  
 (近江海) 273  
 み (負見抱見) 481  
 みかさのやま(御笠乃山) 372  
 (三笠乃山) 373  
 みかど(神之御門) 443  
 (皇子乃御門) 478  
 (遠乃朝庭) 304



みかは(三河有) 276  
 (水河乃) 276 一本  
 みがほし(山四見容之) 324  
 みがほしやま(見杲石山) 382  
 みかもなす(水鴨成) 466  
 みかり(三獵立流) 239  
 みくさ(水草生家里) 378  
 みこ(名湯竹乃十縁皇子) 420  
 (御子乃命) 478  
 (皇子之命) 478 479  
 (皇子乃御門) 478  
 みこころを(御心乎) 478  
 みこし(御輿) 475  
 みこと(大王之命恐) 297 368  
 (王之命恐) 443  
 (天皇之命恐) 441  
 みこと(皇神祖之神乃御言乃) 322  
 (神之命) 379  
 (御子乃命) 475  
 (皇子之命) 478 479  
 (母命者) 443  
 みさご(美沙居) 362 363

ミス(令見)  
 みせ(令見麻思物乎) 466  
 (令見乍) 305  
 (令見都) 279  
 ミソグ(潔身)  
 みそぎ(潔身而麻之乎) 420  
 ミダル(亂)  
 みだり(多頭羽亂) 324  
 (亂而) 424  
 (亂出所見) 256  
 みち(其路) 381  
 (石村之道乎) 423  
 (二見自道) 276  
 (二見之自道) 276 一本  
 (活道乃路) 479  
 (行道) 468  
 (遊道爾冷者) 347  
 (雪消乃道矣) 383  
 みちのく(陸奥之) 396  
 みつ(三津乃海女) 293  
 ミツ(滿)  
 みた(令滿) 388

みち(滿闕爲家流) 442  
 みづ(水乃當鳥) 319  
 みづしま(水島) 245 246  
 みつのさき(三津崎) 249  
 みつみつし(見津見津四) 435  
 みどりこ(若子) 458 467  
 (綠兒) 481  
 みなか(國之三中從) 319  
 みなつき(六月十五日) 320  
 みなと(潮見) 253 一云  
 (枚乃湖) 274  
 (八十之湊) 273  
 みなとかせ(湖風) 352  
 みにく(痛醜) 344  
 みぬめ(敏馬) 250  
 (敏馬乃崎) 389  
 (敏馬能崎) 449  
 みね(嶺) 429  
 (嶺乃白雲) 377  
 みふね(三船乃登麻里) 247  
 みふねのやま(三船乃山) 242 243  
 (御船乃山) 244

みほ(三穗乃石室者) 307  
 (見穗乃浦) 296  
 (三保乃浦廻) 434  
 みもろ(三諸乃) 324  
 (御諸) 420  
 みや(行幸之宮) 315  
 (宮登定流) 417  
 (芳野乃宮) 315  
 みやこ(京師) 439 440  
 (京師所念) 329  
 (舊京師) 324  
 (京) 460  
 (舊都) 305  
 (久邇乃京) 475  
 (平城京乎) 330  
 (寧樂乃京師) 328  
 (寧樂京師) 331  
 みやこひき(今者京引) 312  
 ミヤコブ  
 みやこび(都備仁鷄里) 312  
 みゆ(三湯之上) 322  
 ミユ(見)

みえ(木立不見) 262  
 (光毛不見) 317  
 (不所見十方) 393  
 みゆ(所見) 255 255 一本 266 一本 270  
 (亂出所見) 256  
 (潮見) 253 一云  
 (暖所見) 336  
 (所見云物乎) 396  
 みゆる(棚引所見) 353  
 (背向爾所見奥島) 357  
 みよしぬ(三吉野之御船乃山) 244  
 (見吉野之) 313 315 353  
 ミル(見)  
 み(不見) 254  
 (不見跡云物乎) 305  
 (不見久有者) 311  
 (人不見者) 269  
 (不見而) 382  
 (不見歟) 381  
 (取毛不見久爾) 278  
 (欲見其玉) 403  
 (將見) 252 258

(將見每) 447  
 (後將見人) 364  
 (外爾可聞見牟) 423  
 (牽行見) 293  
 (行見爲) 332  
 (見賜) 376  
 (見渡者) 326  
 (見毛左可受) 450 一云  
 (外爾見之) 482  
 (昔見之) 316 332  
 (見之人) 446 446  
 (二吾見之) 450  
 (外爾毛見之加) 474  
 (相見之妹) 447  
 (相見染) 300  
 (見師鞆浦) 446  
 (妹之見師屋前) 469  
 (於保爾曾見谿流) 476  
 (見氏毛) 263  
 (見手益物乎) 277  
 (外爾見而思香) 393  
 (見都) 482



- (今日耳見哉) 416
- (見鶴鴨) 248 297
- (寬見乍) 296
- (背爾見乍) 353
- (四十耳見乍) 333
- (見乍) 460 464
- (君社見良目) 231
- みる(見知師無美) 366
- (天見如久) 239
- (相見如之) 309
- (每見) 324 453 473
- みれ(見者) 322 367 434 或云 449 479
- (今見者) 316
- (打出而見者) 318
- (振放見者) 317
- (振離見者) 289
- (汝乎見者) 309
- (打越見者) 272
- (熟見者) 344
- (島門乎見者) 304
- (見禮杵) 459
- (見杵) 466

- (見杵毛) 377
- (雖見) 299 307 319
- (晝見臆) 297
- (見十方) 434
- ミワタス(見渡)
- みわたせ(見渡者) 283
- みわのさき(神之埼) 265
- △
- △(複語尾)
- まく(干卷惜裳) 435
- (懸卷欲寸) 285
- (言卷毛) 475
- (掛卷母) 475
- (欲見其玉) 403
- (家待莫國) 426
- (啼耳鳴六) 482
- (將蒔) 334
- (將纏) 415
- (將枕) 439
- (將去) 246 276 一本
- (言繼將往) 317

- (神左備將往) 322
- (往牟妹) 445
- (將歸) 280
- (千歲爾麻佐武) 243
- (將隱乎) 269
- (天所知牟登) 476
- (將示) 279
- (將通) 324
- (思波牟) 482
- (將言爲便) 342 460
- (將云爲便) 481
- (相牟鴨) 427
- (今者將罷) 337
- (將宿) 298 462
- (語將告可) 448
- (此夜乃將明跡) 338
- (將告) 432
- (吾將宿) 275
- (將寄) 480
- (榜出牟) 338
- (榜將泊) 274
- (獨哉將宿跡) 463

- (競敢六鴨) 302
- (將譬) 351
- (將仕物常) 457
- (將定) 398
- (妹乎將留塞) 468
- (將超) 282
- (將蓋) 374
- (將見) 288
- (將見每) 447
- (外爾可聞見牟) 423
- (後將見人) 364
- (將爲便) 342 481
- (將爲登) 423
- (將爲須辨毛奈思) 466
- (將爲須徹) 460
- (將爲須便毛奈思) 475
- (左右將爲) 399
- (將有) 285 336
- (將有登會) 442
- (常將有等) 242
- (伊香爾安良牟) 285 一云
- (所燒乍可將有) 269

- (共將有跡) 481
- (不改將有) 315
- (將有乎) 467
- (從手不離有牟) 403
- (有牟) 428
- (不見歟將成) 331
- (將吹鳥) 462
- (雲隱去牟) 416
- (將成時爾) 398
- (將死還生) 327
- (成奈武) 348
- (酒二染骨) 343
- (ムを加へてよむもの)
- (見行) 293
- (榜牟與) 260
- (家裏爲牟) 306
- (行見爲) 332
- (何矣示牟) 360
- (名津匠來牟與) 443
- (何在) 443
- (孰不戀有米) 393
- (將出八方) 301

- (豈若目八方) 346
- (將變八方) 331
- (益目八) 345
- (枝將有八方) 400
- (將有八方) 410
- (將所忘八方) 447
- (立目八方) 247
- (將見哉) 438
- (人將解八方) 402
- むかし(昔) 474
- (昔見之) 316 332
- (昔者社) 312
- (昔人) 309
- むこのうみ(武庫乃海) 256 一本
- むこのうら(武庫浦) 358
- むこのとまり(六兒乃泊) 283
- むかぶす(天雲之向伏國) 443
- むささび(牟佐佐婢) 267
- むし(蟲爾鳥爾毛) 348
- ムス(生)
- むす(生左右二) 259
- ムス(咽)



むせ(情咽都追) 453  
 ムスブ(結)  
 むすび(結而石事) 481  
 (結之情) 397  
 (妹之結紐) 251  
 むつたま(親魂) 417  
 ムナシ(空)  
 むなしき(空物) 451  
 (空物) 442  
 むね(智己所痛) 466  
 むらさき(生流紫) 395  
 むろのき(室木) 447 448  
 (天木香樹) 446  
 \*  
 め(目)(目不離) 300  
 め(女)(手弱寸女) 419  
 め(和布)(軍布疋) 278  
 メ格拉斯(廻)  
 めぐらし(伊與爾回之) 388  
 メグル(轉)  
 めぐる(往轉留鴨) 390

メス(召)  
 めさ(召麻之乎) 454  
 めし(召集聚) 478  
 メス(見爲)  
 めし(見爲明米之) 478  
 (見之活道乃路) 478  
 (食賜麻思) 475  
 メヅラシ(珍)  
 めづらし(目頼四) 377  
 めづらしき(益目頼四寸吾於富吉美) 299  
 \*  
 も(助詞)(天雲毛) 319 321  
 (爾波母之頭氣師) 388  
 (吾命毛) 332  
 (妹毛) 437 470  
 (臣木毛) 322  
 (妹母我母) 276  
 (日之陰毛隠比) 317  
 (梶棹毛) 257  
 (竿梶母無而) 260 或云

(情毛不行) 466  
 (似人母逢耶) 426  
 (情毛思努爾) 266  
 (心神毛奈思) 457  
 (情神毛奈思) 471  
 (飛鳥母翔毛不上) 319  
 (鳴鳥之音毛不更) 322  
 (白雲毛) 243  
 (白雲母) 317  
 (將爲須便毛奈信) 475  
 (將爲須辨毛奈思) 466  
 (吾勢毛) 276 一云  
 (都禮毛奈吉) 460  
 (咲花毛) 478  
 (彼母毛) 337  
 (光毛不見) 317  
 (有雲知之) 258  
 (人毛奈吉) 451  
 (七賢人等毛) 340  
 (物念毛奈信) 296  
 (家裳不有國) 265  
 (吾毛) 276 一云 432 437 470

(名付而有毛) 319  
 (人乃渡毛) 319  
 (言卷毛) 475  
 (掛卷母) 475  
 (掛卷毛) 478  
 (稻日野毛去過勝爾) 253  
 (石村毛不過) 282  
 (塞毛置末思乎) 468  
 (手力毛欲得) 419  
 (如此毛欲得) 478  
 (宅乎毛造) 460  
 (哭乎毛置而) 481  
 (祖名文) 443  
 (鳥爾毛) 348  
 (其花爾毛我) 408  
 (人爾毛) 432  
 (外爾毛見之加) 474  
 (杖策毛不衝毛去而) 420  
 (寶十方成有山) 319  
 (鎮十方座祇) 319  
 (家從裳出而) 481  
 (靈母座神) 319

(奇母神左備居賀) 245  
 (悲喪有香) 459  
 (速來而母) 277  
 (在管裳) 324  
 (戀哭爲鴨) 373  
 (言毛不得名付毛不知) 466  
 (翔毛不上) 319  
 (取毛不見久爾) 278  
 (見毛左可受) 450 一云  
 (苦毛零來雨可) 265  
 (遠毛吾者) 248  
 (手折而毛) 466  
 (見氏毛和我歸) 263  
 (痛毛爲便奈美) 456  
 (亦毛將見) 288  
 (亦毛將蒔) 384  
 (此方彼方毛君之隨意) 412  
 (遂毛死物) 349  
 (此間毛有益) 387  
 (今毛安里家禮騰) 308  
 (昨日毛今日毛吾乎麻召之乎) 454

(後毛吾松) 394  
 (何時間毛) 259  
 (何時間何時毛) 398  
 (何時毛將超) 282  
 (何時毛將有乎) 467  
 (今毛可毛等奈) 356 或云  
 (言耳毛) 431  
 (畫者毛日之盡) 372  
 (夜者毛夜之盡) 372  
 (津乎能埒羽毛) 352  
 (如此谷裳) 379  
 (如此谷母) 380  
 (名耳母) 431  
 (家八方何處) 287  
 (獨可毛將宿) 298  
 (獨可毛) 276 一云  
 (安禮爾家留可毛) 307 一云  
 (情悲裳) 450  
 (惜裳) 435  
 (悲霜) 434 一云  
 (朝樂毛) 262  
 (涕具末之毛) 443



(不樂毛) 257  
 (佐夫之毛) 260 或云  
 (不忍都毛) 472  
 (我聞都流母) 420  
 (忘不得裳) 397  
 (白不母) 264  
 (問之君波母) 455  
 (一有加母) 276  
 (釣爲良下) 357  
 (家戀良箱) 365  
 (モを加へてよむもの)  
 (跡無) 466  
 (名不知) 319  
 (衣不干) 443  
 (言不得) 319  
 (木立不見) 262  
 (今日可聞) 356  
 もだ(默然)(默然居而) 350  
 もち(十五日)(六月十五日) 320  
 モツ(持)  
 もた(心者不持) 437  
 もち(奥爾持行而) 327

(久具都持玉藻將刈) 293  
 (火用消通都) 319  
 (取持) 443  
 (取持而) 408  
 (手取持而) 380 420  
 (我袖用手) 269  
 (卷以而) 456  
 (石卜以而) 420  
 (雪以滅) 319  
 もと(鉾摺之本) 259  
 もとな(令見乍本名) 305  
 (今毛可毛等奈) 356 或本  
 モトホル(低徊)  
 もとほり(伊波比毛等保理) 239  
 もとほれ(鶉己曾伊波比回禮) 239  
 モトム(求)  
 もとむ(求跡) 267  
 もの(驗無物乎不念者) 338  
 (物念者) 333  
 (賢跡物言從者) 341  
 (極貴物者) 342  
 (靈寸物香) 338

(空物) 442  
 (死物爾有者) 349  
 (物爾之有者) 460  
 (辭不問物爾波在跡) 481  
 (欲爲物者) 340  
 (聞跡云物曾) 369  
 (繼往物與) 443  
 (將仕物常) 457  
 (見手益物乎) 277  
 (不見跡云物乎) 305  
 (所見云物乎) 396  
 (田菜引物緒) 321  
 (知物乎) 465  
 (思之物乎) 392  
 (座之物乎) 460  
 (令見麻思物乎) 466  
 (有家留物乎) 470  
 (有家留物乎) 455  
 (有家類物乎) 455  
 ものおもひ(物念毛奈信) 296  
 ものこほしき(物戀敷爾) 270  
 ものふ(物乃部能) 264  
 (物部乃) 369

(武士) 448  
 (物乃負能) 478  
 もふ(思)  
 もふ(思家登) 381  
 (曾許念爾) 466  
 もみぢば(黄葉) 423 459  
 ももしきの(百礮城之) 257  
 (百式乃) 260  
 (百式紀乃) 323  
 ももたらす(百不足) 427  
 ももづたふ(百傳) 416  
 モユ(燃)  
 むえ(所燒乍) 269  
 もゆる(燎火乎) 319  
 ヤ  
 や(矢)(射都流矢乎) 364  
 や(助詞)(眞木葉哉) 431  
 (松之根也) 431  
 (山矣耶) 482  
 (入日哉) 354  
 (獨哉將宿跡) 463

(親魂相哉) 417  
 (今日耳見哉) 416  
 (家八方向處) 287  
 (霧有哉) 429  
 (零寸八) 460  
 (御念八君) 330  
 (逢耶) 425  
 (安良米也) 243  
 (咲而有哉) 455  
 (將有哉) 438  
 (益目八) 345  
 やし(助詞)(愛八師榮之君) 454  
 (愛八師) 466  
 やきつべ(燒津邊) 284  
 ヤク(燒)  
 やき(鹽燒) 278  
 やく(鹽燒火氣) 354  
 (鹽燒灸) 366  
 やくもさす(八雲刺) 430  
 やしろ(神之社) 404  
 (社師留焉) 405  
 やすみしし(八隅知之) 239 260

(安見知之) 329  
 やそ(八十之湊) 273  
 やそうちがは(八十氏河) 264  
 やそくまさか(八十隅坂) 427  
 やそとものを(八十伴男) 478  
 やつりやま(八釣山) 262  
 やど(家門) 255 一本  
 (吾屋戸) 384 420  
 (屋前爾) 410 469  
 (屋前能) 411  
 (屋前) 464  
 やどり(宿爾) 426  
 ヤドル  
 やどら(吾將宿) 275  
 やな(梁者不打而) 386  
 (梁打人) 387  
 やま(山) 301 324 477 481 482  
 (山四見容之) 324  
 (山爾棚引) 354  
 (寶十方成有山可聞) 319  
 (白雲乃棚引山) 287  
 (其山之) 319



- (彼山之) 319
- (其山爾) 401
- (貴山乃) 382
- (山能佐都雄) 267
- (山際) 428 429 481
- (山之末爾) 393
- (山可良之) 315
- (春日山之) 372
- (高城乃山爾) 353
- (筑羽乃山矣) 382
- (始瀨乃山) 420
- (泊瀨山) 428
- (振乃山) 422
- (御笠乃山爾) 372
- (吉野山) 429
- やまかけ(山影爾之氏) 375
- やまがくり(山隠都禮) 471
- やました(山下) 270
- やましろ(山背) 277
- (山代) 481
- やまち(山道) 466
- やまと(山跡國) 319

- (倭部早) 280
- (日本) 389
- (日本師所念) 359
- (日本思櫃) 367
- やまとしま(倭島) 255
- やまとしまね(山跡島根者) 303
- (日本島根) 366
- やまべ(山邊) 460 475
- やまみち(山道尙矣) 382
- やまもり(山守) 401
- (山主) 402
- ヤム(止)
- やま(不止將通) 324
- (不止) 411
- やめ(止者) 373
- やも(助詞)(豈若目八目一云八方) 346
- (將出八方) 301
- (立目八方) 247
- (將變八方) 331
- (人將解八方) 402
- (將所忘八方) 447
- (枝將有八方) 400

- (將有八方) 410
- (不言八方) 424
- やや(差間遠鳥) 302
- ヤル(遣)
- やる(情乎遣爾) 346
- ユ
- ゆ(湯者霜) 322
- ユ(複語尾)
- え(將所忘八方) 447
- (所云人者) 443
- ゆ(所泣) 456
- ゆらく(所念久爾) 466
- ゆ(助詞)
- (田兒之浦從) 318
- (國之三中從) 319
- (從明日香) 423 一云
- (二見自道) 276
- (二見之自道) 276 一本
- (角鹿乃濱從) 366
- (繩浦從) 357
- (開乃門從者) 388

- (野坂乃浦從) 246
- (新羅國從) 460
- (六兒乃泊從) 283
- (山際從) 429
- (夷之長道從) 255
- (浪上從所見) 256 一本
- (家從者) 461
- (家從袋出而) 481
- (從手不離有半) 403
- (分時從) 317
- (明日從) 423
- (雪驛) 262
- (雪者落家留) 317
- (雪波零家留) 318
- (零雪乃) 299
- (落雪乎) 319
- (零置雪者) 320
- (雪以滅) 319
- ゆき(行)(吾行者) 335
- ゆき(靱) 473 480
- ゆきげ(雪消爲山道) 382
- (雪消乃道矣) 383

- ゆきじもの(白雪仕物) 260
- ユク(行、往)
- ゆか(將去) 246 276 一本
- (將歸) 280
- (言繼將往) 317
- (神左備將往) 322
- (行益乎) 405
- (不行) 466
- ゆき(行過不得而) 354
- (往轉留) 390
- (奧爾持行而) 327
- (暮越行而) 298
- (行憚而) 353
- (去過勝爾) 253
- (去而) 420
- (行見爲) 332
- (率行見) 293
- (往來乍) 260
- (伐歸都) 391
- (往過奴禮婆) 481
- (吾去鹿齒) 284
- (將歸人) 423

- (疾打莫行) 263
- ゆく(天歸月) 240
- (旅去吾乎) 252
- (和我歸志賀) 263
- (繼往物與) 443
- (出行道) 468
- ゆけ(榜手回行者) 273
- (吾超去者) 291
- (榜行者) 366
- (打越去者) 365
- ゆくき(往左) 281
- (去左爾波) 450
- ゆくへ(去邊) 264
- ゆすゑ(弓上振起) 364
- ユタケシ(寬)
- ゆたけき(寬見乍) 296
- ゆひ(結之辱) 401
- ゆふ(木綿) 376 443
- ゆふ(暮越行而) 298
- (夕去者) 354
- (暮去者) 388
- (夕不離) 356



ユフ(結)

- ゆひ(將結標) 402
- (標結立而) 401
- (吾標結之枝) 400
- (印結而) 394
- おふ(標耳曾結焉) 478
- ゆふがり(暮獵) 478
- ゆふぎり(夕霧丹) 324
- ゆふけ(夕衝占) 420
- ゆふたすき(木綿手次) 420
- ゆふたたみ(木綿疊) 380
- ゆふなみちどり(夕浪千鳥) 266
- ゆふべ(夕) 481
- (此暮) 386
- ゆふやみ(晚闇跡) 460
- ゆめ(浪立莫勤) 246
- ユウシ(忌)
- ゆゆしき(齋忌志伎可物) 475
- ゆゑ(如是故爾) 305
- (殖而師故) 411
- (不相兒故荷) 372

ヨ

- ヨシ(吉、好)
- よく(熟見者) 344
- (庭好有之) 266
- (好爲而) 381
- (好應祀) 406
- よし(吉跡) 460
- よしぬ(芳野乃宮) 315
- (吉野爾有) 375
- (吉野山) 429
- (吉野川) 430
- ヨス(寄)
- よせ(將寄) 480
- よする(緣流白浪) 288
- よすか(因鹿) 481
- (因香) 482
- よそ(外爾毛見之加) 474
- (外爾) 423
- (外爾見而思香) 393
- (四十耳見乍) 383
- (外爾見之) 482
- ヨソフ(裝)
- よそひ(裝束而) 475

ヨ

- (代者) 465
- (退代爾) 322
- (今代爾之) 343
- (世) 482
- (此世) 443
- (今生在問者) 349
- (來生者) 348
- (夜者) 282
- (夜渡月) 302
- (秋夜者) 324
- (其夜) 320
- (殿雲流夜之) 370
- (夜之盡) 372
- (此夜乃將明跡) 388
- (其夜之) 392
- (長夜乎) 462 463
- よ(助詞)(告志五余) 362
- よけむ(將吉) 289
- よさし(任乃隨意) 369
- よし(逢因矣無) 483

ヨロシ(宜)

- よろし(宜奈倍) 286
- よろしき(鳥山之宜國跡) 322
- よろしき(言乃宜左) 339
- よろづよ(萬代爾) 315 478 480
- (萬世) 423

ラ

- ら(憶良等者) 337
- (出雲兒等) 429
- (出雲子等我) 430
- (立動良之) 388
- (家戀良霜) 365
- (釣爲良下) 357
- (酒西有良師) 340
- (酒西有良之) 342
- (益有良之) 341
- (可飲有良師) 338
- (可有良師) 347
- ラム(複語尾)
- らむ(子將哭) 337
- (寒吹良武) 352

ル

- (將待會) 337
- (將刈) 293
- (將超公) 367
- (將見) 253
- (清有良武) 356
- (茂有良武) 431
- (幾代將經) 355
- らめ(君社見良目) 281
- ル(複語尾)
- れ(所言奚米) 312

ロ

- ろ(助詞)(悲呂可聞) 478

ワ

- (吾乎將待會) 337
- わが(吾王) 329 476 477 478
- (吾大王) 239 260 420
- (吾於富吉美可聞) 239
- (我大王) 240 295

- よのなか(世間) 347 351 420 442 466 472 478
- よなばり(夜隠爾) 290
- ヨバフ(喚)
- よばひ(鴨妻喚) 257 260
- よひ(朝夕) 443 456 458
- よびこゑ(呼聲) 238
- ヨブ(呼)
- よば(妹者不喚) 286
- ヨミガヘル(蘇)
- よみがへり(將死還生) 327
- よみち(夜路) 239
- より(助詞)(自明門) 255
- (天原從生來) 379
- (神代從) 382
- (立西日從) 443
- (從今者) 462
- (物言從者) 341
- よる(夜光玉) 346
- (夜者毛) 372
- (夜見鶴鴨) 297
- ヨル(依)
- よる(依浪) 359



(吾日乃皇子) 239  
 (吾背乃君) 286  
 (吾命) 288 331  
 (吾盛) 331  
 (吾黑髮乃) 481  
 (吾手枕) 438  
 (吾紐) 334  
 (吾屋戸) 384 420  
 (吾屋前) 466  
 (吾佐保河) 371  
 (吾山齋) 452  
 (吾船) 274  
 (吾松) 394  
 (吾去鹿齒) 284  
 (我榜行者) 366  
 (吾泣) 458  
 (我聞都流母) 420  
 (和我歸志賀) 263  
 (吾行者) 335  
 (吾泣淚) 465 469  
 (吾聞都流) 420  
 (我袖用手) 269

(和我不念久爾) 242  
 (我思莫苦二) 244  
 (吾超去者) 291  
 (名積叙吾來並二) 382  
 (吾標結之枝) 400  
 (吾祭神) 400  
 (我定義之) 394  
 (二吾見之) 450  
 (念會吾爲流) 372  
 (我乘有) 395  
 わかこもを(弱鷹乎) 239  
 わがせこ(和我世故我) 247  
 (吾背子我) 268  
 ワカル(別)  
 わかれ(將別) 254  
 (天地之分時從) 317  
 (手本矣別) 481  
 (別不勝鶴) 276  
 ワキハサム(腋挾)  
 わきはさむ(腋挾兒乃) 481  
 わきみ(吾君) 376 377  
 わきも(吾妹) 467 471

わきもこ(吾妹子) 402 446 453 481 483  
 (吾妹兒) 279 411  
 わくこ(久米能若子) 307 435  
 ワスル(忘)(四)  
 わすら(將所忘八方) 447  
 (不所忘) 431  
 ワスル(忘)(下二)  
 わすれ(不忘之爲) 334  
 (忘不得裳) 397  
 (國忘有) 426  
 わすれぐさ(萱草) 334  
 わた(筑紫乃綿) 336  
 わだ(夢乃和太) 335  
 ワタス(渡)  
 わたせ(見渡者) 326  
 わたつみ(海若) 327 388  
 (綿津海) 366  
 わたり(狹野乃渡) 265  
 ワタル(渡)  
 わたり(渡來座而) 460  
 わたる(鶴鳴渡) 271  
 (人之渡毛) 319

(夜渡月) 302  
 (度日之) 317  
 わつかそまやま(和豆香蘇麻山) 476  
 わつかやま(和豆香山) 475  
 ワル(破)  
 わる(石戸破) 419  
 われ(吾者) 248 481  
 (旅去吾乎) 252  
 (吾羽成奈武) 348  
 (吾者祈奈牟) 379  
 (吾者乞嘗) 380  
 (吾毛見都) 432

ゑる(居雲) 242  
 (美沙居) 362  
 (美沙居荒儀) 363  
 ゑひなき(醉哭爲師) 341  
 (醉哭爲爾) 347  
 (醉泣爲爾) 350  
 ゑまひ(啖比) 478  
 を(緒)(年緒長久) 460  
 (玉緒) 481  
 を(助詞)(格助詞)(旅去吾乎) 252  
 (吾乎召麻之乎) 454  
 (吾乎將待會) 337  
 (寒朝開乎) 361  
 (粟島矣) 358  
 (齊忌戸乎) 446  
 (齊戸乎) 379 420  
 (宅乎毛造) 460  
 (妹乎) 300 376 423

(袖振將留) 468  
 (袖振妹乎) 376  
 (手本矣別) 481  
 (梅乎) 392  
 (春日野乎) 460  
 (象乃小河乎) 316  
 (象小河乎) 332  
 (君乎) 425 一云  
 (君乎婆) 428  
 (樹村乎見者) 344  
 (賢良乎爲跡) 344  
 (御心乎) 478  
 (此乎) 443  
 (此崎乎獨過者) 450  
 (濁酒乎) 338  
 (薩摩乃迫門乎) 248  
 (故去之里乎) 334  
 (佐保河乎) 460  
 (鹽乎令干) 368  
 (鹽乎令滿) 338  
 (島門乎見者) 304  
 (將結標乎) 402



- (白浪乎) 388
- (菅根乎) 414
- (磐本背乎) 397
- (其乎見杼) 466
- (竹玉乎) 379 420
- (筑羽根矣) 383
- (筑波乃山矣) 382
- (布士能高嶺乎) 817
- (布士能嶺乎) 321
- (橋乎) 410
- (花橋乎) 423
- (其玉乎) 403
- (吾手枕乎) 438
- (誰手本乎可) 439
- (天歸月乎) 240
- (射狹夜歷月乎) 393
- (妹手乎取) 385
- (八十伴男乎) 478
- (汝乎見者) 309
- (妹名乎) 285
- (酒名乎) 339
- (何矣示) 360

- (長谷乎) 425
- (燎火乎) 319
- (昔人乎) 309
- (見之人乎) 448
- (酒不飲人乎熟見者) 344
- (人事乎) 460
- (船材乎) 391
- (石村之道乎) 423
- (敏馬乎過) 260
- (敏馬乃崎乎) 389
- (敏馬能崎乎) 449
- (寧樂京師乎) 331
- (平城京乎) 330
- (舊都乎) 305
- (御諸乎立而) 420
- (手結之浦矣) 367
- (武庫浦乎) 358
- (驗無物乎) 338
- (黃葉乎) 423
- (若子乎置而) 467
- (矢乎後將見人) 364
- (山矣耶) 482

- (入爾之山乎因鹿跡叙念) 481
- (雪消乃道矣) 383
- (鏡山乎) 417
- (凝敷山乎) 301
- (此勢能山乎) 331
- (白雲乃棚引山乎) 287
- (山道乎指而) 466
- (奧爾念乎) 276
- (哭乎毛置而) 481
- (日本島根乎) 366
- (山邊乎指而) 460
- (落雪乎) 319
- (長夜乎) 462 463
- (惜此世乎) 443
- (世間乎) 351
- (弱薦乎) 239
- (吾妹乎停不得) 471
- (處女乎) 250 一云
- (鳴鴨乎) 416
- (情乎遣爾) 346
- (奧柳乎) 491
- (ヲを加へてよむもの)

を(間投)(風乎疾) 294

- (釣、爲良下) 357
- (海、成可聞) 241
- (神祇、乞禱) 443
- (吉志美我高嶺乎) 385
- (浪矣恐) 249
- (浪乎恐美) 388
- (山道尙矣) 382
- (逢因矣無) 483
- (効矣無跡) 481
- (春日乎) 372
- (船材乎) 391
- (御心乎) 478
- (椋橋乃山乎高可) 290
- (樂乎有名) 349
- (差間遠鳥) 302
- (將吹鳥) 462
- (將隱乎) 269
- (將有乎) 469
- (塞毛置末思乎) 468
- (種益乎) 404
- (行益乎) 405

- (借益矣) 436
- (召麻之乎) 454
- (不戀有益雄) 436
- (潔身而麻之乎) 420
- (田菜引物緒) 321
- (不見跡云物乎) 305
- (所見云物乎) 396
- (知物乎) 465
- (令見麻思物乎) 466
- (見手益物乎) 277
- (座之物乎) 460
- (思之物乎) 392
- (有家類物乎) 455
- (有家留物乎) 470
- (佐農能崗) 361
- (をか) (象乃小河乎) 316
- (象小河) 332
- (をぐし) (髮梳乃少櫛) 278
- (ヲサム) (藏)
- (をさめ) (刈藏) 360
- (をし) (菴) 258
- (ヲシ) (惜)

- (をし) (干卷惜袋) 435
- (をしき) (惜此世) 443
- (をしけむ) (將惜) 299
- (ヲツ) (變)
- (をち) (復將變八方) 331
- (をとこ) (臣之壯士) 369
- (をの) (獵路乃小野) 239
- (をのこじもの) (雄自毛能) 481
- (をぶね) (撈轉小舟) 358
- (乏小舟) 358
- (ヲリ) (居)
- (をり) (默然居而) 350
- (戀乍居寸) 370
- (をる) (神佐備居賀) 245
- (ヲル) (折)
- (をら) (不折) 392
- (をり) (折挿頭跡) 423
- (ヲロガム) (拜)
- (をろがみ) (伊波比拜) 239
- (をろがめ) (十六社者伊波比拜目) 239
- (ヲナル) (撓)
- (ををり) (花咲乎爲里) 475



漢字索引

一部

一(ヒトツ)一有加母 276  
 (ヒト)一杯 558  
 一日 409  
 (ヒトリ)一宿者 440  
 一手(カタテ)一手者 445  
 七(ナナ)七賢人 540  
 七相昔 420  
 (ナ)安良七國 265  
 三(ミ)三笠乃山 575  
 三河有 276  
 三津 295  
 三津崎 249  
 三船乃山 242  
 三穗乃石室 245  
 三諸乃神名備山 524  
 三吉野 244  
 三船 247  
 三湯 522

漢字索引

國之三中

三獵 289  
 難三等 414  
 高三 414  
 上(ウヘ)雷之上 235  
 礮上 448  
 石穗乃上 420  
 瀧上 242  
 濱松之上 444  
 船上 242  
 三湯之上 420  
 (ヘ)瀧上 421  
 浪上 588  
 (カミ)石上 256  
 (フボラ)翔毛不上 422  
 (弓上)(ユスエ)弓上 519  
 下(シタ)山下 270  
 (シモ)爲良下 566  
 (オロシ)貫下 567  
 不(フ)不盡河 519

(ズ)

不盡能高嶺 517  
 不盡能高峯 518  
 不盡嶺 519  
 物乎不念者 515  
 不成者 424  
 不見者 510  
 不有者 524  
 不飽伊座之 566  
 不撈 481  
 不如來 486  
 不衡毛 445  
 不聞 236  
 不干 420  
 情毛不行 550  
 不果 258  
 不打而 459  
 不止將通 245  
 不相久美 269  
 不言八方 411  
 不改 538  
 519



不更 322  
 不去 325  
 朝不離 372  
 夕不離 356  
 不成而 355  
 百不足 427  
 不取香聞將有 586  
 翔毛不止 519  
 雨不零 370  
 不折來家里 392  
 不服而 269  
 不見 254  
 不見而 262  
 不見歟將成 317  
 不見久有者 511  
 不過 551  
 不懲而 582  
 言毛不得 282  
 言不得 511  
 不告 551  
 不遂 466  
 目不離 384

(ニ) 不來座 418  
 神者不有 406  
 時爾不在之天 445  
 不所見十方 445  
 白不母 395  
 名不知 264  
 不知 519  
 有家留不知爾 466  
 不知爾 481  
 不飽田兒浦 401  
 不飽鴨 460  
 不飽香聞 297  
 不泣日 460  
 不相兒 307  
 不思爾 297  
 辭不問物 475  
 酒不飲人 519  
 不戀日 475  
 留不得 319  
 不免物 307  
 不忘之爲 460  
 不座者 461

(ナク) 不念久爾 476  
 不知苦 515  
 不知久 388  
 不見久爾 441  
 不有國 242  
 (ナクニ) 不所忘 419  
 不持 242  
 不相可聞 441  
 不相鴨 388  
 不喚 515  
 不止 419  
 不絕等 441  
 不絕射妹 388  
 久者不有 515  
 (カネ) 不忍都毛 476  
 (不有) 不戀有益雄 441  
 不戀有米 388  
 不離有牟 419

(不聽) (イナ) 不聽 256  
 (不樂) (サフシ) 不樂毛 257  
 (不恰) (サフシ) 不恰 454  
 (不知) (イサ) 不知代經 264  
 (不得) (カネ) 待不得而 268  
 行過不得而 264  
 停不得 471  
 (カネツ) 忘不得裳 354  
 (不勝) (カネ) 超不勝而 397  
 別不勝鶴 471  
 和我世故 247  
 伊麻世 276  
 告世 301  
 有世婆 397  
 無有世伐 471  
 種有世伐 354  
 知末世波 268

(ヨ) 世 425  
 惜此世 446  
 新世 481  
 常世 445  
 萬世 482

(世間) (ヨノナカ) 世間 347  
 350  
 420  
 442  
 466  
 472  
 478

ノ部

中(ナカ) 中爾立置而 588  
 荒山中 241  
 國之三中 519  
 居中 312  
 中中二 545  
 (ウチ) 國中 329

ノ部

丹(ニ) 青丹吉 328  
 丹杵火爾之 481  
 狹丹頰布 420  
 於丹 390  
 磯上丹 448  
 夕霧丹 524  
 無人思丹 454  
 主(山主) (ヤマモリ) 山主 402  
 或云

ノ部

乃(ノ) 開乃門 388

赤乃曾保船 270  
 葦北乃 246  
 足氷木乃 460  
 足日木乃 267  
 足檜木乃 477  
 明日香河乃 356  
 淡海乃海 266  
 阿倍乃市道 284  
 阿倍乃島 359  
 天雲乃 420  
 天地乃神祇 445  
 荒玉乃 460  
 活道乃路 479  
 射狹庭乃崗 322  
 出來月乃光 290  
 稻見乃海 305  
 廬前乃 298  
 廬原乃 296  
 石穗乃上 420  
 夢乃和太 355  
 鬱蟬乃 445  
 打蟬乃 466



打背見乃 319  
 飲海乃 367  
 奧山乃 256  
 大荒城乃時 290  
 香具山乃 420  
 笠乃山 476  
 春日山乃 296  
 勝牡鹿乃 457  
 甲斐乃國 316  
 神乃香山 259  
 神乃御言 278  
 髮梳乃少櫛 322  
 獵路乃小野 260  
 象乃小河 319  
 清之河乃 451  
 清見之埒乃 372  
 久邇乃京 374  
 悔事乃 334  
 棕橋乃山 441  
 飼飯海乃 379  
 越海乃 371  
 已知其智乃 462

言乃宜左 394  
 隱江乃 295  
 隱久乃 283  
 隱口乃 415  
 相樂山乃山際 280  
 樂浪乃 281  
 薩摩乃迫門 415  
 狹野乃渡 295  
 佐保乃山邊 451  
 志賀乃大津 355  
 布細乃 461  
 敷細乃 460  
 志都乃石室 288  
 倭文幡乃帶 460  
 鹽干乃 265  
 鹽燒衣乃 248  
 白菅乃 305  
 白栲乃 481  
 須麻乃海人 424  
 墨吉乃 420  
 清江乃 249  
 住吉乃 339

名乘藻乃 280  
 繩乃浦 296  
 奈麻餘美乃 366  
 浪乃去邊 268  
 寧樂乃手祭 422  
 寧樂乃京師 274  
 野坂乃浦 338  
 野島之前乃 300  
 野千玉乃 264  
 始瀨乃山 319  
 隼人乃 476  
 濱乃小松 296  
 久堅乃 457  
 久方乃 316  
 人乃盡 259  
 一杯乃濁酒 278  
 枚乃湖 260  
 振乃山 451  
 古家乃里 372  
 大夫乃手結我浦 441  
 眞野乃草原 379  
 眞野乃榛原 371

眞眞乃入江 372  
 御笠乃山 372  
 三笠乃山 435  
 水河乃 276  
 皇子乃御門 276  
 皇子乃御門乃 475  
 御子乃命 478  
 皇子之命乃 475  
 水乃當 475  
 敏馬乃埒 276  
 嶺乃白雲 276  
 三船乃登麻里 276  
 三船乃山 276  
 御船乃山 276  
 三穗乃石室 276  
 見穗乃浦 276  
 三保乃浦廻 276  
 三諸乃神名備山 276  
 三湯之上乃 276  
 武庫乃海 276  
 六兒乃泊 276  
 物乃部 276

物乃負能 476  
 物部乃臣之壯士 369  
 百式乃 260  
 百式紀乃 260  
 燒火乃 260  
 八十氏河乃 260  
 山代乃 260  
 山跡國乃鎮 260  
 雪消乃道 260  
 任乃隨 260  
 芳野乃宮 260  
 吾背乃君 260  
 吾日乃皇子 260  
 綿津海乃手 260  
 秋風乃寒 260  
 海女乃 260  
 天地乃 260  
 寢乃不勝宿者 260  
 石船乃 260  
 宇乃住石 260  
 殖木乃木足左右 260  
 大宮人乃 260







(方)

實之成名者 天之探女之石船 妹之家裏 妹之手 兒等之家道 鶴之哭 野島之崎 野島之前 松之根 眞問之手兒名之奧 椰 眞問間能手兒名之奧津 城處 吾妹兒之屋前 吾妹子之奧椰 妹之結 妹之見師 妹之殖之 妹之有世者 家妹之 公之阿流久爾 君之云者

465 425 360 466 464 469 251 474 411 452 451 451 251 250 352 302 415 306 292 399

(?)

君之臥有 香君之 鶴之鳴 吾妹子之將結標 吾妹子之見師 吾妹子之殖之 吾妹子之入爾之山 此之將死還生 消去之如久 君之隨意 不忘之爲 朝鳥之 蘆鶴之 荒玉之 虛蟬之 大船之 敷細之 白細之 高座之 高鞍之 留火之 夏草之

250 254 375 372 460 458 425 465 445 456 481 554 412 466 327 481 455 446 402 382 445 421

481 一云

烏珠之 春草之 久堅之 百磯城之 明石之浦 笠縫之島 清之河 清見之崎 田兒之浦 手結之浦 夏實之河 藤江之浦 神之崎 粟路之野島之前 石村之道 淺野之雉 伊勢海之奧津白浪 稻見乃海之奧津浪 鏡山之石戶 香山之鉢相 春日之野邊 春日里之殖子水葱

407 404 259 418 305 306 388 425 251 265 252 375 367 318 296 437 276 326 257 379 259 392

勝壯鹿之間間能手 兒名 輕池之納廻 越海之角鹿乃濱 左佐羅能小野之七 相菅 然之海人 軻浦之天木香樹 軻浦之磯 豐國之鏡山 泊瀬山之山際 二見之自道 日本之山跡國 眞野之榛原 眞問之手兒名 陸奥之眞野乃草原 三津之海女 三保乃浦廻之白管 仕 三湯之上 三吉野之御船乃山 見吉野之瀧

515 244 322 454 295 396 451 281 519 276 428 511 447 446 278 420 366 590 452

一云

見吉野之芳野乃宮 見吉野之高城乃山 八十之湊 天雲之雷之上 青山之嶺 池之激 磯之草根 磯之室木 奧山之菅葉 奧山之磐本菅 大宮之內 河原之乳鳥 古家乃里之明日香 瀧上之三船乃山 高山之石穗乃上 夷之長道 東市之殖木 屋前之橘 屋前之石竹 山之末 天之芳來山 天之探女

292 257 395 464 411 510 255 241 242 268 371 258 597 299 447 455 578 577 235 273 555 515

神之御門 神之命 神之社 朋神之貴山 海若之奧 大王之遠乃朝廷 大王之御命 大皇之命 王之命 皇子之命 臣之壯士 皇神祖之神乃御言 我王之幸行處 大夫之心 海部之釣船 海人之呼聲 大聖之言 日之皇子 古之七賢人 大伴之名 賢木之枝

579 480 540 261 359 258 256 478 295 522 569 478 479 445 441 297 368 504 527 582 404 579 443

一云



柘之枝 柘之左枝 石竹之其花 藤浪之花 鉢柑之本 木立之繁 濱松之上 大御馬之口 雷之上 鳴鳥之音 度日之陰 國之三申 世間之遊道 世之事 昔者之舊堤 行幸之宮 白妙之手本 逆言之狂言 結之辱 國之盡 日之盡 夜之盡

572 572 522 401 421 481 515 578 482 547 519 517 522 255 478 444 478 259 550 408 586 587

秋津羽之袖 海人之鹽燒衣 晉之清左 開有花之梅花 其山之水 天雲之 天地之 故鄉之 大皇之 王之親魂相哉 大夫之 手弱女之 吾背乃君之夜之 磐金之擬敷山 開有梅之 河岸之 立雲之 大官人之 鳴瀬之清有良武 其玉之 年之不知久

525 409 556 525 244 457 398 501 570 286 579 564 417 460 555 517 445 519 399 514 415 576

乍(義之)(テシ)我定義之

乍(ツツ)嘆乍 往來乍 念乍 戀乍居寸 住乍 寬見乍 背爾見乍 見乍 爲乍 所燒乍 令見乍

505 269 481 535 558 296 460 370 425 261 460 394 401 519 521 241 551 456 465 451 582 575 460 464

乎(ヲ) 花咲乎爲里 津乎能埼 (格助詞)吾乎 吾乎將待會 寒朝開乎 齊忌戶乎 齊戶乎 宅乎毛 妹乎 妹乎將留 梅乎 春日野乎 象乃小河乎 象小河乎 君乎 君乎婆 樹村乎見者 賢良乎爲跡 此埼乎獨過者 濁酒乎 薩摩乃迫門乎 故去之里乎

花咲乎爲里 津乎能埼 (格助詞)吾乎 吾乎將待會 寒朝開乎 齊忌戶乎 齊戶乎 宅乎毛 妹乎 妹乎將留 梅乎 春日野乎 象乃小河乎 象小河乎 君乎 君乎婆 樹村乎見者 賢良乎爲跡 此埼乎獨過者 濁酒乎 薩摩乃迫門乎 故去之里乎

475 562 252 557 361 445 379 460 300 468 392 460 516 552 425 425 522 544 450 558 248 554

佐保河乎 鹽乎令干 鹽乎令滿 島門乎 將結標乎 白浪乎 菅根乎 磐本菅乎 其乎見杼 竹玉乎 布士能高嶺乎 布士能嶺乎 橋乎 花橋乎 其玉乎 吾手枕乎 誰手本乎可 天歸月乎 月乎 妹手乎取 八十伴男乎 汝乎見者

佐保河乎 鹽乎令干 鹽乎令滿 島門乎 將結標乎 白浪乎 菅根乎 磐本菅乎 其乎見杼 竹玉乎 布士能高嶺乎 布士能嶺乎 橋乎 花橋乎 其玉乎 吾手枕乎 誰手本乎可 天歸月乎 月乎 妹手乎取 八十伴男乎 汝乎見者

460 588 588 504 402 588 414 597 466 579 517 521 410 425 405 458 458 240 595 585 478 509

妹名乎 酒名乎 長谷乎 燎火乎 昔人乎 見之人乎 人乎 人事乎 石村之道乎 敏馬乎過 敏馬乃埼乎 敏馬能埼乎 寧樂京師乎 平城京乎 舊都乎 御諸乎立而 武庫浦乎 驗無物乎 黃葉乎 若子乎置而 矢乎後將見人 山乎因鹿跡叙念

285 559 425 509 448 544 460 425 250 589 449 551 550 505 420 558 558 425 467 544 481



鏡山乎 301 417  
 凝敷山乎 301 417  
 此勢能山乎 286 287  
 棚引山乎 466 468  
 山道乎 276 466  
 奧爾念乎 481 482  
 哭乎毛置而 366 368  
 日本島根乎 460 462  
 山邊乎指而 519 462  
 落雪乎 462 463  
 長夜乎 445 446  
 惜此世乎 445 446  
 世間乎 259 261  
 弱鷹乎 471 472  
 吾妹乎停不得 250 251  
 處女乎 416 417  
 鳴鴨乎 431 432  
 情乎遣爾 546 547  
 奧柳乎 294 295  
 (間投)風乎疾 588 589  
 吉志美我高嶺乎 294 295  
 浪乎恐美 465 466

春日乎 391 392  
 船材乎 478 479  
 御心乎 391 392  
 山乎高可 290 291  
 樂乎有名 469 470  
 將隱乎 269 270  
 將有乎 549 550  
 置末思乎 468 469  
 種益乎 404 405  
 行益乎 404 405  
 召麻之乎 454 455  
 潔身而麻之乎 420 421  
 不見跡云物乎 505 506  
 所見云物乎 596 597  
 知物乎 465 466  
 令見麻思物乎 466 467  
 見手益物乎 277 278  
 座之物乎 460 461  
 思之物乎 460 461  
 有家類物乎 456 457  
 有家留物乎 470 471  
 乏(トモシ)乏寸 290 291

乏見 357 358  
 (トモシキ)乏小舟 357 358  
 乘(ノリ)船乘將爲 352 353  
 名乘藻 352 353  
 (乘有)(ノレル)我乘有 365 366

乙部

九(九月)(ナガツキ)九月 423 424  
 乞(コハ)乞者 445 446  
 (コヒ)神祇乞禱 445 446  
 吾波乞嘗 451 452  
 也(ヤ)松之根也 451 452  
 安良米也 451 452  
 乳(チ)乳鳥 445 446  
 帶乳根乃 445 446  
 亂(ミダリ)亂出所見 424 425  
 多頭羽亂 424 425  
 亂而 424 425  
 (マガフ)落亂雪 445 446  
 事(コト)事 445 446  
 事者將定 445 446

二部

二(ニ)(助詞)且雲二

人事乎 460 461  
 絕事無 460 461  
 死去事 481 482  
 結而石事 420 421  
 悔事乃 460 461  
 大船二 368 369  
 神二四座者 255 256  
 酒二染嘗 343 344  
 酒壺二成而師鴨 343 344  
 猿二鴨似 344 345  
 手二卷四而有 366 367  
 手二卷難寸 409 410  
 手二纏在 424 425  
 吾紐二 354 355  
 吾妹兒二 279 280  
 奈四二 257 258  
 君無二四天 458 459  
 殖而師故二 411 412  
 佐波二鳴 275 276

漢字索引

(複語尾)干二家良進

曲々二 535 536  
 中々二 259 260  
 生左右二 420 421  
 至流左右二 445 446  
 年經左右二 244 245  
 思莫苦二 244 245  
 宿名久二 244 245  
 來二家里 287 288  
 (フタツ)無二 412 413  
 (フタ)二見自道 276 277  
 二見之自道 276 277  
 (フタリ)二吾見之 450 451  
 二作之 452 453  
 (二人)(フタリ)二人 466 467  
 (二手)(マデ)大宮之内二 466 467  
 手 286 287  
 (並二)(シ)來並二 382 383  
 云(イハ)將云爲便 481 482  
 (イヒ)云師 407 408  
 (イフ)死云事乎 460 461  
 不見跡云物乎 505 506

五(イ)五百枝刺

所見云物乎 596 597  
 (イへ)云者 465 466  
 雖云 230 231  
 人者雖云 400 401  
 (所云)(イハエシ)所云人 445 446  
 者 445 446  
 (跡云)(トフ)閉跡云物會 569 570  
 (五月)(サツキ)五月 425 426  
 (五月蠅)(サバへ)五月蠅 473 474  
 (十五日)(モチ)六月十五 520 521  
 日 520 521

上 部

交(マジへ)貫交 425 426  
 亦(マタ)亦 288 289  
 亦毛 384 385  
 (亦打)(マツチ)亦打山 299 300  
 京(ミヤコ)京 460 461  
 京引 512 513  
 久邇乃京 475 476  
 平城京 530 531



(京師) (ミヤコ) 京師

寧樂京師  
舊京師

人部

人 (ヒト) 人

人爾莫令蓋 258  
 己具人 269  
 住家類人 402  
 昔人 452  
 將歸人 453  
 似人 454  
 人會言鶴 446  
 過去人 451  
 有家武人之 460  
 梁打人 465  
 愛人 400  
 待盛人者 540  
 所云人者 448  
 見之人乎 445  
 七賢人 445

無人

人言 454

人事 454

軍人乃 454

大宮人 454

船人 454

(旅人) (タビト) 旅人 415

(海人) (アマ) 海人 285

海人釣船 257

(舍人) (トネリ) 舍人 248

(二人) (フタリ) 二人 460

仁 (ニ) 都備仁鷄里 456

今 (イマ) 今 454

今毛可 454

(今者) (イマ) 今者 508

(今代) (コノヨ) 今代 516

(今生) (コノヨ) 今生 528

(今日) (ケフ) 今日 557

仕 (ジ) 白管仕 462

白雪仕物 482

(ツカ) 將仕物常 485

仕奉而

取付而 379

名付而有毛 319

名付毛不知 466

(ツク) 吾紐二付 354

天降付 257

白香付 379

代 (ヨ) 代 465

退代爾 322

幾代 555

神代 504

萬代 315

不知代經 264

(今代) (コノヨ) 今代 548

(シロ) 山代 481

令見麻思物乎 466

令見都 279

令見乍 505

(シメ) 令滿 588

莫令蓋 574

令干 588

以 (モチ) 石ト以而 420

卷以而 456

(モチ) 雪以滅 519

仰 (アフギ) 仰而 239

任 (ヨサシ) 任乃隨 369

伊 (イ) 伊勢海之 308

伊豫 322

伊與 388

伊加土山 255

伊奈太吉 或本

伊香爾安良奉 412

伊保里爲 285

伊射利爲流 250

伊射里爲流 252

伊佐夜歷雲 256

伊都伎坐等 一云

伊波比毛得保理 420

伊波比回禮 289

伊波比拜 289

伊波比拜目 259

伊觸家武 455

伊座家留 507

伊座勢波 454

伊座之君 459

伊座都流香物 420

伊麻須 471

伊麻世 581

伊去波伐加利 517

伊去羽計 321

伊去吾妹 467

伊去者 459

(助詞) 志斐伊波 257

齋忌志伎可物 475

伊都伎坐等 420

伎禰杼 556

伎須賣流玉 412

伎濃 450

(キ) 左和伎 一云

伏 (フス) 向伏國 445

(フセ) 折伏 257

伐 (バ) 伊去波伐加利 579

(助詞) 無有世伐 517

種有世伐 405

(キリ) 船木伐 391

伐歸都 591

伴 (トモ) 大伴 480

似 (ニル) 似人 425

猿二鴨似 544

住 (スミ) 住家類 308

住吉 394

(スム) 船上住 258

宇乃住石 259

(スマヒ) 住乍 480

佐 (サ) 左佐羅能小野 420

佐農能崗 361

佐保 500

佐保河 371

佐保山 475

佐賣山 474

佐都雄 267

牟佐佐婢 287

佐波二鳴 275

佐夫之毛 280

伊佐夜歷雲 428

神佐備居賀 245

麻佐武 245

(京師) (ミヤコ) 京師

寧樂京師  
舊京師

人部

人 (ヒト) 人

人爾莫令蓋 258  
 己具人 269  
 住家類人 402  
 昔人 452  
 將歸人 453  
 似人 454  
 人會言鶴 446  
 過去人 451  
 有家武人之 460  
 梁打人 465  
 愛人 400  
 待盛人者 540  
 所云人者 448  
 見之人乎 445  
 七賢人 445

無人

人言 454

人事 454

軍人乃 454

大宮人 454

船人 454

(旅人) (タビト) 旅人 415

(海人) (アマ) 海人 285

海人釣船 257

(舍人) (トネリ) 舍人 248

(二人) (フタリ) 二人 460

仁 (ニ) 都備仁鷄里 456

今 (イマ) 今 454

今毛可 454

(今者) (イマ) 今者 508

(今代) (コノヨ) 今代 516

(今生) (コノヨ) 今生 528

(今日) (ケフ) 今日 557

仕 (ジ) 白管仕 462

白雪仕物 482

(ツカ) 將仕物常 485

仕奉而

取付而 379

名付而有毛 319

名付毛不知 466

(ツク) 吾紐二付 354

天降付 257

白香付 379

代 (ヨ) 代 465

退代爾 322

幾代 555

神代 504

萬代 315

不知代經 264

(今代) (コノヨ) 今代 548

(シロ) 山代 481

令見麻思物乎 466

令見都 279

令見乍 505

(シメ) 令滿 588

莫令蓋 574

令干 588

以 (モチ) 石ト以而 420

卷以而 456

(モチ) 雪以滅 519

仰 (アフギ) 仰而 239

任 (ヨサシ) 任乃隨 369

伊 (イ) 伊勢海之 308

伊豫 322

伊與 388

伊加土山 255

伊奈太吉 或本

伊香爾安良奉 412

伊保里爲 285

伊射利爲流 250

伊射里爲流 252

伊佐夜歷雲 256

伊都伎坐等 一云

伊波比毛得保理 420

伊波比回禮 289

伊波比拜 289

伊波比拜目 259

伊觸家武 455

伊座家留 507

伊座勢波 454

伊座之君 459

伊座都流香物 420

伊麻須 471

伊麻世 581

伊去波伐加利 517

伊去羽計 321

伊去吾妹 467

伊去者 459

(助詞) 志斐伊波 257

齋忌志伎可物 475

伊都伎坐等 420

伎禰杼 556

伎須賣流玉 412

伎濃 450

(キ) 左和伎 一云

伏 (フス) 向伏國 445

(フセ) 折伏 257

伐 (バ) 伊去波伐加利 579

(助詞) 無有世伐 517

種有世伐 405

(キリ) 船木伐 391

伐歸都 591

伴 (トモ) 大伴 480

似 (ニル) 似人 425

猿二鴨似 544

住 (スミ) 住家類 308

住吉 394

(スム) 船上住 258

宇乃住石 259

(スマヒ) 住乍 480

佐 (サ) 左佐羅能小野 420

佐農能崗 361

佐保 500

佐保河 371

佐保山 475

佐賣山 474

佐都雄 267

牟佐佐婢 287

佐波二鳴 275

佐夫之毛 280

伊佐夜歷雲 428

神佐備居賀 245

麻佐武 245



何(ナニ)何矣示 山佐倍光 477  
 (イカニ)何在歲月日 260  
 (何物)(ナニ)何物爾 445  
 (何時)(イツ)何時 551  
 何時毛 279  
 何時毛將有乎 282  
 何時然跡 298  
 何時鴨 445  
 (何處)(イツク)何處 467  
 (何所)(イツク)何所 588  
 (何在)(イツラ)何在登 275  
 (何方)(イカサマ)何方爾 448  
 (如何)(イカニ)如何爲鴨 445  
 (イカニカ)如何獨長夜 460  
 乎將宿 405  
 (奈何)(イカニ)奈何 285  
 (ナト)奈何 462  
 余(ヨ)川余藤 409  
 川余杼 285  
 奈麻余美乃 519  
 於余頭禮可 575

(助詞)告志五余 477  
 (警余)(イハレ)警余 452  
 作(ツクリ)作之 416  
 佩(ハキ)取佩 562  
 來(コ)來者 449  
 與妹來之 586  
 名津匠來與 478  
 來並二 445  
 (コム)來生 449  
 (キ)不來座 582  
 慕來座而 418  
 渡來座而 460  
 速來而母 460  
 負來爾之 477  
 來二家里 277  
 (キニ)不折來家里 460  
 來來 478  
 (ク)來左 418  
 (クル)天傳來 548  
 撈來舟 281  
 零來雨 269  
 出來月 290

(クレ)戀來者 285  
 春去來者 260  
 (キタル)生來神之命 579  
 (ケリ)(複語尾)深去來 274  
 成來 550  
 時者成來 459  
 不如來 550  
 (ニケリ)來來 269  
 色爾出來 297  
 (ケル)相爾來鴨 595  
 成爾來鴨 470  
 憑有來 516  
 (來有)(ケル)名積來有鴨 297  
 (往來)(カヨヒ)往來乍 470  
 (比來)(コノゴロ)比來 595  
 (去來)(イザ)去來 261  
 侍(侍從)(サモラフ)侍從爾 588  
 依(ヨル)依浪 280  
 便(ベ)爲便 559  
 將言爲便 419  
 將云爲便 456  
 將爲須便 481

保(ホ)

將爲便 542  
 保爾出流 481  
 佐保 526  
 佐保河 300  
 佐保山 460  
 美保乃浦廻 475  
 伊保里爲 454  
 赤乃會保船 250  
 登保志呂之 270  
 毛等保理 524  
 多毛登保里 259  
 於保爾曾見谿流 445  
 奈信 476  
 阿倍寸管 296  
 安倍而 566  
 指可倍氏 481  
 山佐倍光 588  
 可倍波 477  
 阿倍 285  
 阿倍乃島 一云  
 宇倍 284  
 宜奈倍 510  
 漢字索引 286

候(マモリ)

思過倍吉 422  
 風候 581  
 (サモラヒ)立候 445  
 借(カサ)衣借益矣 261  
 (借有)(カレル)借有身 466  
 倭(ヤマト)倭島 255  
 倭部早 280  
 (倭文)(シツ)倭文幡 451  
 停(トバメ)停不得 411  
 偲(シヌビ)出立偲 481  
 備(ビ)神名備山 524  
 神左備居賀 246  
 神左備將往 522  
 神左備手 317  
 神左備爾 420  
 神左備禰留鹿 259  
 都備仁鷄里 512  
 傳(ツタヒ)天傳來 261  
 島傳 589  
 (ツタフ)百傳 416  
 價(アタヒ)價 545  
 儕(ナミ)儕立乃 582

儿部

兄(兄弟)(ハラカラ)兄弟 460  
 光(ヒカリ)光 290  
 山佐倍光 517  
 (ヒカル)高光 477  
 夜光玉 346  
 (テリ)待香光 259  
 (テル)押光 445  
 免(マヌカレ)不免物 370  
 兒(コ)綠兒 460  
 哭兒成 460  
 腋挾兒 481  
 不相兒 481  
 兒等 572  
 相之兒等 280  
 出雲兒等 502  
 吾妹兒 388  
 田兒浦 429  
 田兒之浦 284  
 六兒乃泊 285  
 手兒名 518  
 一七 451  
 452  
 455



入部

入(イラム)入日哉  
 (イリ)入江  
 入日成  
 入居  
 入爾之山  
 内(ウチ)大宮之内  
 内重爾  
 内日指  
 八部  
 八(ヤ)八十之湊  
 八十伴男  
 八十隅坂  
 八十氏河  
 八雲刺  
 八隅知之  
 (助詞)御念八君  
 益目八  
 雨爾零寸八  
 愛八師

454 460 545 550 259 450 264 427 478 275  
 466 261 460 445 258 481 481 466 455 254

(八方)(ヤモ)(助詞)

家八方何處  
 立目八方  
 若目八方  
 將解八方  
 將變八方  
 將出八方  
 將有八方  
 將所忘八方  
 不言八方  
 舟公宣  
 公  
 (キミ)將超公  
 公之阿流久爾  
 在鶴公者  
 公者在然  
 往公鴨  
 (霍公鳥)(ホトトギス)  
 霍公鳥  
 六(ム)六兒乃泊  
 (複語尾)鳴六  
 競敢六鴨  
 (十六)(シシ)十六社者

259 302 485 285 425 445 444 445 425 361 249 424 447 400 501 551 402 546 247 287  
 410

十六自物

(六月)(ミナツキ)  
 六月十五日  
 共(トモ)共將有  
 (ト)高部共  
 其(ゴ)已知其智乃  
 許其思美  
 (ソ)其乎  
 (ソノ)其玉  
 其鳥  
 其花  
 其路  
 其山  
 其夜  
 (ソモ)其彼母毛  
 具(グ)香具山  
 久具都  
 四具禮  
 涕具末之毛  
 已具人  
 兼(ケム)刈兼

455 257 449 425 295 554 557 520 519 581 408 572 405 466 414 519 258 481 520 579  
 411 464 466 469

ン部

冬(フユ)冬木成  
 冷(スズシキ)冷者  
 凌(シヌギ)菅葉凌  
 凝(コゴ)凝敷山

501 299 547 532

ㄥ部

出(イデ)擲出牟  
 將出八方  
 出行道  
 出立有  
 出立而  
 出立徳  
 出來月  
 打出而  
 出而  
 出而  
 (イデヌ)保爾曾出流  
 (イヅ)亂出所見  
 出流船人  
 (テ)船出爲而

246 285 256 526 481 566 518 290 481 420 519 468 501 588  
 461

刀部

思出  
 退出而  
 去出  
 色爾出來  
 (出雲)(イヅモ)出雲兒  
 出雲子  
 刀(タチ)劍刀  
 分(ワカレ)分時從  
 別(ワカレ)別不勝鶴  
 榜將別  
 別者  
 手本突別  
 利(リ)伊射利爲流  
 伊去波伐加利  
 布里家利  
 戀爾家利  
 刺(サシ)網爾刺  
 五百枝刺  
 (サス)八雲刺  
 前(マヘ)前坐置而

443 450 524 240 510 520 517 252 481 276 254 276 517 478 450 429 595 260 257 475  
 519 一云 一云 或云

力部

(サキ)野島之前  
 磯前  
 廩前乃  
 (屋前)(ヤト)屋前  
 力(チカラ)手力  
 加(カ)伊加土山  
 加麻幡夜能  
 伊去波伐加利  
 外爾毛見之加  
 狂言加  
 狂言登加母  
 一有加母  
 努(ヌ)情毛思努爾  
 之努櫃  
 思努妣都流可聞  
 効(シルシ)効  
 勇(イサ)勇魚取  
 動(サワギ)阿遲村動  
 (サワグ)立動良之  
 勝(カチ)勝野

275 538 260 566 481 465 566 266 276 475 420 474 517 454 255 419 410 298 275 251  
 519 或本 411 464 466 469



(カツ)勝牡鹿 451  
 (ガテ)去過勝爾 452  
 (不勝)(カネ)超不勝而 453  
 別不勝鶴 276  
 (ガテ)不勝宿者 301  
 勢(セ) 勢能山 276  
 吾勢毛 285  
 伊勢海之 286  
 伊座勢波 291  
 勤(ユメ)浪立莫勤 246  
 匍(匍匐)(ハヒ) 306  
 匍匐多毛登保里 276  
 匍(匍匐)(ハヒ) 285  
 匍匐多毛登保里 286  
 匍匐多毛登保里 291  
 匍(匍匐)(ハヒ) 246  
 匍匐多毛登保里 454  
 勤(ユメ)浪立莫勤 246

匣(クシゲ)珠匣 376  
 十(トヲ)十緣皇子 420  
 (ソ) 八十之湊 275  
 八十氏河 264  
 八十隅坂 427  
 八十伴男 478  
 四十耳見乍 427  
 眞十鏡 264  
 (十方)(トモ)鎮十方 420  
 寶十方 376  
 言十方 420  
 不所見十方 420  
 (ドモ)見十方 420  
 (十六)(シシ)十六社者 420  
 十六自物 420  
 (十五日)(モチ) 420  
 六月十五日 420  
 千(チ) 420  
 千歲 420  
 千重爾 420  
 千重浪 420  
 千磐破 420  
 夕千千鳥 420

ト(ウラ)石ト 420  
 占(夕衢占)(ユフケ)夕衢占 420  
 印(シメ)印結而 394  
 卷(マカ)卷四而有 366  
 (マキ)卷難寸 409  
 手爾卷以而 456  
 (マク)言卷毛 475  
 懸卷欲寸 475  
 掛卷母 475  
 掛卷毛 478  
 干卷借裳 455  
 原(ハラ)天原 289  
 勝野原 317  
 草原 379  
 淺茅原 275  
 榛原 280

眞野之榛原 281  
 松原 295  
 角松原 279  
 廬原乃 296  
 (河原)(カハラ)河原 371  
 角太河原 298  
 (川原)(カハラ)天川原 420  
 去(ユカ)將去 246  
 (ユキ)伊去波伐加利 276  
 伊去羽計 321  
 去過勝爾 255  
 吾去鹿齒 284  
 去而 420  
 (ユク)去邊 264  
 去左 450  
 旅去吾乎 252  
 伊去吾妹 467  
 (ユケ)去者 365  
 吾超去者 291  
 伊去者 459

(マカリ)去出而 260  
 (サラ)秋去者 325  
 不去 325  
 (サリ)春去來者 260  
 春去奴禮婆 或云  
 夕去者 475  
 暮去者 354  
 明去者 388  
 (イニ)擄去師船 388  
 (複語尾)(ナ)暮去者 351  
 雲隱去牟 351  
 干去者 275  
 (ニ) 故去之里 416  
 雲隱去寸 360  
 散去奚留鴨 334  
 深去來 461  
 深去通都 277  
 (ニシ)過去人 282  
 隱去可婆 274  
 落去登 466  
 開去歲 427  
 經去 463

隱益去禮 460  
 (ヌル)散去如寸 477  
 消去之如久 466  
 (去來)(イザ)去來 280  
 又部  
 及(マデ)益及常世 261  
 友(トモ)(助詞)泣友 301  
 知友 362  
 取(トラ)不取香聞將有 362  
 (トリ)取持而 363  
 木綿取持 386  
 取佩 408  
 取負而 420  
 取付而 445  
 取著而 478  
 取懸 379  
 草取可奈和 478  
 取毛不見久爾 379  
 勇魚取 478  
 (トル)妹手乎取 366  
 見毛左可受伎濃 385  
 受(ズ) 450



叙(ゾ)

之奴波受而  
名積叙吾來並二  
因香跡叙念

口部

口(ク)

隱口乃  
隱口能  
通計萬口波

古(コ)

可古能島  
(イニシへ)古

(フル)古家乃里  
(古昔)(イニシへ)古昔

召(メサ)

召麻之乎  
(メシ)召集聚

可(カ)

可古能島  
可比奈  
山可良志  
水可良思  
草取可奈和  
可都知跡

481 382 291  
472 385 315 315 420 253 478 454 239 451 268 266 315 253 478 425 428 424 324 340 387

(助詞)誰嬌可

見毛左可受  
可倍波  
指可倍氏  
隱去可婆  
吾妹可  
何所可將寄  
山乎高可  
念座可  
所燒乍可將有  
何時可將示  
零來雨可  
於余頭禮可  
誰手本乎可  
今毛可  
誰將告可  
常有奴可  
波之吉可聞  
悲呂可聞  
吾於富吉美可聞  
海可聞  
山可聞

319 241 259 478 479 332 448 356 459 420 265 279 269 448 290 480 467 426 466 481 286 450 或云 一云

(助詞)樂乎有名

祇可聞  
今日可聞  
思努妣都流可聞  
不相可聞  
所念可聞  
外爾可聞  
狂言等可聞  
安禮爾家留可毛  
獨可毛將宿  
獨可毛  
齋忌志伎可物  
可有良師  
可飲有良師  
(ベシ)可辛苦  
(ヘキ)可悔心  
右(左右)(マデ)生左右二  
木足左右  
年經左右二  
至流左右二  
左右(カモカクモ)  
左右將爲  
合(嘆合)(ナゲカヒ)嘆合

481 599 420 445 310 259 437 440 558 347 475 276 298 307 421 423 533 379 465 556 313 一云 一云

吉(キ)

吉志美我高嶺  
伊奈太吉  
於富吉美  
人會奈吉  
人毛奈吉  
都禮毛奈吉  
波之吉佐寶山  
波之吉可聞  
思過倍吉

(ヨシ)吉跡

吉野  
吉野川  
吉野山  
三吉野  
見吉野  
青丹吉

(將吉)(ヨケム)將吉

墨吉  
住吉  
名  
妹名  
祖名

445 285 359 362 384 283 289 328 315 244 429 430 375 460 422 479 474 460 451 446 239 412 395

名耳母

名負  
名細寸  
名付而有毛  
名付毛不知  
名乘藻  
猪名野  
得名津  
神名備山  
名次山  
小彥名  
名湯竹  
手兒名  
名豆颯  
名津匠來與  
名積來有鴨  
名積叙吾來並二  
本名  
宿名久二  
君爾有名國  
成名者  
(複語尾)告名者

399 363 422 390 305 382 383 443 450 451 452 453 420 355 279 324 283 279 362 486 319 305 480 451 或云

(助詞)樂乎有名

(ナツゲ)名不知  
(ムカ)向伏國  
(背向)(ソガヒ)背向爾  
君(キミ)君  
榮之君  
吾背乃君  
香君之  
君之隨意  
君乎  
問之君波母  
君師不座者  
吹(フキ)吹返  
(吾君)(ワガミ)吾君  
(フク)寒吹良武  
吾(ワガ)吾命  
吾於富吉美  
吾大王  
吾王

529 259 259 288 552 552 462 251 376 457 455 425 412 443 286 454 422 281 657 443 427 319 349 475 261 476 420 477 478 423 530 456 370 458 379 459 330 463 421



吾黑髮 481  
 吾盛 351  
 吾佐保河 371  
 吾山齋 452  
 吾勢 276  
 吾背子 268  
 吾背乃君 286  
 吾手枕 458  
 吾日乃皇子 239  
 吾紐 354  
 吾船 274  
 吾松 394  
 吾屋戸 384  
 吾屋前 420  
 吾聞都流 466  
 吾泣淚 420  
 吾泣 469  
 吾將枕 458  
 吾去鹿齒 284  
 吾行者 335  
 吾標結之 400  
 吾祭神 406

吾超去者 291  
 吾見之 450  
 吾來並二 382  
 念會吾爲流 372  
 (ア、ワ) 吾乎 454  
 (アレ、ワレ) 吾 337  
 (吾等) (ワレ) 吾等者 250  
 (吾君) (ワギミ) 吾君 376  
 (吾妹) (ワギモ) 吾妹 467  
 吾妹子 471  
 吾妹子 402  
 吾妹兒 446  
 告(ノラ) 告名者 279  
 告志且余 411  
 告世 365  
 (ツゲ) 語之告者 362  
 將告 313  
 語將告可 448  
 不告 452  
 (ツギ) 語告 317  
 呂(ロ) 登保志呂之 324  
 悲呂可聞 478

味(アヂ) 味村 257  
 呼(ヨビ) 呼聲 238  
 命(イコト) (命令) 297  
 大王之命 441  
 太皇之命 445  
 王之命 475  
 (尊稱) 神之御命 379  
 御子乃命 475  
 皇子之命 478  
 母命 445  
 (イノチ) 吾命 445  
 (御命) (ミコト) 御命 289  
 和(ワ) 和豆香山 352  
 和豆香蘇麻山 476  
 夢乃和太 475  
 左和伎 475  
 和我世故 257  
 和我不念久 355  
 和我歸 476  
 草取可奈和 476  
 (ニギ) 和細布 242  
 咲(エマ) 咲比 247

(サキ) 花會咲有 466  
 花咲乎爲里 475  
 咲而 455  
 (サク) 花咲 469  
 咲花 328  
 咽(ムセ) 情咽都追 455  
 哀(イタク) 情哀 469  
 哉(ヤ) 眞木葉哉 451  
 入日哉榜將別 254  
 獨哉將宿 465  
 見哉雪隱去 416  
 咲而有哉 455  
 霧有哉 429  
 將有哉 458  
 相哉 417  
 哭(ネ) 哭 456  
 哭耳所泣 324  
 鶴之哭 352  
 哭者泣友 301  
 (ナキ) 啼耳哭管 481  
 醉哭 341  
 (ナク) 將哭 387

口部

哭乎毛置而 481  
 哭兒 460  
 (モ) 戀哭爲鴨 375  
 問(トハ) 問者 448  
 辭不問 481  
 (トヒ) 妻問 451  
 夕衢占問 420  
 問放流 460  
 問之君 455  
 喚(ヨバ) 不喚 286  
 (ヨバヒ) 鴨妻喚 257  
 啼(ネ) 啼耳哭管 481  
 啼耳鳴六 485  
 喪(モ) 悲喪有香 459  
 嘗(ナム) 吾波乞嘗 380  
 染嘗 345  
 嗣(ツギ) 彌繼嗣爾 324  
 言嗣 382  
 嘆(ナゲキ) 嘆乍 460  
 (嘆合) (ナゲカヒ) 嘆合 481

四(シ) 四極山 272  
 四具禮 425  
 四時自物 259  
 奈四二 257  
 見津見津四 455  
 目頼四 455  
 益目頼四寸 377  
 朝夕四天 259  
 君無二四天 456  
 卷四而有 458  
 (助詞) 神二座者 255  
 河四清之 324  
 山四見容之 324  
 神之社四無有世代 404  
 (ヨ) 四十耳見乍 385  
 回(メグラ) 回之 388  
 (モトホ) 伊波比回禮 259  
 (タム) 榜回舟 357  
 (ミ) 榜手回行者 275  
 納回 390  
 因(ヨシ) 逢因 483  
 (ヨス) 因香 481



國(クニ)國

東國 319  
 甲斐乃國 382  
 新羅國 519  
 駿河能國 460  
 豐國 519  
 難波國 517  
 山跡國 418  
 親族兄弟無國 460  
 敷座國 319  
 向伏國 445  
 國之盡 460  
 國中者 460  
 國見爲 445  
 家待莫國 422  
 安良七國 265  
 君爾有名國 426  
 不有國 382  
 所念國 329  
 土部 322  
 土(ツチ)伊加土山 445  
 235 或云

在(アラ)常將在跡

(アリ)在鶴公者 244  
 在管裳 445  
 在然 524  
 (アレ)在者 482  
 雖在 461  
 左波爾雖在 522  
 物爾波在跡 481  
 (ナラム)何在歲月日 460  
 (ナラ)時爾不在之天 445  
 (ナル)在京師 445  
 今生在間 440  
 (ナレ)身在者 549  
 (纏在(マケル)手二纏在 466  
 (座在(マセル)敷座在 424  
 (立在(タテル)立在松樹 599  
 (何在(イツラ)何在登 448  
 地(ツチ)天地 448  
 坂(サカ)野坂乃浦 309  
 八十隅坂 427  
 坏(ツキ)一坏 558  
 坐(イマス)伊都伎坐等 545

(マセ)神爾之坐者

(スエ)前坐置而 241  
 垂(タリ)貫垂 445  
 城(キ)高城乃山 379  
 奧津城處 462  
 大荒城 441  
 百磯城之 257  
 (平城)津乎能城 352  
 埼(サキ)津乎能埼 350  
 野島之埼 250  
 野島我埼 250  
 三津埼 249  
 敏馬乃埼 389  
 敏馬能埼 449  
 清見之埼 296  
 神之埼 265  
 此埼乎 450  
 堅(カタ)久堅之 379  
 久堅乃 475  
 渥(渥打(ヒヅチ)渥打 475  
 堤(ツ、ミ)堤 378  
 (堤有(ツ、メル)堤有海 319

塞(セキ)將留塞

士部

墨(スミ)墨吉乃 285  
 布士能嶺 521  
 布士能高嶺 517  
 (壯士(ヲトコ)壯士 369  
 (武士(モノノフ)武士登 445  
 壯(壯士(ヲトコ)壯士 369  
 壺(ツボ)酒壺 545  
 壽(イノチ)壽 461

夕部

夏(ナツ)夏草 275  
 夏實之河 250  
 夕部 250  
 夕(ヨヒ)朝夕 445  
 (ユフベ)夕爾波 456  
 (ユフ)夕霧 458  
 夕浪千鳥 481  
 夕不離 324  
 266  
 256

外(ト)外重爾

(ヨソ)外爾可爾 425  
 外爾毛見之加 474  
 外爾見之 482  
 外爾見而思香 595  
 多藝通瀬 514  
 多頭 524  
 多奈引 572  
 多毛登保里 458  
 安多良 591  
 加麻幡夜能 454

大(オホキ)大聖

夕去者 354  
 (夕爾占(ユフケ)夕爾占 420  
 夜(ヤ) 454  
 (ヨ) 382  
 夜之盡 502  
 秋夜 524  
 此夜 588  
 左夜 274  
 其夜 520  
 長夜乎 462  
 夜路 289  
 夜隱爾 290

大部

射狹夜歷月 595  
 伊佐夜歷雲 428  
 夜光玉 297  
 夢(イメ)夢乃和太 349  
 大(オホキ)大聖 475  
 (オホ)大日本 359  
 大王 297  
 吾大王 304  
 我大王 261  
 大皇 240  
 大宮 441  
 大宮人 460  
 志賀之太津 257  
 大殿 260  
 明大門 261  
 大伴 288  
 大汝 254  
 大御馬 490  
 大荒城 355  
 441  
 277 或云  
 255



大舟 566  
 大船 568  
 (大夫)(マストラチ)大夫 264  
 朝夕四天 266  
 君無二四天 406  
 時爾不在之天 478  
 (アメ)天 445  
 天地 458  
 天之芳來山 456  
 天見如久 257  
 天歸月 515  
 天有 517  
 (アマ)天之探女 420  
 天原 420  
 天川原 259  
 天雲 257  
 天離 257  
 天傳來 261  
 (天降)(アモリ)天降付 255  
 天降就 257  
 (天木香樹)(ムロノキ) 260  
 天木香樹 或云 446

太(ダ) 角太河原 298  
 伊奈太吉 412  
 夢乃和太 535  
 事太爾 445  
 夫(ブ) 佐夫之毛 260  
 (大夫)(マストラチ)大夫 或云  
 夷(ヒナ)夷之長道 564  
 奇(クスシク)奇母 260  
 奈(ナ) 奈麻余美乃 406  
 伊奈太吉 478  
 可比奈 291  
 物念毛奈信 356  
 心神毛奈思 460  
 情神毛奈思 451  
 奈思 446  
 己具人奈四二 257  
 人會奈吉 466  
 人毛奈吉 475  
 都禮毛奈吉 471  
 爲便奈美 457  
 毛等奈 296  
 之奈布 420  
 291 356 460 451 446 257 466 471 457 296 412 519 245 255 564 260 445 535 412 298  
 或云 478

多奈引 372  
 雲居奈須 478  
 如此耳奈良之 248  
 駿河奈流 372  
 成奈武 478  
 祈奈牟 284  
 宜奈倍 548  
 草取可奈和 379  
 (奈何)(イカニ)奈何 285  
 (ナド)奈何 285  
 奉(マツリ)和細布奉 286  
 仕奉 379  
 仕奉而 548  
 奏(マラセ)奏 284  
 奚(ケ) 散去奚留鴨 478  
 所言奚米 248  
 奧(オキ)奧撈所見 277  
 吉野川奧 237  
 奧爾持行 259  
 奧邊 445  
 奧部莫避 445  
 奧津白浪 409  
 294 274 257 227 450 270 312 277 237 259 445 445 409 285 285 286 379 548 284 478 248 372  
 或云 506

女部

奧津浪 305  
 奧浪 247  
 奧島 357  
 (オク)奧爾念 376  
 奧山 299  
 奧津城 379  
 奧柳 397  
 (陸奥)(ミチノク)陸奥 596  
 431 474  
 432  
 299 379 397  
 376 357 247 305  
 女(メ) 女 419  
 泊瀬越女 424  
 天之探女 292  
 手弱女 579  
 (處女)(ヲトメ)處女乎 250  
 (未通女)(ヲトメ) 一云  
 海未通女 566  
 (海女)(アマ)海女 295  
 奴(ヌ) 奴島 249  
 之奴波受而 291  
 (複語尾)隱奴 303  
 近著奴 250  
 漢字索引

好

眷奴 294  
 常有奴可 332  
 所知奴禮 475  
 春去奴禮婆 475  
 往過奴禮婆 475  
 庭好有之 481  
 好(ヨク)好應祀 475  
 好爲而 475  
 如(シカ)不如來 475  
 (コト)跡無如 581  
 如聞 256  
 消去之如久 406  
 天見如久 481  
 相見如之 475  
 散去如寸 475  
 (ゴトク)如千歲 352  
 薰如 294  
 (如是)(カク)如是 472  
 (如此)(カク)如此 380  
 如此谷裳 379  
 如此谷母 478  
 如此耳跡 305  
 455 470  
 328 470 477 309 259 466 245 551 550 581 256 406 481 475 475 332 294

姝

如此毛欲得 478  
 (如何)(イカニ)如何爲鴨 405  
 如何獨 462  
 妙(タヘ)白妙之 481  
 姝(ビ)思努姝都流可聞 465  
 姝(イモ)妹 251  
 妹名 445  
 妹家 447  
 妹鴨有牟 449  
 妹者不喚 452  
 (吾妹)(ワギモ)吾妹 464  
 吾妹子 464  
 吾妹兒 464  
 妻(ツマ)鴨妻喚 560  
 妻爾 468  
 妻問 376  
 妻屋 399  
 始(ハツ)始瀬乃山 466  
 婢(ヒ)牟佐佐婢波 467  
 婆(バ)君乎婆 286  
 春爾至婆 428  
 257 425 267 420 481 451 445 257 279 467 286 428 398 285 466 560 468 376 469 395 470 415 481 457 481 483  
 294 274 257 227 450 270 312 277 237 259 445 445 409 285 285 286 379 548 284 478 248 372



有世婆 460  
 隱去可婆 466  
 春去奴禮婆 475  
 往過奴禮婆 481  
 婦(ツマ)誰婦可 426

子部

子(コ)子 337  
 子等 445  
 出雲子等 450  
 御子之命 475  
 子水葱 407  
 吾背子 268  
 (皇子)(ミコ)皇子 420  
 皇子之命 478  
 日之皇子 261  
 吾日乃皇子 239  
 (網子)(アゴ)網子 238  
 (若子)(ワクゴ)久米能若子 307  
 (ミドリコ)若子 458  
 (吾妹子)(ワギモコ) 467

宀部

吾妹子 402  
 (芽子)(ハギ)芽子花 446  
 孤(コ)孤悲爾不有國 455  
 孰(タレ)孰不戀有米 474  
 481  
 481  
 485  
 宅(イ)宅 460  
 宇(ウ)宇乃住石 359  
 宇禮牟會 327  
 宇倍 310  
 守(モリ)山守 401  
 安(ア)安多良 591  
 安倍而 388  
 安禮爾家留可毛 307  
 安良牟 一云  
 安良米也 245  
 安良七國 263  
 安全我欲比 479  
 安里家禮騰 308  
 (ヤス)安見知之 329  
 定(サダメ)事者將定 398  
 我定義之 394

宀部

宮(ミヤ)宮 417  
 宮敷座 509  
 芳野乃宮 355  
 行幸之宮 307  
 大宮 448  
 大宮人 447  
 千二家良進 249  
 布里家利 270  
 戀爾家利 366  
 戀爾家里 415  
 來二家里 460  
 (サダム)宮登定流 417  
 宜(ヨロシ)宜奈倍 286  
 言乃宜左 339  
 島山之宜國 322  
 客(タビ)客 359  
 客爲而 366  
 宜 367  
 室(ムロ)室木 448  
 (石室)(イハヤ)石室 307  
 志都乃石室 308

生繼爾家里 322  
 生家里 378  
 來家里 592  
 辛苦有家里 461  
 移爾家里 478  
 開家流香聞 464  
 安禮爾家留可毛 307  
 伊座家留 307  
 落家留 317  
 零家留 318  
 有家留 401  
 有家留物乎 470  
 常無里家留 308  
 成家留鴨 452  
 住家類 308  
 有家類物乎 455  
 滿爾爲家流 442  
 淺爾家留香裳 292  
 安里家禮騰 308  
 家牟 307  
 指爾家牟 407  
 知家武 291

(イ)家

爲家武 431  
 有家武人 431  
 伊觸家武 435  
 家待莫國 426  
 思家登 391  
 家妹 360  
 妹家 398  
 空家者 451  
 荒有家 440  
 家裳不有國 265  
 家當 254  
 家道 302  
 家裏 306  
 古家乃里 268  
 (ヤ)家門當 255  
 容(カホ)容鳥 372  
 山四見容之 324  
 宿(ネ)宿者 440  
 將宿 298  
 宿名久二 462  
 不勝宿者 465

(イ)家

左宿之 481  
 (ヤドラ)將宿 275  
 (ヤドリ)禰宿 426  
 寄(ヨセ)將寄 490  
 富(ホ)於富吉美 259  
 寒(サムク)寒吹 462  
 寒將吹鳥 361  
 (サムキ)寒朝開 425  
 河風寒長谷 465  
 (サムミ)秋風寒 388  
 寢(イ)寢乃不勝宿者 481  
 (ネシ)靡寢 399  
 實(ミ)實之成名者 375  
 夏實之河 300  
 寧(ナ)寧樂 328  
 寬(ユタケキ)寬見乍 351  
 實(ホ)佐實山 474  
 (タカラ)寶 519  
 寸(キ)皮爲醉寸 307  
 鈴寸 252



將有八方 410  
 枝將有八方 400  
 將有哉 458  
 將所忘八方 447  
 (ナム)將成時爾 598  
 榜將別 254  
 將死還生 527  
 將成 551  
 將吹鳥 462  
 (ケム)將歸人 425  
 將結標 402  
 將座 365  
 將通君 423  
 將爲 423  
 (ラム)將哭 523  
 將經 555  
 將待會 537  
 將刈 295  
 將見 252  
 將超公 361

小(スクナ)小彥名 555  
 (ヲ)象乃小河 516  
 象小河 532  
 獵路乃小野 239  
 小野 420  
 小舟 558  
 棚無小舟 272  
 年魚小 475  
 (コ)小松 594  
 (小浪)サザレナミ小浪 514  
 少(ヲ)髮梳乃少櫛 278  
 尙(ナホ)尙不如來 350  
 (スラ)山道尙矣 382  
 鴨尙爾 590  
 尤部 260  
 就(ツク)天降就 或云  
 尸部 466  
 居(キ)雙居 481  
 入居 572  
 居而 389  
 410

立居而 445  
 居中 512  
 雲居 572  
 雲居奈須 460  
 (キル)居雲乃 248  
 美沙居 242  
 (ナリ)居寸 265  
 居而 570  
 神佐備居賀 550  
 (スエ)齋戶乎居 245  
 忌穿居 420  
 妻屋 481  
 廬屋 481  
 吾屋戶 431  
 屋前 584  
 展(展轉)コイマロビ展轉 475  
 履(フミ)履立 478  
 山部 410  
 山(ヤマ)山 411  
 足柄山 391  
 267  
 290  
 301  
 315  
 319  
 319  
 319  
 410  
 420  
 464  
 466  
 469  
 478  
 475  
 481  
 481  
 481  
 482

靈寸物 388  
 卷難寸 409  
 貴寸 517  
 手弱寸 419  
 乏寸 290  
 名細寸 305  
 遠久寸 451  
 欲寸 285  
 益目頰寸 239  
 散去如寸 477  
 阿倍寸管 566  
 居寸 370  
 雨爾零寸八 460  
 雲隱去寸 461  
 伊射利爲流 252  
 伊射里爲流 256  
 射都流 564  
 射狹庭乃崗 522  
 射狹夜比 372  
 射狹夜歷月 595  
 不絕射妹跡 481  
 將無 408  
 射(ザ) 一本云  
 (イ)

將吉 289  
 將惜 299  
 將蒔 584  
 將枕 459  
 將纏 415  
 將去 246  
 將歸 280  
 將往 517  
 神左備將往 522  
 將隱乎 517  
 將示 269  
 將云爲便 279  
 將言爲便 491  
 將通 542  
 將罷 460  
 將蓋跡 542  
 將見 374  
 將見人 557  
 將見每 324  
 將明 542  
 將告 491  
 語將告可 279  
 448  
 452  
 588  
 447  
 564  
 288  
 374  
 557  
 324  
 542  
 460  
 491  
 279  
 269  
 522  
 517  
 280  
 246  
 276  
 415  
 459  
 584  
 299  
 289

將寄 480  
 榜將泊 274  
 將宿 275  
 將譬 551  
 將仕物常 457  
 事者將定 457  
 將留塞 598  
 將超 282  
 左右將爲 468  
 蕪爾將爲登 599  
 將爲須做 425  
 將爲須便 475  
 將爲須辨 460  
 將爲便 475  
 將有 466  
 將有登會 442  
 將有跡 242  
 將有乎 269  
 常將在 481  
 將解八方 442  
 將出八方 244  
 將變八方 402  
 301  
 402  
 244  
 467  
 481  
 442  
 242  
 269  
 285  
 315  
 386  
 551  
 301  
 402  
 244  
 467  
 481  
 442  
 242  
 269  
 285  
 315  
 386



有間山 460  
 伊加土山 255 或本云  
 活道山 478  
 鏡山 511 417 418  
 天之芳來山 257  
 香具山 334  
 香山 259 260 或云  
 笠乃山 374  
 春日山 372  
 神名備山 324  
 相樂山 481  
 佐保山 475  
 佐賣山 474  
 四極山 272  
 鹽津山 365  
 勢能山 285 286 291  
 筑羽乃山 382  
 名次山 279  
 泊瀬山 282 428  
 始瀬乃山 420  
 振乃山 422  
 亦打山 298

御笠乃山 572  
 三笠乃山 575  
 三船乃山 242 245  
 御船乃山 244  
 矢釣山 262  
 吉野山 429  
 和豆香山 475  
 和豆蘇麻山 476  
 荒山中 241  
 青山之 577  
 奥山 299 579 597  
 島山 322  
 貴山乃 382  
 高山 382 420 421  
 棚引山乎 287  
 見泉石山 382  
 其山 401  
 山代 481  
 山背 277  
 山跡 305  
 山跡國 519  
 山影 375

山下 270  
 山道 382  
 山邊 460 466  
 山際 429 460 466 481 475  
 山守 401  
 山主 402  
 山隱都禮 471  
 (山齋) (シマ) 吾山齋 452  
 岸 (キシ) 河岸之 457  
 峯 (ネ) 高峰 519  
 島 (シマ) 島待不得而 263  
 粟島 559  
 阿倍乃島 559  
 淡路島 588 589  
 笠縫之島 272  
 可古能島 263  
 奧島 357  
 倭島 255  
 山跡島根 255  
 日本島根乎 366  
 高島乃 275  
 奴島爾 249

水島 245 246  
 野島之埜 250  
 野島之前 251  
 野島我埜 250 一云  
 島山之 322  
 島門 304  
 島傳 389  
 崗 (ヲカ) 射狹庭之崗 322  
 佐農能崗 361  
 嶺 (ミネ) 嶺 377  
 吉野山嶺 429  
 高嶺 517 518 522  
 布士能高嶺 517  
 不盡能高嶺 519  
 布士能嶺 521  
 不盡嶺 520  
 (タケ) 吉志美我高嶺 385  
 川 (カハ) 明日香川 556 或云  
 吉野川 450  
 川津 556

工部

川余藤 525  
 川余村 375  
 朝川渡 460  
 (川原) (カハラ) 天川原 420  
 左 (サ) 左佐羅能小野 420  
 左枝 386  
 左夜 274  
 左和伎 257  
 鹽佐爲乃 388  
 左宿之 481  
 射左欲比 572  
 見毛左可受 450  
 神左備將往 322  
 神左備爾 420  
 神左備手 317  
 神佐備祢留鹿 259  
 還左爾 449  
 往左 281  
 去左 450  
 來去 281

巾部

清左 514  
 言乃宜左 559  
 左波爾 589  
 左波爾雖在 522  
 左波爾雖有 582  
 (左右) (マテ) 木足左右 510  
 生左右二 259  
 至流左右二 420  
 年經左右二 445  
 (カモカクモ) 左右將爲 599  
 差 (ヤ) 差間遠乎 502  
 己 (コ) 己智其智乃 519  
 己其人 257  
 胸己所痛 466  
 鶉己曾 259  
 巾 (領巾) (ヒレ) 袴領巾 285  
 市 (イチ) 東市 510  
 市道 284



(チ) 年魚市方

(布) 布士能高嶺

布士能嶺

之奈布

布里家利

(シキ) 布細乃

(細布) (タ) 和細布

(軍布) (メ) 軍布

見知師

之頭氣師

泊師高津

聖跡負師

暮跡云師

見師屋前

見師輦浦之

思爲師

榜去師船

成而師鴨

纏而師

殖而師故二

清有師

貴有師

515 515 411 438 545 561 322 446 469 407 359 292 388 566 278 445 460 320 291 321 317 271

(常幣) (トキハ) 常幣

幡 (ハタ) 倭文幡

幣 (ヌサ) 置幣者

干部

干 (ヒ) 鹽干乃

令干

未干爾

干去者

干二家良進

(ホサ) 不干

衣袖不干

(カレ) 干卷

(カレヌレ) 雖干

(野干玉) (ヌバタマ)

野干玉

平 (タヒラケク) 平

(平城) (ナラ) 平城京

年 (トシ) 年

年緒

(行年) (ソネ) 莫零行年

(年魚) (アユ) 年魚小

475 299 460 325 350 445 502 584 455 460 445 271 360 469 388 295 500 451 508

幸 (サキク) 眞幸有者

間幸座與

(行幸) (イデマシ)

行幸之宮

行幸處

(幸行) (イデマシ) 幸行處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

行幸處

漢字索引

年魚市方 445 288 271  
眞幸有者 445 288 271  
間幸座與 445 288 271  
(行幸) (イデマシ) 445 288 271  
行幸之宮 322 515  
行幸處 322 515  
(幸行) (イデマシ) 幸行處 295  
行幸處 295  
幾 (イク) 幾代 365  
座 (ワタル) 度日 517  
座 (クラ) 高座 572  
(キ) 座待月 588  
(イマシ) 座之物乎 460  
(イマス) 宮敷座 255 或本  
敷座 322  
靈母座神 319  
鎮十方座祇 319  
(イマセ) 念座可 445  
(マサ) 不座者 457

不來座

將座

(マシ) 慕來座而

渡來座而

伊座家留

伊座勢波

伊座之君

伊座都流香物

(マス) 雲隱座

茂座

敷座國

(マセ) 座者

間幸座與

(座在) (マセル) 敷座在

庫 (コ) 武庫浦

武庫乃海

庭 (ニハ) 庭好有之

射狹庭乃崗

(助詞) 明日香庭

朝庭

(朝庭) (ミカド) 遠乃朝庭

廬 (イホリ) 廬

不來座 418  
將座 355  
(マシ) 慕來座而 460  
渡來座而 460  
伊座家留 507  
伊座勢波 454  
伊座之君 459  
伊座都流香物 420  
(マス) 雲隱座 441  
茂座 261  
敷座國 460  
(マセ) 座者 255 或本  
間幸座與 445  
(座在) (マセル) 敷座在 329  
庫 (コ) 武庫浦 358  
武庫乃海 256 一本  
庭 (ニハ) 庭好有之 256  
射狹庭乃崗 222  
(助詞) 明日香庭 268  
朝庭 481  
(朝庭) (ミカド) 遠乃朝庭 304  
廬 (イホリ) 廬 255

(イホ) 廬前乃

廬原乃

(フセ) 廬屋

延 (ハフ) 延葛乃

廻 (ミ) 美保乃浦廻

(タメ) 許藝廻者

(磯廻) (アサリ) 磯廻爲鴨

式 (シキ) 百式乃

(シ) 百式紀乃

弓部

弓 (ユミ) 梓弓

白眞弓

(弓上) (ユスエ) 弓上

引 (ヒカ) 引者

(ヒキ) 京引

引豐國之

多奈引

451 296 298  
368 289 454 425  
325 260 或  
572 311 312 414 364 289 311 478



棚引所見 (ヒク) 多奈引霞 棚引山乎 田菜引物緒 (網引) (アビキ) 網引爲跡 (輕引) (タナビキ) 輕引 弟 (兄弟) (ハラカラ) 兄弟 弱 (ツカ) 弱薦乎 (ヨツ) 手弱寸 (手弱女) (タツヤメ) 手弱女 強 (シヒ) 強語 強話 (シフ) 強流 張 (ハリ) 張而 彌 (ミ) 思美彌爾 (イヤ) 彌繼嗣爾 彌日異 彌遠永 彌遠長久 彌遠長爾

425 445 425 475 524 460 289 256 257 256 579 419 259 460 460 258 521 554 287 475 555 478 478

(イヨ) 彌清 彥 (ヒコ) 小彥名 影 (カゲ) 面影 山影爾之且 伊部 彼 (ソノ) 彼母毛 彼山 (彼方) (カクニ) 彼方毛 往 (ユカ) 將往 神左備將往 (ユキ) 往轉留 往過奴禮婆 (ユク) 繼往物 往左 (イナ) 往者 (イニ) 往監 (イニシ) 往公鴨 (往來) (ユキカヨヒ) 往來乍

261 445 445 582 281 445 481 390 522 517 412 519 557 575 596 555 516

往 (マタ) 家待莫國 (マタサ) 待牟妹 (マチ) 待鹿爾 島待不得而 座待月 待監人者 待香光 (マツ) 將待會 (マテ) 雖待 徊 (徘徊) (タモトホリ) 徘徊 後 (ノチ) 後 後毛吾松 後雖悔 得 (エ) 得名津 言不得 言毛不得 留不得 (不得) (カネ) 行過不得而 待不得而 忘不得裳 停不得 (欲得) (ガモ) 手力毛欲得

419 471 597 268 554 461 466 519 285 410 594 564 460 418 357 370 445 598 268 405 445 426

如此毛欲得跡 (モガ) 花爾欲得 徘徊 (タモトホリ) 徘徊 從 (ユ) 開乃門從 從明日香 新羅國從 田兒之浦從 角鹿濱從 繩浦從 野坂乃浦從 六兒乃泊從 國之三中從 夷之長道從 浪上從所見 山際從 家從裳 家從者 從手 分時從 明日從 (ヨリ) 天原從 神代從

562 579 425 517 405 461 481 429 256 255 519 285 246 357 566 518 460 425 588 480 506 473 一本 一云

立西日從 從今者 物言從者 御 (ミ) 御笠乃山 御船乃山 御諸 神乃御言 御命 御子之命 御門 神之御門 御心乎 御輿 大御馬 (御念) (オモホス) 御念 復 (マタ) 復將變八方 心 (コ、ロ) 心 心戀敷 御心乎

478 255 572 457 478 480 481 551 550 478 475 478 445 478 475 568 522 420 244 572 588 341 462 445

(心神) (コ、ロト) 心神 忌 (イハヒ) 忌穿居 (齋忌) (イハヒ) 齋忌戶 (ユユシ) 齋忌志伎可物 忍 (シヌビ) 不忍都毛 志 (シ) 志賀 志斐 志都乃石室 吉志美我高嶺 齋忌志伎可物 登保志呂之 告志且余 (助詞) 手兒名志所念 山可良志 忘 (ワスレ) 不忘之爲 國忘有 忘不得裳 手忘而 (所忘) (ワスラエ) 將所忘八方 不所忘 念 (オモハ) 物乎不念者

588 451 447 592 597 426 554 515 455 562 524 475 585 555 256 265 472 445 579 457 257 288



不念久爾 (オモヒ)念座可 242  
 念憑而 445  
 念應過 425  
 念會吾爲流 372  
 物念 296  
 念而 425  
 念乍 425  
 念鷄目鴨 460  
 (オモフ)將時登會念 584  
 因香跡叙念 481  
 奧爾念乎 376  
 (オモヘ)念者 454  
 物念者 335  
 雖念 409  
 (モフ)曾許念爾 466  
 (念有)(オモヘリ)念有之 457  
 (オモヘル)念有 374  
 (御念)(オモホス) 550  
 御念八君 515  
 (所念)(オモホユ)所念 266  
 古所念 304  
 329  
 359  
 455

(オモホユル)所念可聞 355  
 (オモホユラ)所念國 371  
 所念久爾 465  
 怜(何怜)(アハレ)何怜 415  
 (不怜)(サプシ)不怜 454  
 思(シ) 情毛思努爾 266  
 思努妣都流可聞 465  
 思美彌爾 460  
 許其思美 414  
 心神毛奈思 457  
 情神毛奈思 471  
 奈思 475  
 食賜麻思 466  
 置末思乎 468  
 令見麻思物乎 475  
 見而思香 475  
 隱爾計良思 418  
 (助詞)水可良思 395  
 (オモハ)思爲師 482  
 思波牟 322  
 不思爾 315  
 思莫苦二 444

四〇  
 不思者 (オモヒ)歌思 476  
 思出 322  
 思過倍吉 475  
 思之物乎 422  
 (オモフ)無人思丹 392  
 (オモヘ)思者 422  
 雖思 422  
 (モフ)思家登 434  
 (思有)(オモヘリ)思有之 392  
 (オモヘル)思有者 422  
 (シヌビ)思櫃 422  
 (シヌベ)見乍思跡 422  
 何(何怜)(アハレ)何怜 422  
 恒(ツネニ)恒見杼毛 422  
 恐(カシコ)恐之 422  
 高見恐見 422  
 恐美 422  
 (カシコミ)恐等 422  
 浪矣恐 422  
 命恐 422  
 御命恐 422

悔(クヤシキ)悔言 420  
 悔事乃 420  
 (クユ)雖悔 410  
 可悔心 457  
 悲(ヒ) 孤悲爾不有國 325  
 (カナシ)悲霜 434  
 情悲裳 450  
 (カナシク)悲喪有香 459  
 (カナシキ)悲呂可聞 478  
 情(コ、ロ)情 266  
 情哀 346  
 痛情者 346  
 (情神)(コ、ロト)情神 471  
 惜(ナシ)惜裳 472  
 (ナシキ)惜此世 467  
 (ナシケ)將惜 299  
 意 (隨意)(マニマ)任乃隨意 569  
 (マニマニ)君之隨意 412  
 愛(ウツクシキ)愛人 438  
 (ハシキ)愛八師 454  
 慕(シタヒ)慕來座而 460

憑(タノミ)憑之心 480  
 念憑而 470  
 憑有來 425  
 (憑有)(タノメリ) 425  
 憑有之人 478  
 憑有之皇子 460  
 憚(ハバカリ)行憚而 478  
 憶(オク)憶良 455  
 應(ベク)應還 357  
 (ベキ)念應過孤悲 439  
 好應祀 325  
 憑(コリ)不憑而 406  
 懸(カケ)懸者 285  
 懸卷欲寸 285  
 取懸 285  
 懸而 285  
 懸有 289  
 戀(コホシ)戀久 589  
 心戀敷 270  
 物戀敷爾 255  
 戀敷牟鴨 270  
 戀石見 511

四一  
 (コヒ)不戀有米 595  
 不戀有益雄 456  
 不戀日 408  
 君爾戀 456  
 戀哭爲鴨 372  
 片戀 372  
 戀來者 255  
 戀乍居寸 370  
 戀爾家里 250  
 戀爾家利 310  
 (コフ)戀良霜 326  
 (コフラ)妹爾戀久 326  
 (コフレ)雖戀 481  
 成(ナラ)不成者 411  
 不成而 399  
 (ナリ)成名者 355  
 成奈武 355  
 將成 348  
 將成時爾 331  
 成極 268



成而師鴨 時者成來 成爾來鴨 成家留鴨 鳴成 (ナル)鴨會鳴成 (ナス)海成可聞 五月蠅成 常磐成 哭兒成 水鴨成 鶉成 入日成 (モリ)冬木成 (成有)(ナレル)成有山 我(ガ)安里我欲比 吉志美我高嶺 手結我浦 野島我埼 和我世故 妹我可悔

457 247 256 266 285 479 519 382 466 239 466 460 308 478 241 375 268 452 350 316 439 343

一云

戸部 吾手枕 玉手次 木綿手次 手結 手結之浦 手向 手祭 手折而 手折而毛 手弱寸 手忘而 榜手回行者 (一手)(カタテ)一手者 (二手)(マデ) 大宮之内二手 (手弱女)(タワヤメ) 手弱女 打(ウタ)不打而 (ウチ)打靡 打緣流 打出而 打越

418 419 276 365 394 244 368 420 269 295 240 408 424 263 242 268 247 256 307 459 435

所(ソ) 胸已所痛 (何所)(イツク)何所 (所聞)(キコユ)所聞 (キコシ)所聞而 (所泣)(ナカユ)所泣 (所云)(イハエ)所云人者 (所言)(イハエ)所言奚米 (所念)(オモホユ)所念 古所念 (オモホユル)所念可聞 (オモホユラ)所念國 所念久爾 (所見)(ミエ)不所見十方 (ミユ)所見 亂出所見 浪上從所見 所見云物乎 (ミユル)所見

353 296 256 256 255 255 465 371 535 315 266 304 329 359 433 324 456 460 258 460 466 443 379 309 384 420

手(テ) 手 背向爾所見 (所忘)(ワスラエ) 將所忘八方 不所忘 (所知)(シラサ)所知牟登 (シラシ)所知奴禮 (所燒)(モエ)所燒乍

269 475 476 451 447 357

手(タ) 手 妹手乎取 妹之手 手取持而 從手 手兒名 (助詞)用手 神左備手 根深目手 有金手 見手益物乎 手力 手本

439 419 277 383 397 317 269 431 403 380 415 385 366 481 481 432 408 424 455 420 409 424 436 443

吾手枕 玉手次 木綿手次 手結 手結之浦 手向 手祭 手折而 手折而毛 手弱寸 手忘而 榜手回行者 (一手)(カタテ)一手者 (二手)(マデ) 大宮之内二手 (手弱女)(タワヤメ) 手弱女 打(ウタ)不打而 (ウチ)打靡 打緣流 打出而 打越

565 518 519 260 386 379 258 445 275 392 419 466 280 300 427 367 366 420 366 456 443 465

打越見者 (ウチテ)打莫行 (ウツ)梁打人 打蟬乃 打背見乃 (亦打)(マツチ)亦打山 (壘打)(ヒツチ)壘打 抑(オサ)抑駐 折(チラ)不折來家里 (チサ)折伏 手折而 手折而毛 (チリテ)折挿頭 抱(ウダキ)抱見 押(オシ)押光 (オス)押日 拜(チロガミ)伊波比拜 (チロガメ)伊波比拜目 持(モク)不持 (モチ)久具都持 持行而 持而

420 327 293 437 259 259 379 443 481 425 466 280 379 392 478 475 293 482 466 387 265 272



取持而 360  
 手取持而 408  
 木綿取持 445  
 指(サシ)指可倍氏 481  
 柄者指爾家牟 407  
 指而 460  
 (サス)内日指 466  
 振(フリ)振起 264  
 振離見者 289  
 振放見者 517  
 (フル)袖振妹 376  
 振乃山 422  
 振麻比 478  
 挾(ハサム)腋挾兒 481  
 掛(カケ)掛卷母 475  
 掛卷毛 478  
 探(サグ)天之探女 292  
 挿(挿頭)(カサス)挿頭跡 425  
 撈(コガ)不撈 258  
 (コギ)撈行者 351  
 撈去師 366  
 撈轉小舟 558

支部

撈出牟 588  
 撈來舟 260  
 (コグ)撈所見 270  
 摩(マ)薩摩乃迫門 248  
 改(カハラ)不改 315  
 放(ハナツ)雖放 527  
 (サク)振放見者 517  
 (サク)問放流 460  
 故(コ)和我世故 247  
 (ユエ)如是故爾 505  
 不相兒故荷 572  
 殖而師故二 411  
 (フリ)故去之里 554  
 (フリニシ)故鄉之 333  
 敏(ミス)敏馬 250  
 整馬乃埒 589  
 敏馬能埒 449  
 敏(ヘ)曾久敏能極 420  
 將爲須敏 460  
 敢(アヘ)競敢六鴨 502

散

散(チリ)散去奚留鴨 477  
 散去如寸 217  
 敷(シキ)宮敷座 235  
 敷座 522  
 敷座在 329  
 敷座國 460  
 敷細之 438  
 敷細乃 461  
 千重浪敷爾 409  
 時敷時跡 582  
 凝敷山 501  
 心戀敷可古能島 270  
 物戀敷爾 255  
 敷(シバ)敷鳴 572  
 敷鳴 511  
 文(モ)祖名文 445  
 (アヤ)文爾恐之 478  
 (倭文)(シツ)倭文幡 431  
 斐(ヒ)甲斐乃國 319  
 志斐 237

斤部

新(シ)新羅國 481  
 (アラタ)新世 460

方部

方(カタ)久方乃 292  
 久方 261  
 年魚市方 271  
 (ヘ)邊津方 257  
 (此方)(カニ) 412  
 此方彼方毛 412  
 (彼方毛)(カクニ) 412  
 此方彼方毛 412  
 (何方)(イカサマ)何方爾 445  
 (十方)(トモ)寶十方 460  
 鎮十方 319  
 寶跡言十方 519  
 不所見十方 595  
 言十方 545  
 見十方 346  
 (八方)(ヤモ)家八方何處 454  
 漢字索引 287

於

八方 546  
 立目八方 247  
 將解八方 402  
 將出八方 301  
 將變八方 531  
 將有八方 400  
 將所忘八方 410  
 不言八方 447  
 於富吉美 424  
 於保爾曾見谿流 476  
 於余頭禮可 420  
 (ウヘ)大殿於 261  
 於丹 590  
 (ニ)於雲 444  
 旅(タビ)旅 461  
 旅去 252  
 益旅而 440  
 (旅人)(タビト)旅人 415  
 族(親族)(ウカラ)親族 460  
 日(ヒ)度日之陰 517

日部

入日成 519  
 內日指 519  
 春日 524  
 日之皇子 261  
 吾日乃皇子 239  
 日本 519  
 歲月日香 445  
 入日哉 264  
 此日 275  
 立西日從 443  
 不泣日 475  
 絕日 245  
 不戀日 408  
 一日 409  
 日之盡 572  
 彌日異 475  
 稻日野 255  
 押日 379  
 足日本乃 267  
 足日本能 414  
 (今日)(ケフ)今日 248  
 (明日)(アス)明日從 425  
 四五 416  
 454



明日香 269  
 從明日香 324  
 明日香河 325  
 明日香川 356  
 昨日(キノフ)昨日社 444  
 昨日毛 454  
 (比日)(コノゴロ)比日 456  
 (十五日)(モチ) 444  
 六月十五日 456  
 (日本)(ヤマト)日本 520  
 日本島根 559  
 大日本 567  
 (春日)(カスガ)春日 589  
 春日里 475  
 春日野 405  
 春日山 407  
 且(アサ)且雲二 372  
 且開 324  
 (アサナ)朝且 351  
 早(ハヤク)倭部早 408  
 明(アカ)明石 280  
 (アカシ)明大門 254

明門 255  
 (アケ)將明 388  
 明去者 388  
 (アキラ)明米之 478  
 (明日)(アス)明日 423  
 明日香 268  
 明日香河 324  
 明日香川 423  
 昔(ムカシ)昔 478  
 昔人 388  
 (昔者)(ムカシ)昔者 388  
 (イニシ)昔者 388  
 (古昔)(イニシ)古昔 388  
 古昔大聖 388  
 春(ハル)春 257  
 春日 359  
 春霞 451  
 春草之 378  
 春去來者 312  
 春去奴禮婆 309  
 (春日)(カスガ)春日 516  
 神會 552  
 馬會爪突 474  
 海會 556  
 住家類人會 556  
 花會咲有 556  
 鴨會鳴成 556  
 念會吾爲流 556  
 哭耳會吾泣 556  
 標耳會結焉 556  
 字禮牟會 556  
 保爾會出流 556  
 於保爾會見谿流 556  
 將蔣登會念 556  
 時自久會 556  
 將有登會 556  
 聞跡云物會 556  
 將待會 556  
 鶉已會 556  
 昔許會 556  
 詔許會 556  
 替(カ)帶解替而 431

春日里 407  
 春日野 405  
 春日山 407  
 昨(昨日)(キノフ)昨日社 444  
 昨日毛 454  
 是(如是)(カク)如是 454  
 時(シ)四時自物 454  
 (トキ)時 454  
 分時從 454  
 時敷時跡 454  
 將成時爾 454  
 四具禮能時者 454  
 大荒城乃時 454  
 時爾不在 454  
 時自久會 454  
 (何時)(イツ)何時 454  
 何時間 454  
 何時然跡 454  
 何時毛將有乎 454  
 何時鴨 454  
 何時毛 454  
 何時毛 454  
 何時毛 454

晚(ユフ)晚闇跡

(木晚)(コノクレ)木晚 257  
 晝(ヒル)晝 260  
 智(チ)已知其智乃 297  
 暇(イトマ)無暇 372  
 暖(アタタケク)暖所見 319  
 暮(ユフ)暮越行而 278  
 暮去者 256  
 暮獵爾 298  
 (ユフベ)此暮 356  
 (クレ)暮去者 478

日部

曲(ツバラ)曲曲二 322  
 更(カハラ)不更 355  
 更經見者 478  
 (サラニ)更 485  
 會(ツ)會久傲能極 420  
 赤乃會保船 270  
 會許念爾 466  
 (ツ)(助詞)人會奈吉 446  
 人會言鶴 420

月部

天歸月 290  
 照月乃 302  
 此照月 295  
 座待月 315  
 (五月)(サツキ)五月 386  
 (五月蠅)(サバ)五月蠅 481  
 (六月)(ミナツキ) 467  
 六月十五日 467  
 (九月)(ナガツキ)九月 442  
 有(アラ)有者 442  
 樂有者 481  
 有雲知之 242  
 樂有名 269  
 樂乎有名 285  
 將有 315  
 將有跡 386  
 將有登會 438  
 將有乎 467  
 將有哉 467



將有八方 410  
 妹鴨有牟 428  
 有益 537  
 神者不有 406  
 不有者 545  
 不有國 265  
 常有奴可 325  
 久者不有 352  
 不有跡 441  
 庭好有之 256  
 清有師 515  
 貴有師 515  
 (アリ)有金手 585  
 有不言八方 815  
 有跡 424  
 雖有 446  
 咲而有哉 402  
 有世婆 466  
 有家留 401  
 有家類物乎 455  
 有家留物乎 470  
 有家武人 431

(アル)淵有毛 460  
 有間山 335  
 悲喪有香 459  
 客有間爾 460  
 名付而有毛 519  
 有良師 519  
 有良之 538  
 可有良師 340  
 (アレ)有者 241  
 不免物爾之有者 347  
 客之有者 242  
 間遠之有者 340  
 世間爾有者 349  
 女有者 347  
 左波爾雖有 349  
 常世有跡 347  
 (ナラ)家有者 349  
 久有者 347  
 玉有者 347  
 枝將有八方 347  
 舶爾波有之 347  
 (ナリ)苗有跡 407

盛有 328  
 常有之 420  
 (ナル)天有 478  
 駿河有 319  
 磯越道有 514  
 振乃山有 422  
 三河有 276  
 (ナレ)霧有哉 429  
 一有加母 276  
 (タリ)懸有 289  
 憑有來 276  
 (タル)花曾咲有 470  
 茂有良武 429  
 荒有家 440  
 開有梅 451  
 開有花 466  
 繁生有 470  
 國忘有 289  
 (辛苦有)(タルシカリ) 276  
 辛苦有家里 429  
 (清有)(サヤケカル) 276  
 清有良武 451

(高有)(タカカラ)高有之 294  
 (無有)(ナカリ)無有世伐 387  
 (認有)(ツナゲル)認有神 404  
 (種有)(マケリ)種有世伐 405  
 (立有)(タテル)出立有 519  
 (思有)(オモヘリ)思有之 481  
 (オモヘレ)思有者 255  
 (念有)(オモヘリ)念有之 457  
 (オモヘル)念有 374  
 (憑有)(タノメリ) 460  
 憑有之人 473  
 憑有之皇子 519  
 (堤有)(ツツメル)堤有海 519  
 (借有)(カレル)借有身 966  
 (成有)(ナレル)成有山 519  
 (乘有)(ノレル)我乘有 365  
 (爲有)(セリ)蓋爾爲有 240  
 (臥有)(コヤセル) 415  
 臥有此旅人 421  
 君之臥有 422  
 (爾有)(ナラ)君爾有名國 575  
 (ナル)吉野爾有 375

(不有)(ザル)不離有牟 405  
 不戀有來 395  
 不戀有益雄 456  
 (來有)(ケル)名積來有鴨 335  
 (而有)(タル)卷四而有 366  
 朋(フタ)朋神之 482  
 服(コロモ)服 478  
 藤服 413  
 (キ)不服而 269  
 未服而 395  
 朕(アレ)朕 236  
 朝(アサ)朝 372  
 朝夕 456  
 朝霧 377  
 朝獵爾 458  
 朝鳥之 405  
 朝川渡 481  
 朝不離 485  
 (アサナ)朝旦 478  
 (アシタ)朝 481  
 (マキリク)朝樂毛 408  
 (朝開)(アサケ)寒朝開乎 262  
 361

(朝廷)(ミカド) 304  
 遠乃朝廷跡  
 木部  
 殖木 310  
 臣木毛 322  
 室木 447  
 船木 322  
 賢木 391  
 眞木之立 491  
 眞木葉 241  
 阿白木爾 379  
 木笑松原 291  
 足日木乃 264  
 足日木能 295  
 足水木乃 267  
 足檜木乃 466  
 木葉 477  
 木立 291  
 木末 477  
 木高 460  
 木足左右 414